

若年層の定住促進による地方創生 に関する調査研究

平成 28 年 3 月

石川県 金沢市
一般財団法人 地方自治研究機構

若年層の定住促進による地方創生に関する調査研究

平成 28 年 3 月

石川県 金沢市

一般財団法人 地方自治研究機構

はじめに

少子高齢化の進行に伴う本格的な人口減少社会が現実のものとなる中で、地方では雇用の安定や個人所得の緩やかな改善がみられ、地域経済の好循環に向けた動きが波及しつつある一方、地方公共団体を取り巻く環境の変化は厳しさを増しています。地方公共団体は、安心・安全の確保、地域産業の振興、地域の活性化、公共施設の維持管理等の複雑多様化する課題を地域の特性に即して解決していかなくてはなりません。

また、住民に身近な行政は、地方公共団体が自主的かつ主体的に取り組むとともに、地域住民が自らの判断と責任において地域の諸課題に取り組むことが重要となってきています。

このため、当機構では、地方公共団体が直面している諸課題を多角的・総合的に解決するため、個々の地方公共団体が抱える課題を取り上げ、当該地方公共団体と共同して、全国的な視点と地域の実情に即した視点の双方から問題を分析し、その解決方策の研究を実施しています。

本年度は8つのテーマを具体的に設定しており、本報告書は、そのうちの一つの成果を取りまとめたものです。

本研究の対象である金沢市は、圏域内に数多くの高等教育機関が集積しているため市内にも多くの学生が在籍していますが、一部の学生は、卒業と同時に圏域外に転出し、地元での就職・定住につながっていないことが課題となっています。本研究では、金沢市及び圏域の人口動態、学生の卒業後の就職意向、若年層の雇用の実態等を調査し、若年層の地元就職、定住の促進に資する取組の方向性等を検討しました。

本研究の企画及び実施に当たりましては、研究委員会の委員長及び委員をはじめ、関係者の方々から多くの御指導と御協力をいただきました。

また、本研究は、公益財団法人 地域社会振興財団の交付金を受けて、金沢市と当機構が共同で行ったものです。ここに謝意を表する次第です。

本報告書が広く地方公共団体の施策展開の一助となれば幸いです。

平成 28 年 3 月

一般財団法人 地方自治研究機構
理事長 山中 昭 栄

目次

序章 調査研究の概要.....	3
1. 調査研究の背景・目的・視点.....	3
2. 調査研究の流れと全体像.....	4
3. 調査研究の体制.....	5
第1章 金沢市の人口動態に関わる特徴.....	9
1. 金沢市の現状.....	9
2. 金沢市の将来人口.....	17
第2章 若年層の雇用等に関わる金沢市の経済環境分析.....	21
1. 金沢市全体の産業特性.....	21
2. 金沢市中心市街地の産業特性.....	29
第3章 若年層の就業及び社会移動等に関わる実態把握.....	35
1. 学生へのアンケート調査.....	35
2. 若年就労者へのアンケート調査.....	45
3. 大学へのヒアリング調査.....	54
4. 経済団体等へのヒアリング調査.....	60
5. 学生へのグループインタビュー調査.....	65
6. 市外からの移住者へのグループインタビュー調査.....	72
7. 各調査結果のまとめ.....	77
第4章 若年層の定住促進に向けた取組の方向性案.....	83
1. 基本的な考え方.....	83
2. 具体的な取組の方向性（案）.....	84
調査研究委員会名簿.....	99
資料編.....	103
1. 学生へのアンケート調査票.....	103
2. 学生へのアンケート調査結果の詳細.....	110
3. 若年就労者へのアンケート調査票.....	148
4. 若年就労者へのアンケート調査結果の詳細.....	154

序章 調査研究の概要

序章 調査研究の概要

1. 調査研究の背景・目的・視点

(1) 背景と目的

金沢市においては、圏域内に数多くの高等教育機関が集積し、人口10万人当たりの高等教育機関数が石川県全体で全国第2位となっているため、金沢市内にも多くの学生が在籍しているが、一部の学生は、卒業と同時に圏域外に転出し、地元での就職・定住につながっていないことが課題となっている。

そのような中、金沢市では今後想定される急激な人口減少や少子高齢化の進展を抑制するため、金沢市人口ビジョン及び金沢版総合戦略を策定し、「学都金沢の推進」をはじめとしたまち・ひと・しごと創生に向けた効果的な施策を展開している。

そこで、本調査研究では、金沢市及び圏域の人口動態、学生の卒業後の就職意向、若年層の雇用の実態等を踏まえ、若年層の地元就職、定住の促進に資する取組の方向性等を調査研究することを目的とする。

(2) 調査研究の視点

本調査研究では、若年層について、就学・就職の実態や意向の特徴を把握するだけでなく、若年層が考える金沢市の魅力・課題、金沢市への定住意向、望ましいまちづくりの方向性等を、データ分析、アンケート調査、ヒアリング調査等を通じて多角的に分析する。

若年層の雇用については、その受け皿となる金沢市の経済環境についても、業種、就業者年齢構成、売上（収入）金額、中心市街地における業務人口や事業所集積等の観点から分析する。

2. 調査研究の流れと全体像

(1) 金沢市と圏域における人口動態の現状・将来推計人口に関する特徴分析

人口動態に関わる市の特徴を、沿革、地勢、人口推移、自然動態、社会動態（金沢市と近隣市町、金沢圏域と県内他圏域や県外との人口流入出の状況等）等の視点から分析し、金沢市の将来人口の推計及び推計値に基づく影響を検討した。

(2) 若年層の雇用等に関わる金沢市の経済環境分析

若年層の雇用等に関わる経済環境として、既存統計データを基に、市内産業における業種別の従業者数、事業所数、売上（収入）金額、特化係数等を整理・分析した。また、特に中心市街地については、金沢市全域と比較した特徴も分析した。

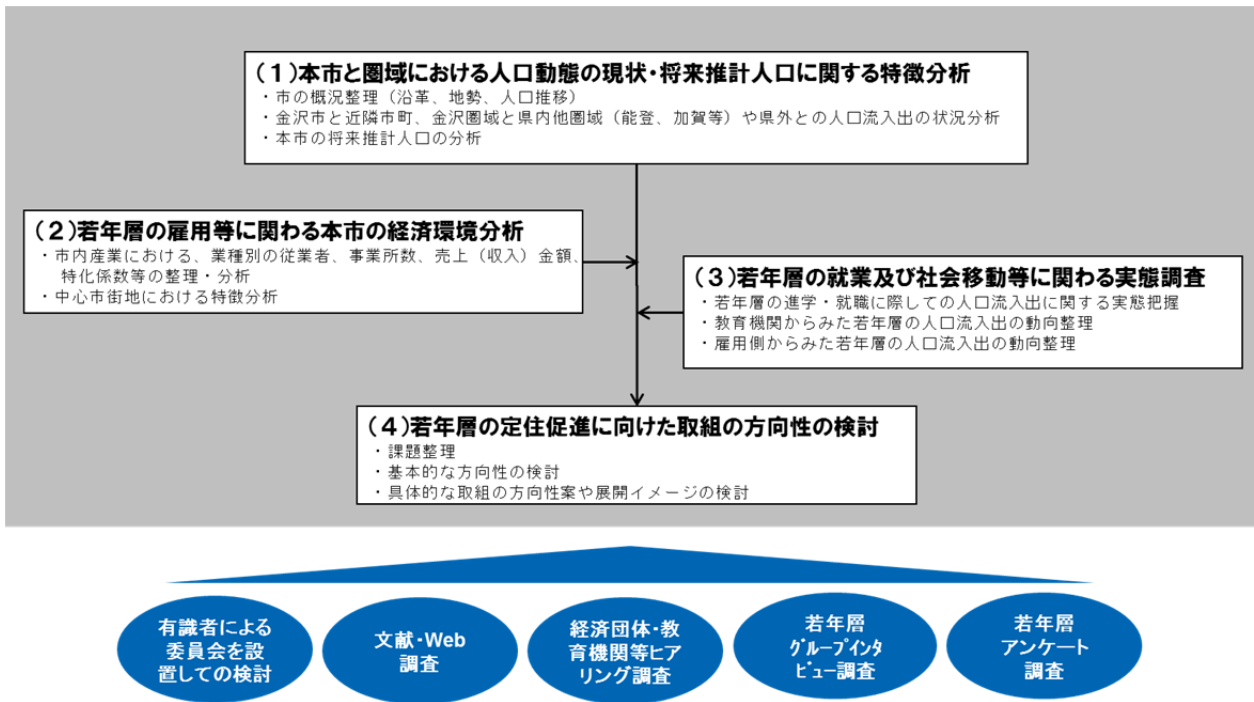
(3) 若年層の就業及び社会移動等に関する実態調査

若年層の進学・就職に際しての人口流入出に関する実態を、学生及び若年就労者に対するWebアンケート調査や、学生及び市外からの移住者に対するグループインタビュー調査によって把握した。また、教育機関及び雇用側からみた若年層の動向を、大学及び経済団体へのヒアリング調査によって把握した。

(4) 若年層の定住促進に向けた取組の方向性の検討

(1)から(3)の調査結果から得られた課題を整理し、そこから考えられる若年層の定住促進に向けた取組の基本的な方向性を整理した。また、それらの基本的方向性を更にブレイクダウンし、より具体的な取組の方向性や展開イメージを検討した。

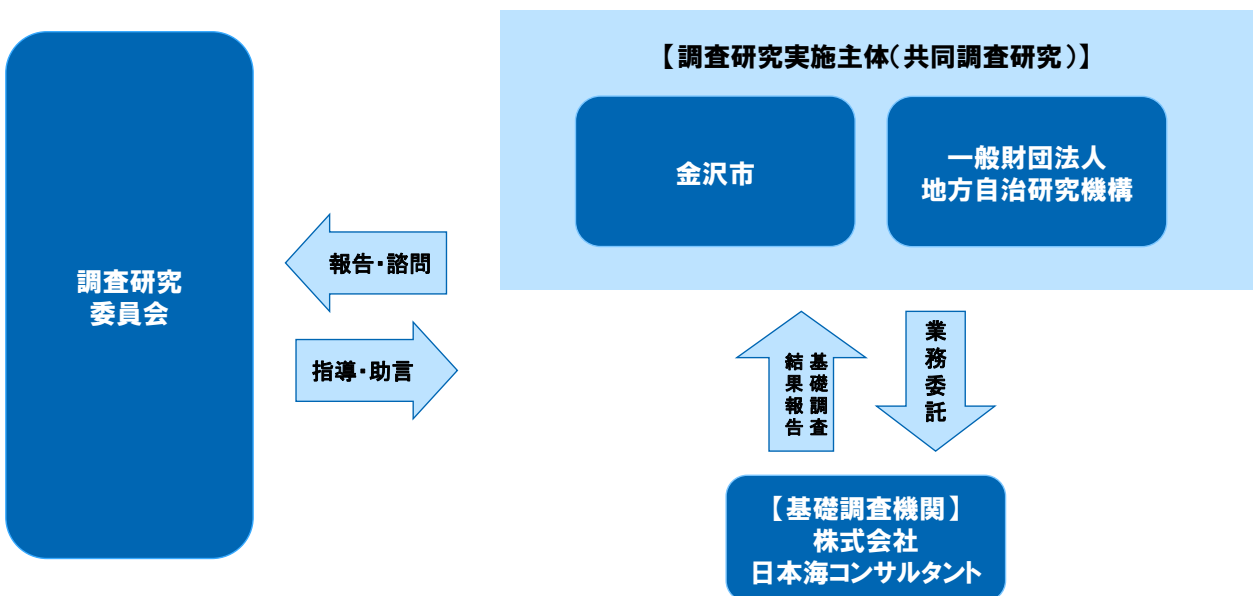
図表 序-1 調査研究の全体像



3. 調査研究の体制

本共同調査研究は、金沢市及び一般財団法人地方自治研究機構を実施主体として、以下の体制で、研究委員会の指導・助言の下、基礎調査機関として株式会社日本海コンサルタントの協力を得て実施した。

図表 序-2 調査研究の体制図



第1章 金沢市の人口動態に関わる特徴

第1章 金沢市の人口動態に関わる特徴

1. 金沢市の現状

(1) 概況

金沢市は、石川県のほぼ中央に位置し、東は富山県境から西は日本海まで東西 23.3 km、南は白山山麓から北の河北潟まで南北 37.3 km の範囲にあり、市域の南部を白山山系から連なる山地が占め、北部は金沢平野を経て、日本海に臨んでいる。

市街地は、寺町台、小立野台、卯辰山の三つの台地の間を犀川、浅野川の二つの河川が流れており、起伏に富んだ地形となっている。金沢の市域は、山と海、水と緑など自然環境に恵まれている。

金沢のまちの起こりは、蓮如の北陸地方の布教により一向宗徒の勢力が強まり、農民を中心とした信者が加賀の守護富樫政親を高尾城に滅ぼした後、真宗本願寺の末寺を「金沢御堂」として建立し、加賀一向宗の中心とし、以来、寺のまわりに、後町、南町などの町がつけられたのがはじまりと言われている。1580年（天正8年）佐久間盛政により金沢御堂は攻め滅ぼされ、盛政はここに「金沢城」を築いた。1583年（天正11年）盛政が賤ヶ岳で敗死したあと、七尾小丸山城にいた前田利家が金沢城に入城したのがこの年の6月14日と言われている。以来、加賀、能登、越中を合わせた加賀百万石の城下町として繁栄を続けることとなった。

1871年（明治4年）の廃藩後、金沢町となり、1889年（明治22年）4月1日市制が施行され、県庁所在地として行政、文化、経済の中心として発展を続け、1924年（大正13年）以来10数次にわたる隣接町村の合併により市街地規模の拡張を図り、今日に至っている。

図表 1-1-1 金沢市の位置



(2) 人口・世帯

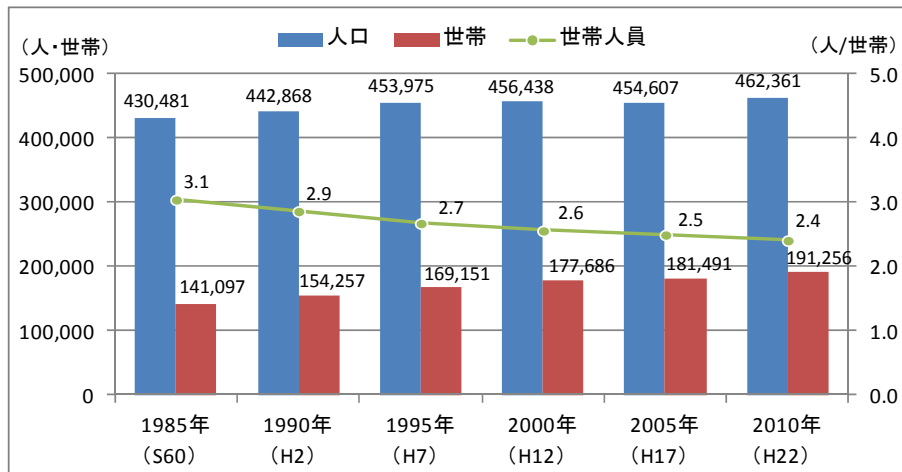
金沢市の2010年（H22）における人口は462,361人、世帯数は191,256世帯であり、近年では増加傾向にあるが、2010年（H22）における世帯人員は2.4人/世帯であり、近年では減少傾向にある。

一方、金沢市の2010年（H22）における年少（15歳未満）・生産年齢（15～64歳）人口は合わせて359,488人であり、年少・生産年齢人口を合わせて最も多かった1995年（H7）と比較すると32,062人（約10%）減少している。

2010年（H22）における高齢（65歳以上）人口は96,462人と、2000年（H12）以降、年少人口を上回り、2010年（H22）では21.2%を占めている。

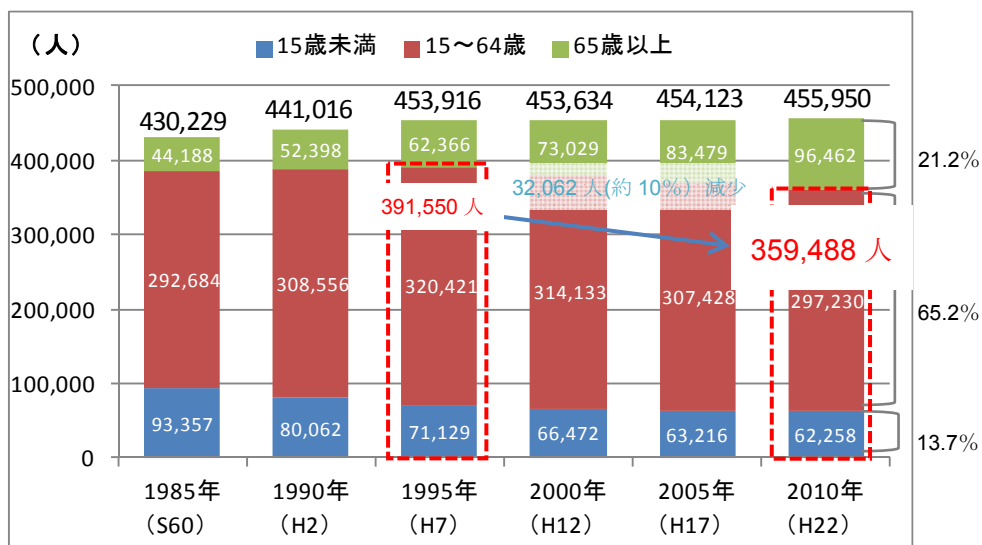
参考（国連報告書）：高齢化社会：高齢化率7～14%、高齢社会：高齢化率14～21%、超高齢社会：高齢化率21%以上

図表 1-1-2 人口・世帯・世帯人員の推移



資料：国勢調査

図表 1-1-3 年齢3区分別人口の推移



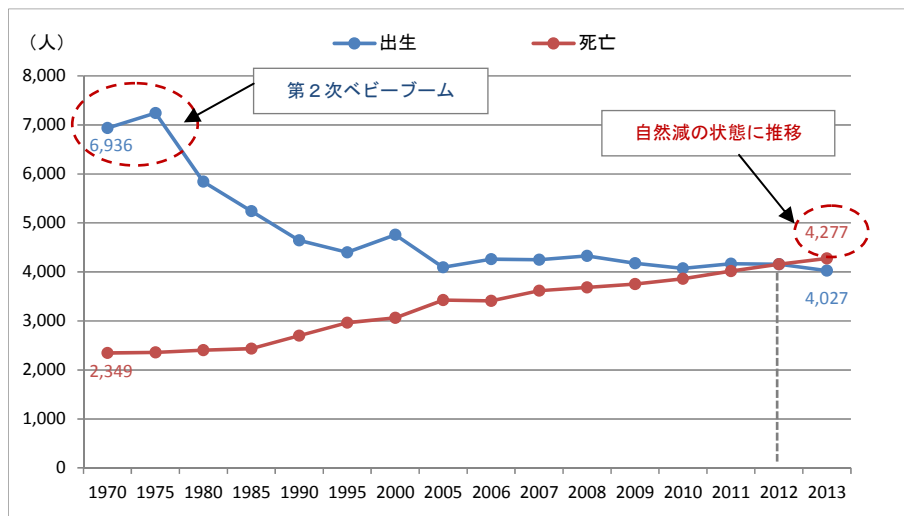
資料：国勢調査

(3) 自然動態

出生数は、1970年代前半の第2次ベビーブーム以降、急速に減少する一方、死亡数は1980年代半ばから増加し、2012年（H24）には、死亡数が出生数を上回り自然減に転じている。

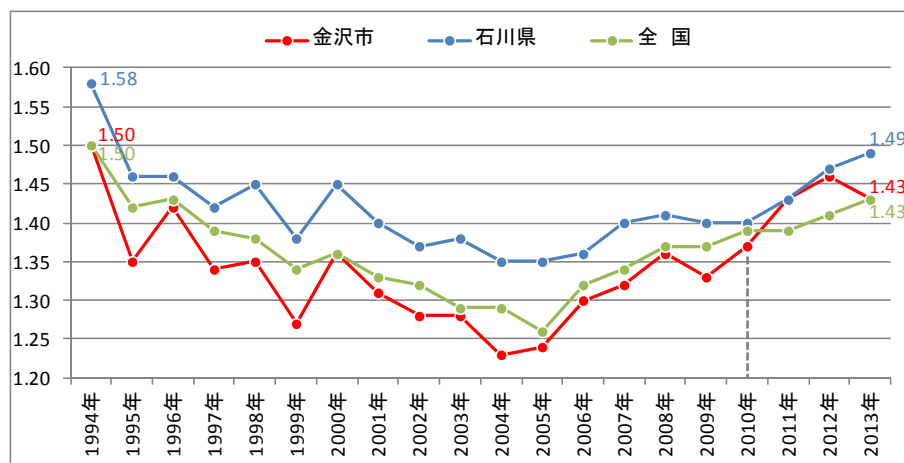
また、合計特殊出生率は2010年（H22）までは石川県や全国より低く推移していたが、2011年（H23）以降は全国や石川県とほぼ同水準で推移し、2013年（H25）では全国と同値の1.43となっている。

図表 1-1-4 自然動態の推移



資料：衛生年報

図表 1-1-5 合計特殊出生率の推移



資料：金沢市統計書

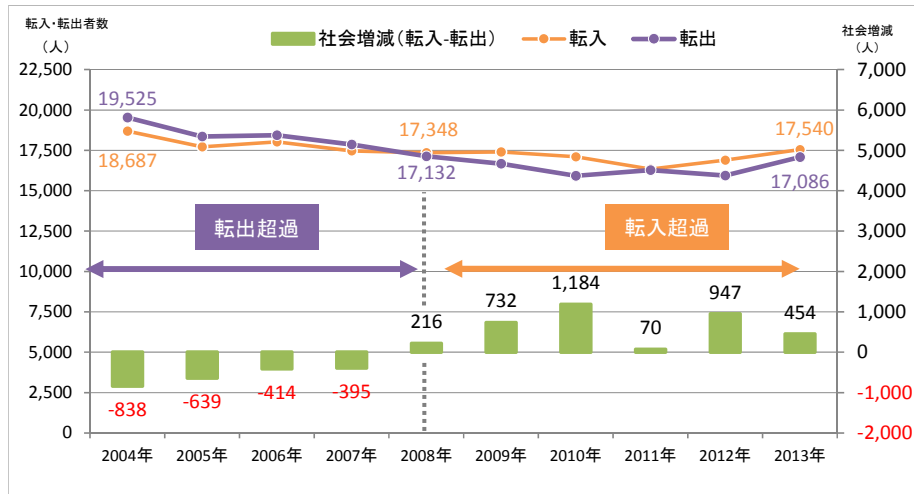
(4) 社会動態

①全体傾向

社会動態は2007年（H19）までは転出者数が転入者数を上回っていたが、近年では転入者数が転出者数を上回っており、社会動態は微増傾向にある。

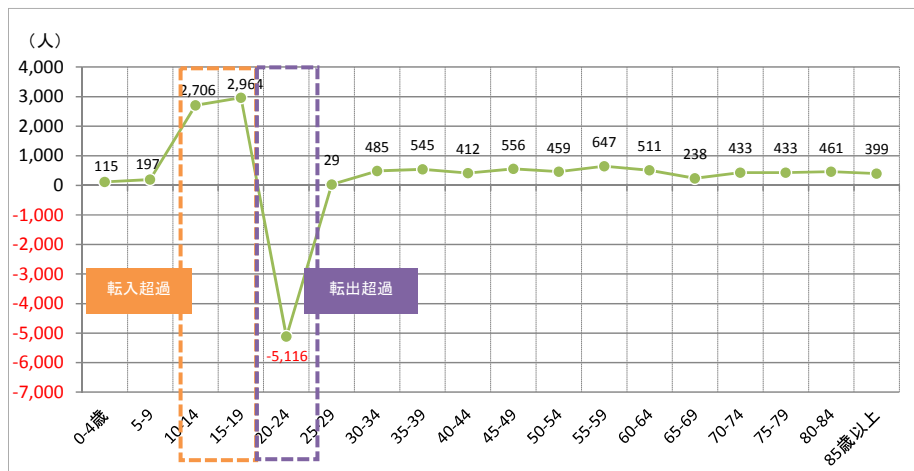
5歳階級別社会動態は「10-14歳」「15-19歳」の転入超過、「20-24歳」の転出超過の傾向が顕著であり、市内に集積する高等教育機関への進学や市外への就職の影響が大きいと想定される。

図表 1-1-6 社会動態の推移



資料：金沢市統計書

図表 1-1-7 年齢階級別社会動態の推移



資料：まち・ひと・しごと創生本部提供資料

【各年齢層で想定される社会動態】

「10～14歳→15～19歳」：小中学生の高校や大学への入学・卒業 等

「15～19歳→20～24歳」：高校生の大学への入学・卒業、大学生就職や社会人の転勤 等

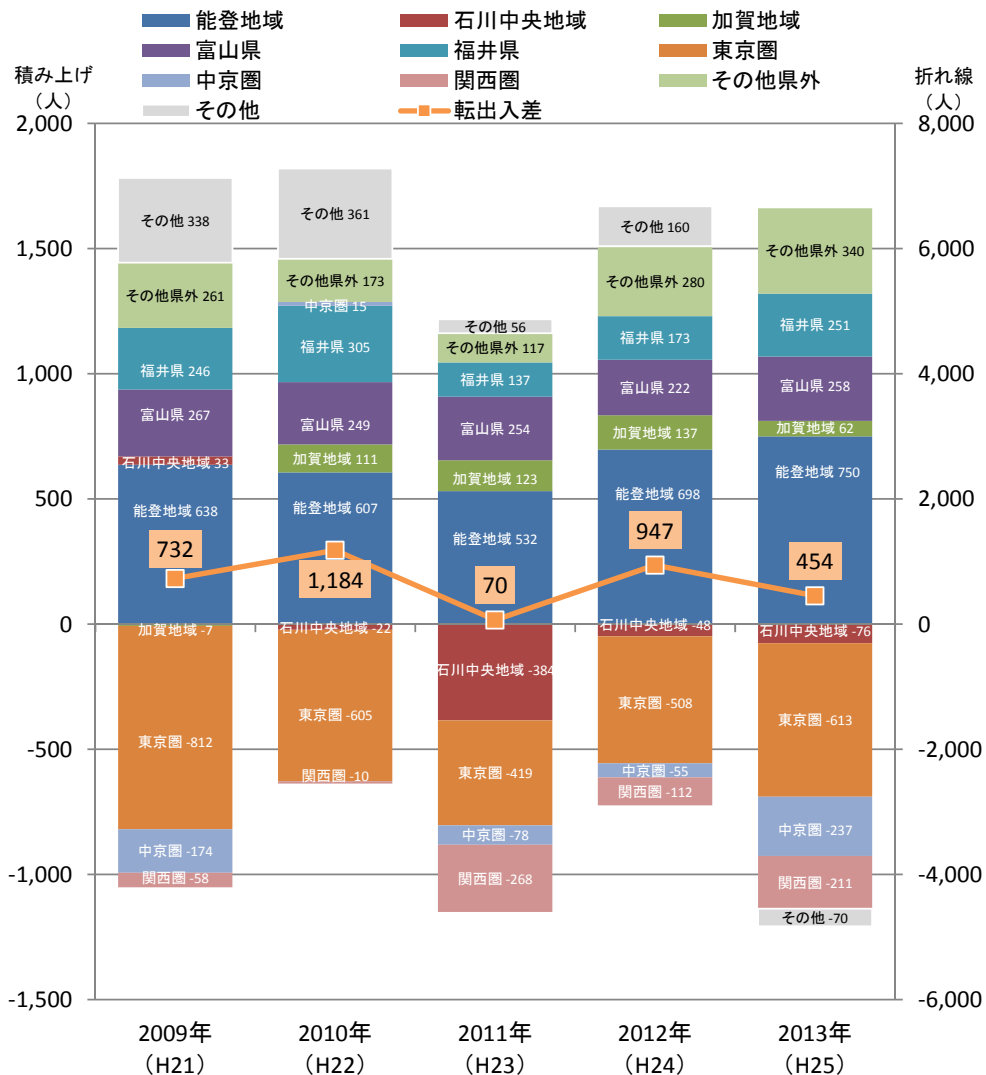
「20～24歳→25～29歳」：大学生の就職や社会人の転勤 等

②転出入先別社会動態の状況

転入は、能登地域からの転入が多く、毎年 500 名以上の転入超過となっており、県外では、富山県・福井県からの転入が多い。

転出は、東京圏、中京圏、関西圏への転出が多く、特に東京圏へは毎年 400 名以上が転出している。

図表 1-1-8 転出入先別社会動態の推移



資料: 金沢市統計書

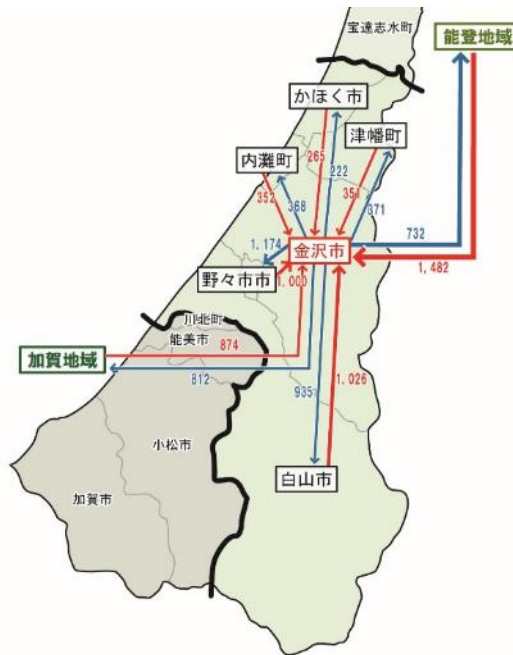
※能登地域：七尾市、輪島市、珠洲市、羽咋市、志賀町、宝達志水町、中能登町、穴水町、能登町の計
 石川中央地域：かほく市、津幡町、内灘町、野々市市、白山市
 加賀地域：小松市、加賀市、能美市、川北町の計
 東京圏：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県の計
 中京圏：岐阜県、愛知県、三重県の計
 関西圏：滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の計
 その他県外：富山県、福井県、東京圏、中京圏、関西圏以外の道県の計
 その他：入国（出国）、登録事由その他、社会矯正施設の計

③直近（2013年（H25））の転出入先別社会動態の状況

県内の近隣市町との社会動態は、野々市市（転入1,000名、転出1,174名）、白山市（転入1,026名、転出935名）、かほく市（転入265名、転出222名）、津幡町（転入351名、転出371名）、内灘町（転入352名、転出368名）となっており、野々市市、津幡町、内灘町は転出超過となっている。

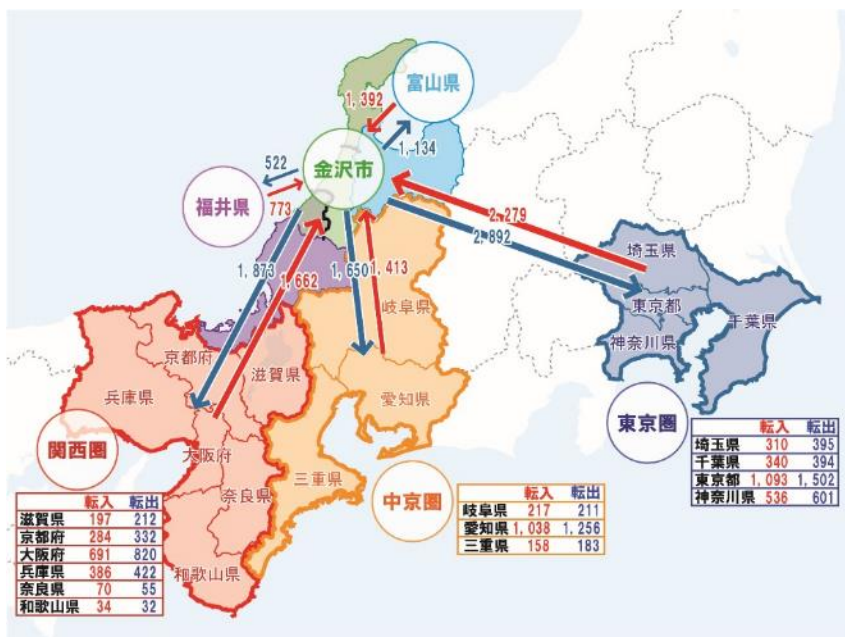
一方、県外では東京圏、中京圏、関西圏のいずれも転出超過となっており、隣県の富山県、福井県からは転入超過となっている。

図表 1-1-9 県内の転出入状況



資料: 金沢市統計書

図表 1-1-10 県外の転出入状況



資料: 金沢市統計書

図表 1-1-11 直近(2013年(H25))の転出入状況(詳細)

転出入先		転入 (A)	転出 (B)	移動総数 (A+B)	転入超過 (A-B)
県 内	能登地域	1,482	732	2,214	750
	かほく市	265	222	487	43
	津幡町	351	371	722	▲20
	内灘町	352	368	720	▲16
	野々市市	1,000	1,174	2,174	▲174
	白山市	1,026	935	1,961	91
	加賀地域	874	812	1,686	62
	富山県	1,392	1,134	2,526	258
	福井県	773	522	1,295	251
	東京圏	2,279	2,892	5,171	▲613
	中京圏	1,413	1,650	3,063	▲237
	関西圏	1,662	1,873	3,535	▲211

参考) 石川県内の学生と石川県出身の県外大学生の就職先

(いしかわ創生人口ビジョン(中間とりまとめ案)より)

県内の高校及び大学の卒業生の卒業後の就職先をみると、高校生は9割以上が県内に就職しているのに対し、大学生の県内就職率は4割程度となっている。

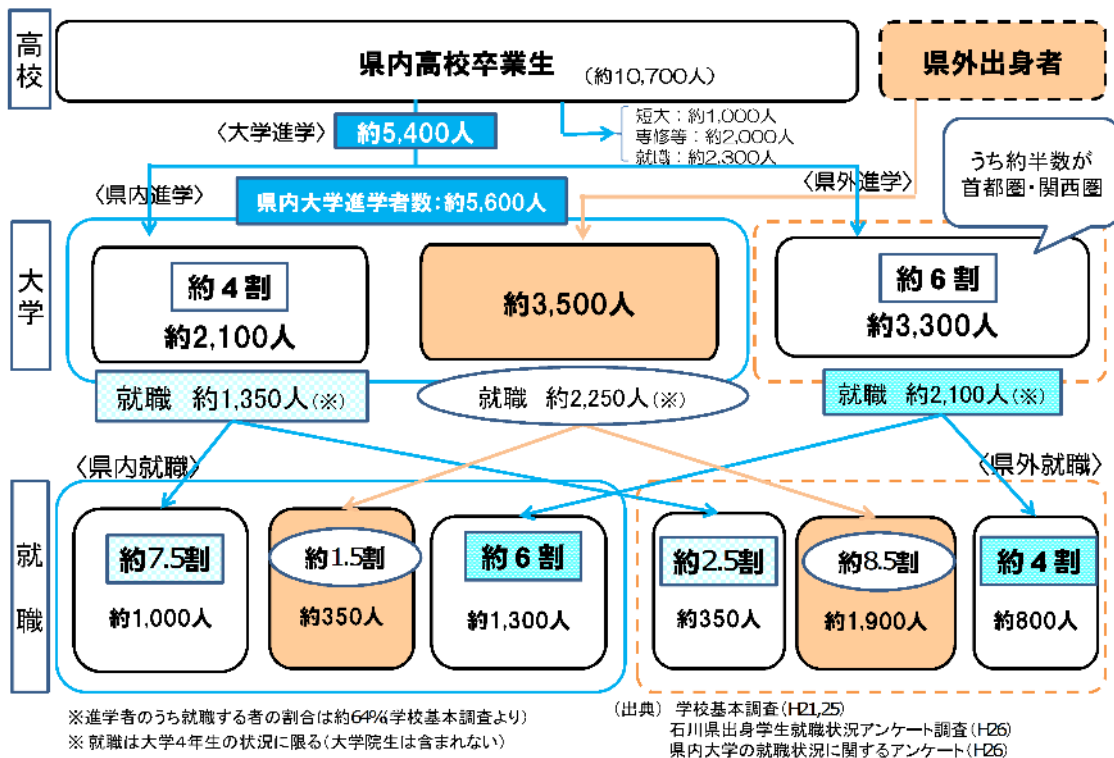
県内大学生及び県内出身の県外大学生の県内就職状況については、県内出身の県内大学生は約7.5割、県外出身の県内大学生は約1.5割、県内出身の県外大学生は約6割となっている。

図表 1-1-12 県内大学生及び高校生の卒業以後の就職地域

	地域	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
高校	県内	91.7%	92.7%	91.6%	91.6%	92.5%	93.6%	94.5%
	県外	8.3%	7.3%	8.4%	8.4%	7.5%	6.4%	5.5%
大学	県内	39.5%	39.5%	43.2%	43.2%	40.8%	41.0%	40.6%
	県外	60.5%	60.5%	56.8%	56.8%	59.2%	59.0%	59.4%

資料: 石川労働局調査を元に石川県作成(各年3月卒業)

図表 1-1-13 県内高校卒業生の進路



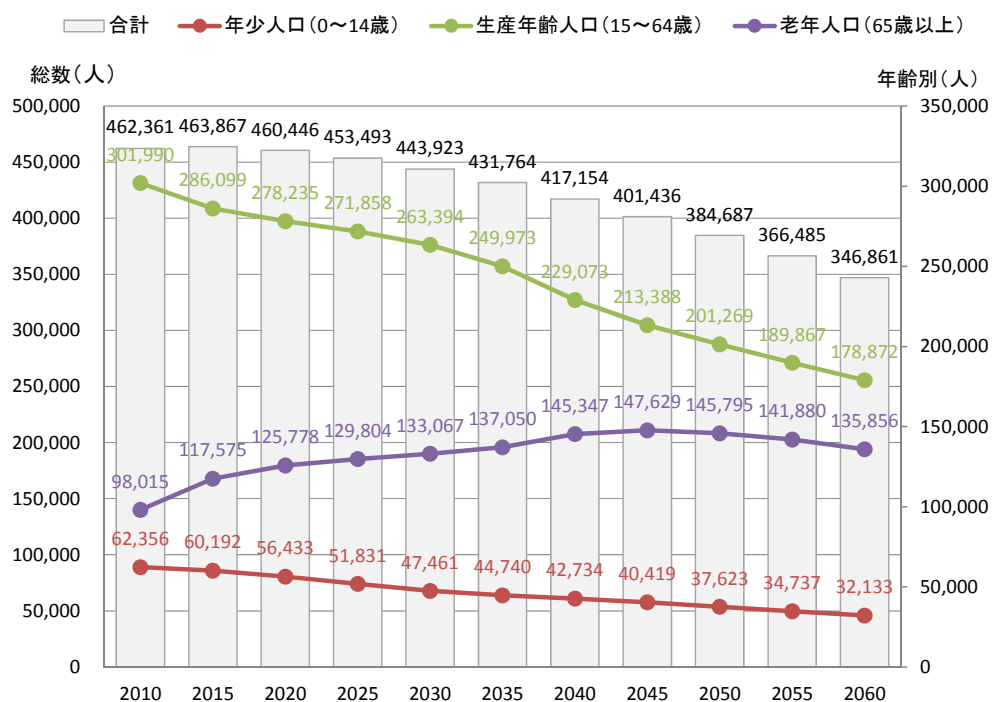
資料: 石川労働局調査を元に石川県作成(各年3月卒業)

2. 金沢市の将来人口

(1) 人口推計

国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」という）の推計をベースに、2060年（H72）までの金沢市の人口を推計（以下、「社人研推計準拠」という）すると、2060年（H72）の金沢市の人口は、約34万7千人に減少し、特に生産年齢人口（15～64歳）の減少が顕著であると予想される。

図表 1-2-1 年齢区分別将来人口



(2) 人口減少の影響

金沢市の総人口は、2060年（H72）には、約34万7千人まで減少すると見込まれており、年少人口（0～14歳）は2010年（H22）に比べ約3万人、生産年齢人口（15～64歳）は約12万3千人減少する一方で、老年人口（65歳以上）は約3万8千人増加するとされており、地域経済や市民生活において以下に示す影響が想定される。

○総人口が減少することによる影響

総人口の減少に伴い、税収の減少による財政の圧迫や日常生活に欠かせない生活関連サービスの撤退により、人口流出の増加が予想される。また、財政が圧迫されることにより市内の公共施設や各種行政サービスの維持が困難になると予想される。

○年少人口（0～14歳）が減少することによる影響

年少人口（0～14歳）の減少に伴い、小中学校の統廃合が進み、遠距離通学など学生への負担が大きくなることや、現在の学校区単位でのコミュニティ活動の衰退が懸念される。

○生産年齢人口（15～64歳）が減少することによる影響

生産年齢人口（15～64歳）の減少に伴い、労働力が低下し、生産性の低下や地域経済の縮小が予想されるほか、地域の祭り・行事等のコミュニティ活動の継続が困難になることが懸念される。また、金沢の伝統工芸や食文化に携わる職人等が不足し、これまで培ってきた技術の継承が困難になると考えられる。

○老年人口が増加することによる影響

老年人口の増加に伴い、更に高齢化が進展し、医療・介護における人材不足の深刻化や社会保障費の増大が予想されるほか、ひとり暮らしの高齢者世帯の増加など、高齢者の孤立が懸念される。

第2章 若年層の雇用等に関わる金沢市の経済環境分析

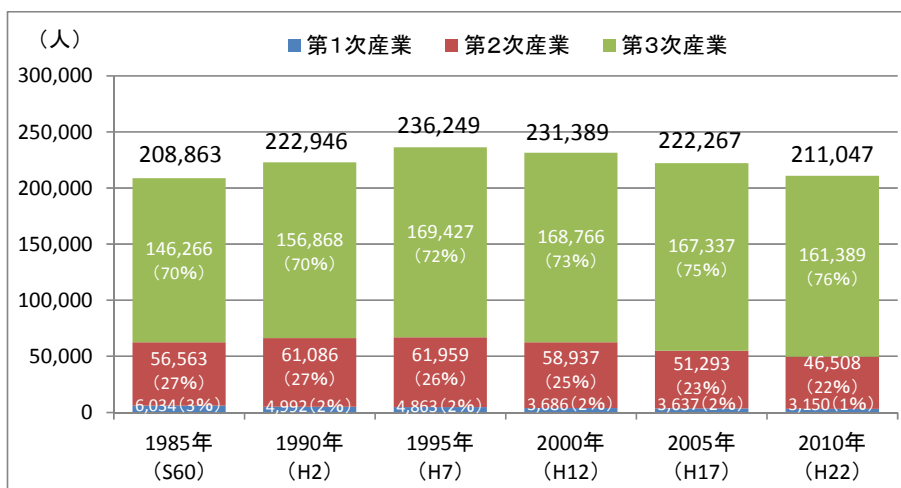
第2章 若年層の雇用等に関わる金沢市の経済環境分析

1. 金沢市全体の産業特性

(1) 就業人口

金沢市の就業人口は、生産年齢人口（15-64歳）の減少等により、産業3区分別人口はどの産業においても減少傾向にあり、産業3区分別人口の割合では第1次産業及び第2次産業の割合は微減傾向、第3次産業の割合は微増傾向にある。

図表 2-1-1 産業3区分別人口の推移

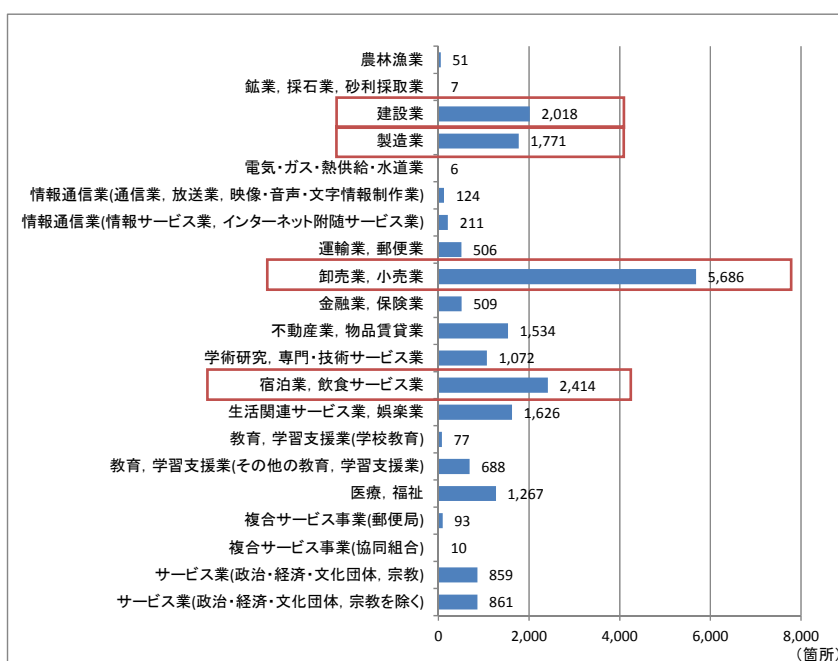


資料: 国勢調査

(2) 産業大分類別事業所数

金沢市の産業大分類別事業所数は「卸売業、小売業」が最も多く5,686箇所、次いで「宿泊業、飲食サービス業」が2,414箇所、「建設業」が2,018箇所、「製造業」が1,771箇所となっている。

図表 2-1-2 産業大分類別事業所数

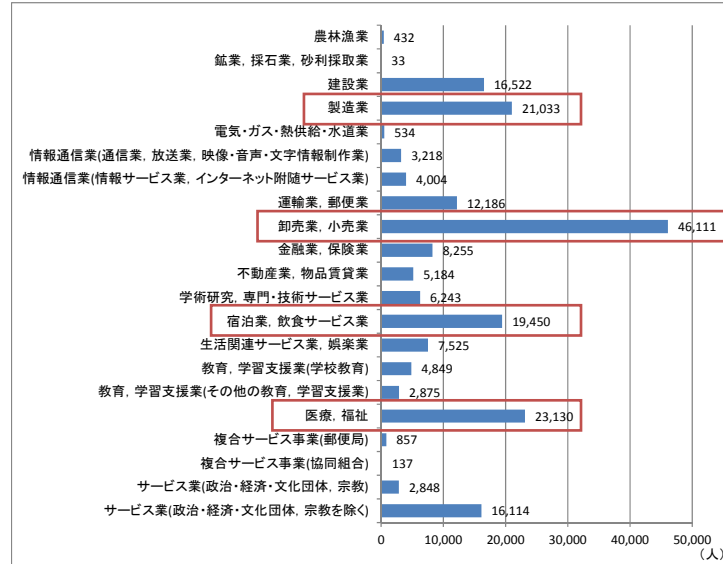


資料: H24 経済センサス

(3) 産業大分類別従業者数

金沢市の産業大分類別従業者数は「卸売業、小売業」が最も多く 46,111 人、次いで「医療・福祉」が 23,130 人、「製造業」が 21,033 人、「宿泊業、飲食サービス業」が 19,450 人となっている。

図表 2-1-3 産業大分類別従業者数

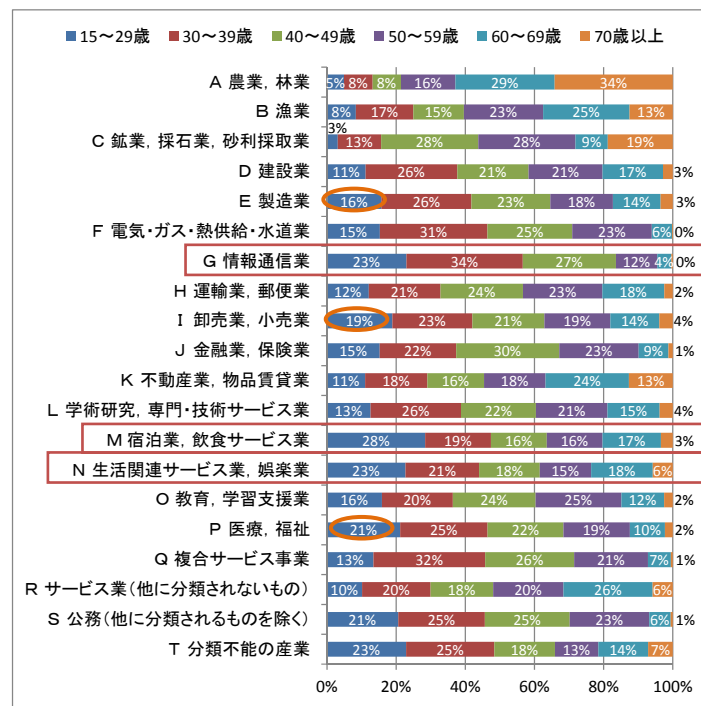


資料:H24 経済センサス

(4) 年齢階級別従業者割合

年齢階級別従業者割合において 30 歳未満の年齢階級の割合は「宿泊業、飲食サービス業」が 28%、「情報通信業」「生活関連サービス業、娯楽業」等が共に 23%と多くなっている。全体の従業者数が多い「卸売業、小売業」「製造業」は 20%未満、「医療、福祉」は 21%となっている。

図表 2-1-4 年齢階級別従業者割合

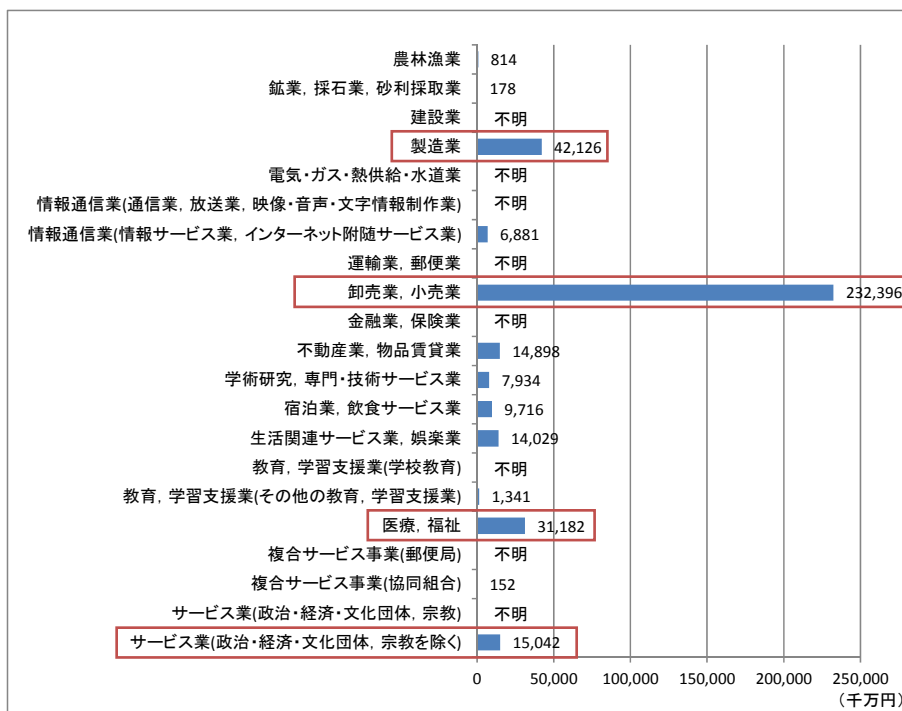


資料:H22 国勢調査

(4) 経済規模

産業大分類別売上（収入）金額は「卸売業、小売業」が 232,396 千万円、「製造業」が 42,126 千万円、「医療・福祉」 31,182 千万円、「サービス業（政治・経済・文化団体、宗教を除く）」が 15,042 千万円と多くなっている。

図表 2-1-5 産業大分類別売上(収入)金額



資料: H24 経済センサス

(5) 基盤産業

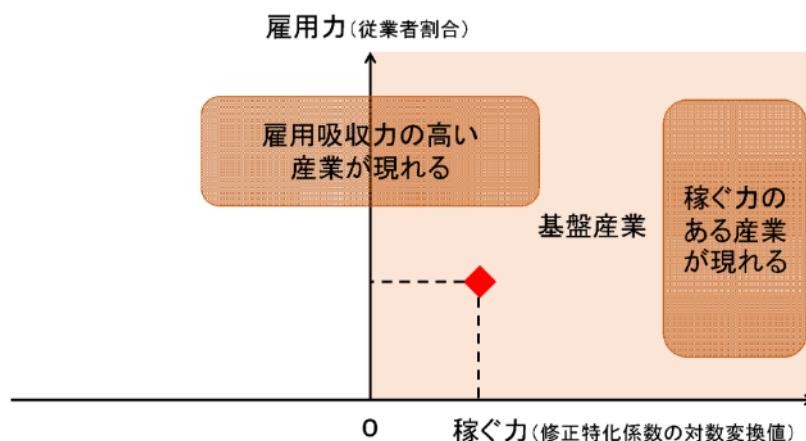
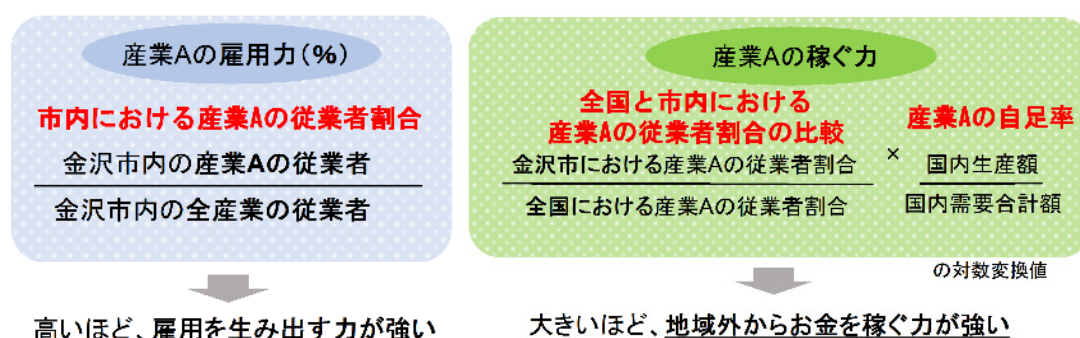
総務省では、既に公表している2012年（H24）経済センサス-活動調査、2009年（H21）経済センサス-基礎調査及び2010年（H22）国勢調査の結果を加工・グラフ化し、市町村ごとに「地域の産業・雇用創造チャート（中分類）」として提供しており、これらのデータを用いて域外を主たる販売市場とした基盤産業を抽出した。

①地域の産業・雇用創造チャートの考え方

地域の産業・雇用創造チャートでは「雇用力」と「稼ぐ力」の数値によって示されている。「雇用力」は、金沢市内の全産業に対する各産業の従業者の割合によって表され、数値が高いほど雇用を生み出す力が強いと示されている。一方、「稼ぐ力」は各産業における全国の従業者割合と市内の従業者割合を比較した特化係数に各産業の自足率を乗じた値の対数変換値（修正特化係数）で表されており、数値がゼロ以上の産業は地域外からお金を稼ぐ力が強い産業として示されている。

ただし、本分析では「各産業の労働生産性に地域差がないと仮定していること」「稼ぐ力の特化係数はまちの規模を考慮した数値ではないこと」「第一次産業の修正特化係数の実態との乖離が大きくなりがちなこと」が留意点として挙げられている。

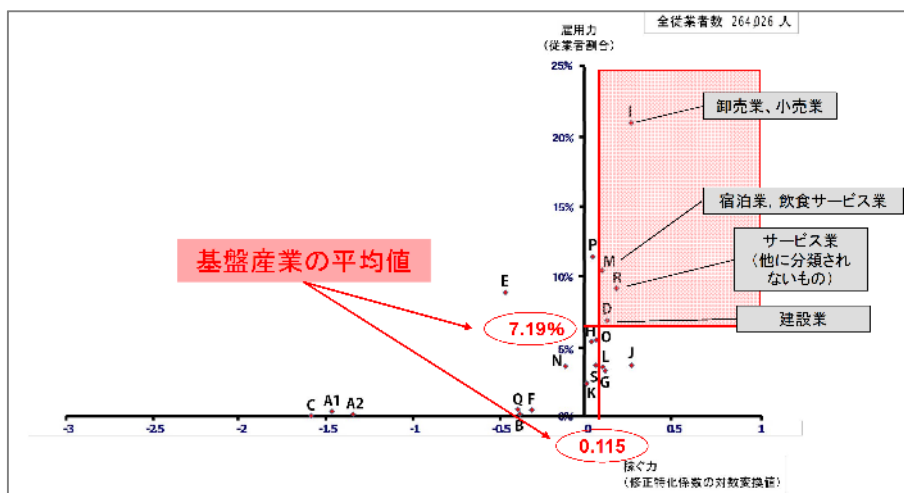
図表 2-1-6 基盤産業の考え方



②産業大分類別基盤産業

金沢市の産業大分類項目のうち、2012年（H24）経済センサス-活動調査結果を用いた基盤産業には12項目挙げられるが、その中でも特に「卸売業、小売業」「宿泊業、飲食サービス業」「サービス業（他に分類されないもの）」「建設業」が雇用力、稼ぐ力共に基盤産業の平均値よりも高い産業となっている。

図表 2-1-7 産業大分類別基盤産業



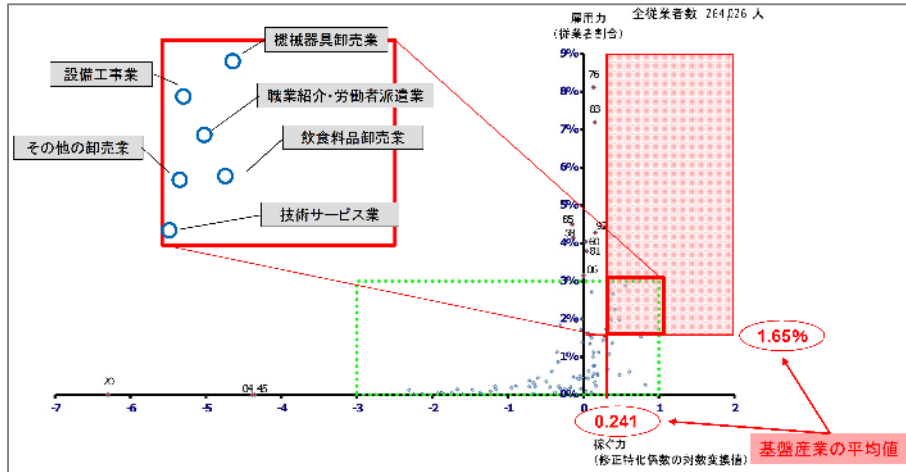
図表 2-1-8 雇用力と稼ぐ力(一覧)

	雇用力 (%)	稼ぐ力
A1 農業	0.13	-1.470
A2 林業	0.03	-1.351
B 漁業	0.06	-0.358
C 鉱業, 採石業, 砂利採取業	0.02	-1.601
D 建設業	7.38	0.143
E 製造業	8.81	-0.484
F 電気・ガス・熱供給・水道業	0.37	-0.293
G 情報通信業	3.14	0.134
H 運輸業, 郵便業	5.36	0.017
I 卸売業, 小売業	21.03	0.270
J 金融業, 保険業	3.39	0.268
K 不動産業, 物品賃貸業	2.43	0.013
L 学術研究, 専門・技術サービス業	3.26	0.090
M 宿泊業, 飲食サービス業	10.47	0.122
N 生活関連サービス業, 娯楽業	3.89	-0.105
O 教育, 学習支援業	5.43	0.048
P 医療, 福祉	11.93	0.026
Q 複合サービス事業	0.38	-0.423
R サービス業(他に分類されないもの)	9.19	0.191
S 公務(他に分類されるものを除く)	3.34	0.063
平均	5.00	-0.235

③産業中分類別基盤産業

金沢市の産業中分類項目のうち、2012年（H24）経済センサス - 活動調査結果を用いた基盤産業には44項目挙げられるが、その中でも特に「機械器具卸売業」「設備工事業」「職業紹介・労働者派遣業」「飲食料品卸売業」「その他の卸売業」「技術サービス業」が雇用力、稼ぐ力共に基盤産業の平均値よりも高い産業となっている。

図表 2-1-9 産業中分類別基盤産業



図表 2-1-10 雇用力と稼ぐ力(一覧)

	雇用力(%)	稼ぐ力		雇用力(%)	稼ぐ力
01農業	0.13	-1.470	50各種商品卸売業	0.03	-0.665
02林業	0.03	-1.351	51繊維・衣服等卸売業	0.44	0.037
03漁業(水産養殖業を除く)	0.06	0.105	52飲食料品卸売業	1.98	0.473
04水産養殖業	0.00	-4.387	53建築材料、鉱物・金属材料等卸売業	1.53	0.762
05鉱業、採石業、砂利採取業	0.02	-1.601	54機械器具卸売業	2.87	0.553
06総合工事業	3.15	0.001	55その他の卸売業	1.98	0.370
07職別工事業(設備工事業を除く)	1.57	0.082	56各種商品小売業	0.63	0.067
08設備工事業	2.66	0.387	57織物・衣服・身の回り品小売業	1.47	0.287
09食料品製造業	1.83	-0.310	58飲食料品小売業	4.14	-0.137
10飲料・たばこ・飼料製造業	0.07	-1.367	59機械器具小売業	1.50	0.110
11繊維工業	0.62	-0.421	60その他の小売業	4.04	0.031
12木材・木製品製造業(家具を除く)	0.09	-1.230	61店舗小売業	0.41	-0.042
13家具・装備品製造業	0.20	-0.445	62銀行業	1.07	0.339
14パルプ・紙・紙加工品製造業	0.21	-0.637	63協同組織金融業	0.53	0.479
15印刷・関連連業	0.78	0.143	64貸金業、クレジットカード業等非預金信用機関	0.15	-0.251
16化学工業	0.14	-1.672	65金融商品取引業、商品先物取引業	0.16	-0.033
17石油製品・石炭製品製造業	0.00	-2.750	66補助的金融業等	0.05	0.110
18プラスチック製品製造業(別掲を除く)	0.37	-0.712	67保険業(保険媒介代理業、保険サービス業を含む)	1.44	0.260
19ゴム製品製造業	0.03	-2.133	68不動産取引業	0.49	-0.046
20なめし革・同製品・毛皮製造業	0.00	-6.297	69不動産賃貸業・管理業	1.38	-0.016
21窯業・土石製品製造業	0.18	-0.951	70物品賃貸業	0.55	0.137
22鉄鋼業	0.06	-1.880	71学術・開発研究機関	0.26	-0.648
23非鉄金属製造業	0.04	-1.923	72専門サービス業(他に分類されないもの)	1.12	0.133
24金属製品製造業	0.87	-0.338	73広告業	0.16	-0.307
25はん用機械器具製造業	0.15	-1.158	74技術サービス業(他に分類されないもの)	1.73	0.297
26生産用機械器具製造業	1.63	0.793	75宿泊業	1.35	0.087
27業務用機械器具製造業	0.21	-0.715	76飲食店	8.11	0.132
28電子部品・デバイス・電子回路製造業	0.21	-1.170	77持ち帰り・配達飲食サービス業	1.01	0.130
29電気機械器具製造業	0.44	-0.606	78洗濯・理容・美容・浴場業	2.00	-0.025
30情報通信機械器具製造業	0.32	-0.663	79その他の生活関連サービス業	0.77	0.133
31輸送用機械器具製造業	0.13	-2.311	80娯楽業	1.12	-0.348
32その他の製造業	0.23	-0.898	81学校教育	3.79	0.041
33電気業	0.20	-0.169	82その他の教育、学習支援業	1.63	0.059
34ガス業	0.01	-1.838	83医療業	7.20	0.148
35熱供給業	0.00	-	84保健衛生	0.23	0.167
36水道業	0.15	-0.187	85社会保険・社会福祉・介護事業	4.50	-0.149
37通信業	0.61	0.609	86郵便局	0.33	0.153
38放送業	0.26	0.820	87協同組合(他に分類されないもの)	0.05	-1.745
39情報サービス業	1.73	-0.031	88廃棄物処理業	0.47	-0.128
40インターネット附属サービス業	0.06	-0.380	89自動車整備業	0.46	-0.027
41映像・音声・文字情報制作業	0.48	0.120	90機械等修理業(別掲を除く)	0.43	0.060
42鉄道業	0.43	-0.077	91職業紹介・労働者派遣業	2.25	0.414
43道路旅客運送業	1.13	0.205	92その他の事業サービス業	4.28	0.154
44道路貨物運送業	2.71	0.109	93政治・経済・文化団体	0.66	0.324
45水運業	0.00	-4.355	94宗教	0.55	0.187
46航空運輸業	0.01	-2.245	95その他のサービス業	0.10	0.036
47倉庫業	0.21	-0.326	97国家公務	1.36	0.381
48運輸に附帯するサービス業	0.35	-0.492	98地方公務	1.98	-0.108
49郵便業(信書便事業を含む)	0.52	0.189	平均	1.03	-0.454

④近年、稼ぐ力が伸びている産業

金沢市の産業中分類項目は、2009年（H21）から2012年（H24）にかけて「各種商品卸売業」が2.305、「水運業」が0.820、「電子部品・デバイス・電子回路製造業」が0.660、「輸送用機械器具製造業」が0.585、「航空運輸業」が0.502稼ぐ力が増加しており、他の分類より伸びが大きくなっている。

また、「漁業（水産養殖業を除く）」「宿泊業」「道路貨物運送業」「各種商品小売業」「その他の教育、学習支援業」の稼ぐ力はマイナスの値からプラスに転じており、基盤産業に成長している。

図表 2-1-11 近年稼ぐ力が伸びている産業

大分類	中分類	増加分
I.卸売業、小売業	50.各種商品卸売業	2.305
H.運輸業、郵便業	45.水運業	0.820
E.製造業	28.電子部品・デバイス・電子回路製造業	0.660
E.製造業	31輸送用機械器具製造業	0.585
H.運輸業、郵便業	46航空運輸業	0.502

図表 2-1-12 稼ぐ力がマイナスの値からプラスの値に転じた産業

大分類	中分類	2009年 (H21)	2012年 (H24)
B.漁業	03.漁業(水産養殖業を除く)	-0.107	0.105
M.宿泊業、飲食サービス業	75.宿泊業	-0.090	0.087
H.運輸業、郵便業	44.道路貨物運送業	-0.039	0.109
I.卸売業、小売業	56.各種商品小売業	-0.026	0.067
O.教育、学習支援業	82.その他の教育、学習支援業	-0.018	0.059

(6) 金沢市全体の産業特性（まとめ）

金沢市の産業大分類別事業所数、従業者数、30歳未満の従事者数、売上（収入）金額では「卸売業、小売業」「製造業」「宿泊業、飲食サービス業」が共通して多くなっている。

産業大分類別における基盤産業は、12項目挙げられるが、その中でも「卸売業、小売業」「宿泊業、飲食サービス業」「サービス業（他に分類されないもの）」「建設業」の雇用力及び稼ぐ力が基盤産業の中でも高くなっている。また、産業中分類別基盤産業は44項目挙げられるが、その中でも「機械器具卸売業」「設備工事業」「職業紹介・労働者派遣業」「飲食料品卸売業」「その他の卸売業」「技術サービス業」の雇用力及び稼ぐ力が基盤産業の中でも高くなっている。

図表 2-1-13 金沢市全体の産業特性

項目	産業（左から上位を示す）			
事業所数	卸売業、小売業	宿泊業、飲食サービス業	建設業	製造業
従業者数	卸売業、小売業	医療・福祉	製造業	宿泊業、飲食サービス業
30歳未満の年代が従事している産業	宿泊業、飲食サービス業	情報通信業	生活関連サービス業、娯楽業	分類不能
売上（収入）金額	卸売業、小売業	製造業	医療・福祉	サービス業（政治・経済・文化団体、宗教を除く）

図表 2-1-14 金沢市の主な基盤産業

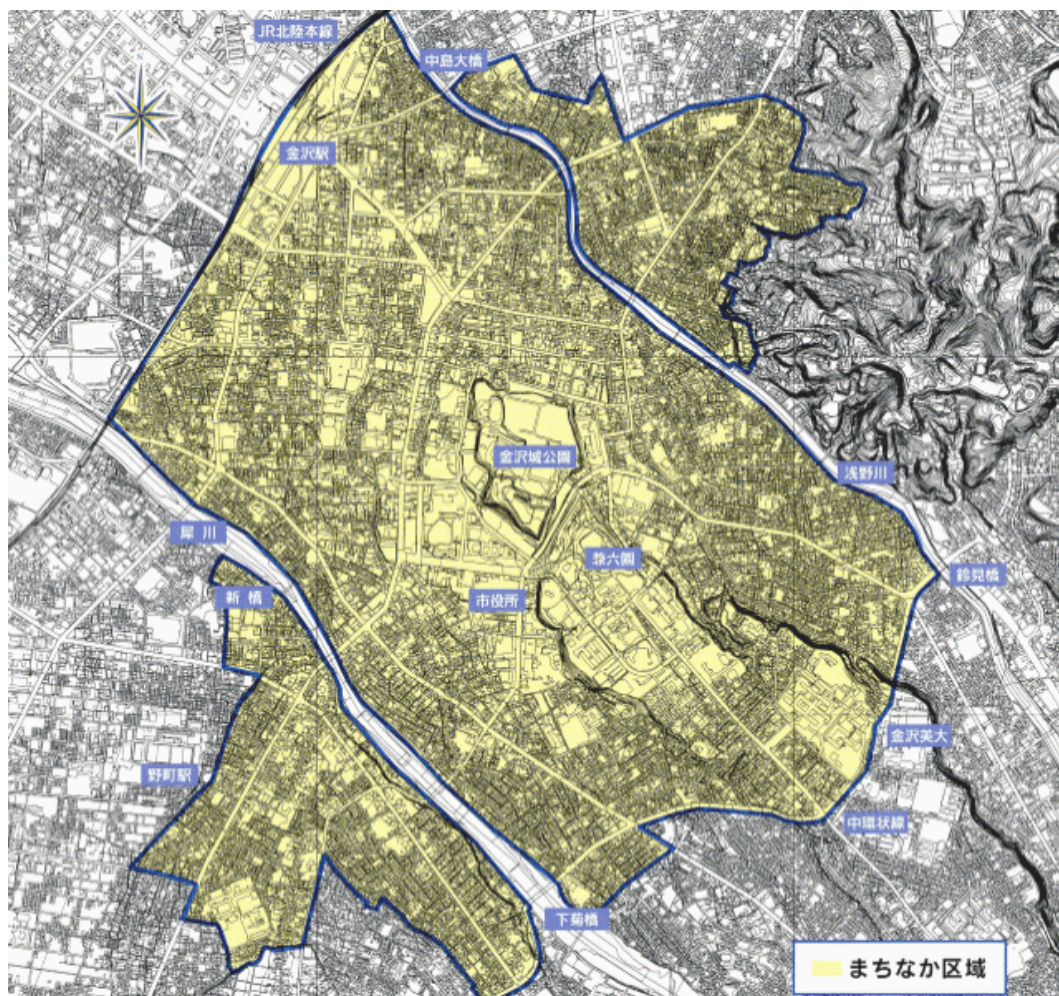
項目	産業					
基盤産業（大分類）	卸売業、小売業	宿泊業・飲食サービス業	サービス業（他に分類されないもの）	建設業	-	-
基盤産業（中分類）	機械器具卸売業	設備工事業	職業紹介・労働者派遣業	飲食料品卸売業	その他の卸売業	技術サービス業
稼ぐ力が伸びている産業（中分類）	各種商品卸売業	水運業	電子部品・デバイス・電子回路製造業	輸送用機械器具製造業	航空運輸業	-
稼ぐ力がプラスに転じた産業（中分類）	漁業（水産養殖業を除く）	宿泊業	道路貨物運送業	各種商品小売業	その他の教育、学習支援業	-

2. 金沢市中心市街地の産業特性

金沢市では、中心市街地（以下、「まちなか区域」という）への定住を推進しており、当区域における職住近接の環境づくりに向け、産業大分類別の事業所数・従業者数・基盤産業を整理し、その産業特性を把握した。

※「まちなか」は「金沢市中心市街地活性化基本計画」で定義された「中心市街地」をいう。

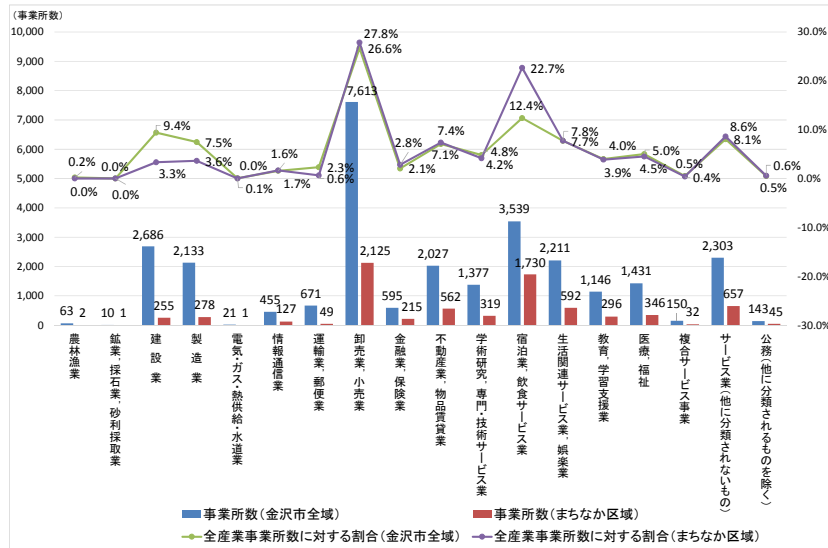
図表 2-2-1 金沢市中心市街地(まちなか)



(1) 産業大分類別事業所数

まちなか区域は「卸売業、小売業」「宿泊業、飲食サービス業」「サービス業（他に分類されないもの）」の占める割合が高いほか、金沢市全域に比べて「宿泊業、飲食サービス業」等が高く、「建設業」「製造業」「運輸業、郵便業」等が低くなっている。

図表 2-2-2 金沢市全域及びまちなか区域の産業大分類別事業所数

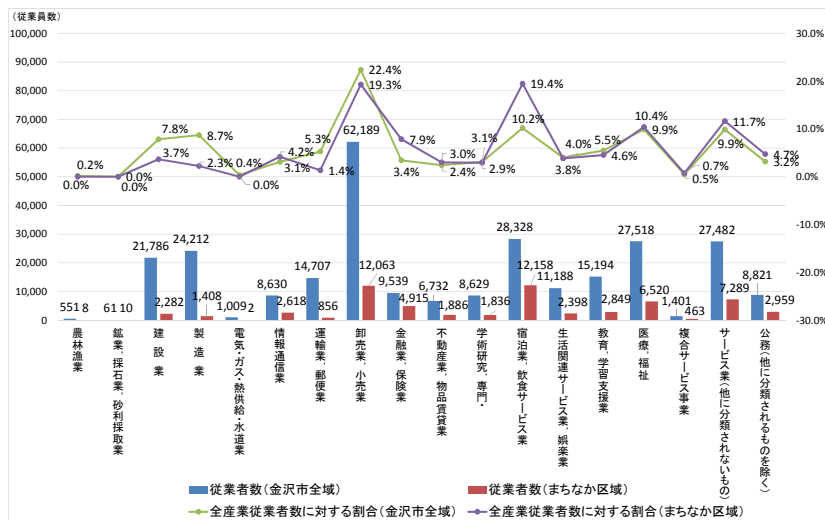


資料: H21 経済センサス-基礎調査

(2) 産業大分類別従業者数

まちなか区域は「宿泊業、飲食サービス業」「卸売業、小売業」「サービス業（他に分類されないもの）」の占める割合が高いほか、金沢市全域に比べて「宿泊業、飲食サービス業」「金融業、保険業」等が高く、「建設業」「製造業」「運輸業、郵便業」等が低くなっている。

図表 2-2-3 金沢市全域及びまちなか区域の産業大分類別従業者数

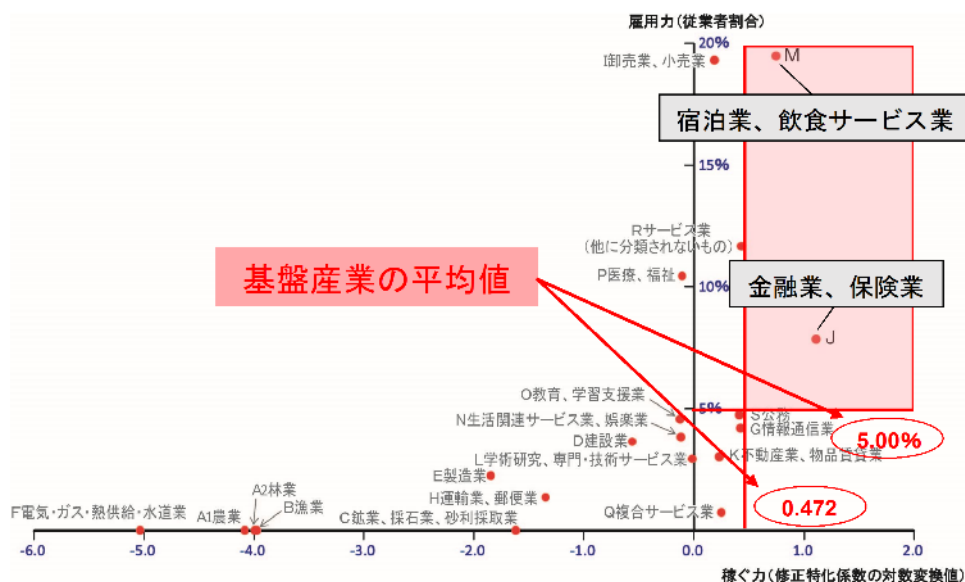


資料: H21 経済センサス-基礎調査

(3) まちなか区域の産業大分類別基盤産業

まちなか区域の産業大分類項目のうち、2009年（H21）経済センサス - 基礎調査を用いた基盤産業には8項目挙げられるが、その中でも特に「宿泊業、飲食サービス業」、「金融業、保険業」が雇用力、稼ぐ力共に基盤産業の平均値よりも高い産業となっている。

図表 2-2-4 まちなか区域の産業大分類別基盤産業



◇まちなか区域における基盤産業の考え方◇

金沢市内の基盤産業の算出式において、「金沢市」の従事者の値を「まちなか区域」の値に置き換え算出している。

■産業Aの雇用力（縦軸）

まちなか区域における産業Aの従業者割合
 (=まちなか区域の産業Aの従業者/まちなか区域の全産業の従業者)

■産業Aの稼ぐ力（横軸）

全国とまちなか区域における産業Aの従業者割合の比較（特化係数）…①
 (=まちなか区域における産業Aの従業者割合/全国における産業Aの従業者割合)
 産業Aの自足率…②
 (=国内生産額/国内需要合計額)
 とした場合の①×②の対数変換値

(4) まちなか区域の産業特性（まとめ）

まちなか区域の産業大分類別事業所数、従業者数は「卸売業、小売業」「宿泊業、飲食サービス業」「サービス業（他に分類されないもの）」が共通して多く、金沢市全域に比べ事業所は「宿泊業、飲食サービス業」、従業者は「宿泊業、飲食サービス業」「金融、保険業」の割合が高くなっている。

産業大分類別基盤産業は、8項目挙げられるが、その中においても、「宿泊業、飲食サービス業」「金融業、保険業」の雇用力及び稼ぐ力が基盤産業の中でも高くなっている。

図表 2-2-5 まちなか区域の産業特性

項目	産業（左から上位を示す）		
事業所数	卸売業、小売業	宿泊業、飲食サービス業	サービス業 （他に分類されないもの）
従業者数	宿泊業、飲食サービス業	卸売業、小売業	サービス業 （他に分類されないもの）

図表 2-2-6 まちなか区域の主な基盤産業

項目	産 業	
基盤産業 （大分類）	宿泊業、飲食サービス業	金融業、保険業

第3章 若年層の就業及び社会移動等に関する実態把握

第3章 若年層の就業及び社会移動等に関わる実態把握

1. 学生へのアンケート調査

(1) 調査概要

①調査目的

若年層の進学や就職に際しての人口流出入の実態や意向を把握することを目的に実施した。

②調査対象

金沢市に在住の高等教育機関に通学する学生

北陸圏（金沢市を除く石川県、富山県、福井県）に在住の高等教育機関に通学する学生

東京圏（東京都、埼玉県、神奈川県、千葉県）に在住の高等教育機関に通学する学生

③調査実施方法

インターネットを用いたアンケート調査を実施した。

④調査実施期間

平成27年8月27日～9月4日

⑤回収数

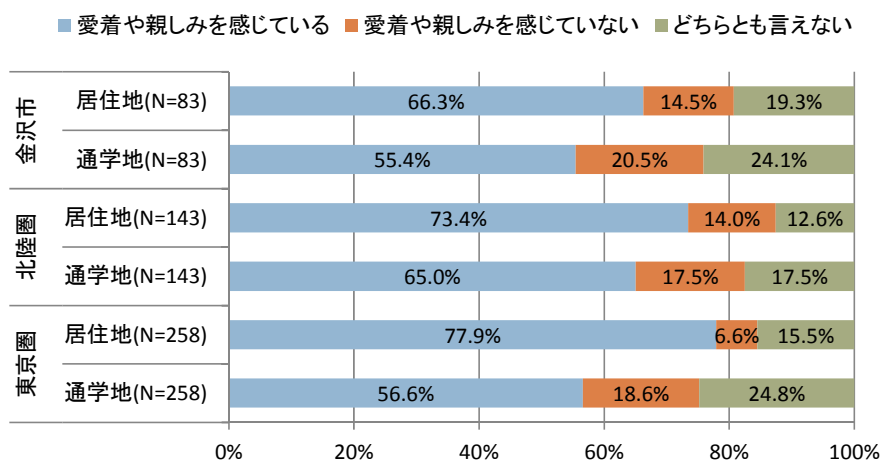
484票（金沢市83票、北陸圏143票、東京圏258票）

(2) 調査結果概要

①居住地・通学地に対する愛着・親しみ（当てはまる項目を1つ選択）

居住地に対して「愛着や親しみを感じている」と回答した割合は“東京圏”に住む学生が最も多く77.9%を占め、通学地に対しては“北陸圏”に住む学生が最も多く65.0%となっている。

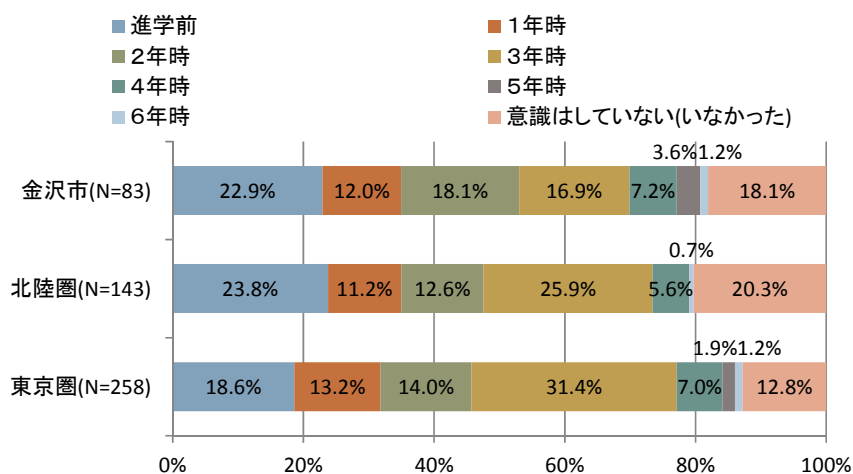
図表 3-1-1 居住地・通学地に対する愛着・親しみ



②就職を意識した時期（当てはまる項目を1つ選択）

“金沢市”や“北陸圏”に住む学生は、「進学前」の割合が“東京圏”に住む学生と比べて高いが、「意識はしていない(いなかった)」の割合も高くなっている。

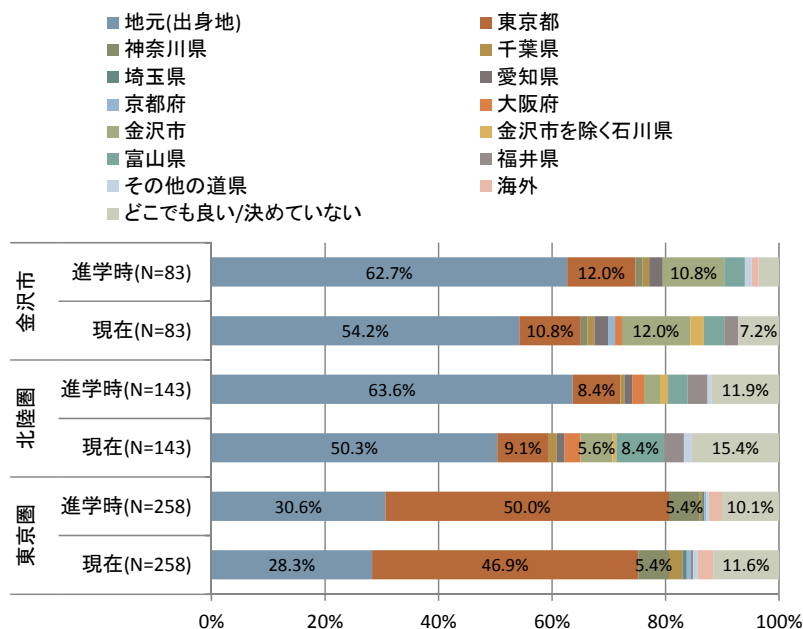
図表 3-1-2 就職を意識した時期



③就職したい場所（当てはまる項目を1つ選択）

“金沢市”や“北陸圏”に住む学生は、進学時、現在共に「地元（出身地）」が最も多いが、“東京圏”に住む学生では進学時、現在共に「東京都」が最も多くなっている。

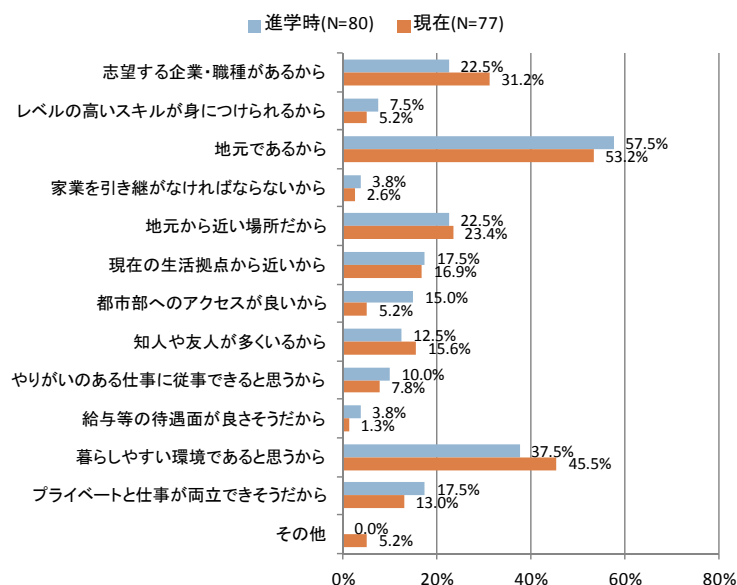
図表 3-1-3 就職したい場所



④就職したい場所を選択した理由（当てはまる項目を3つまで選択）

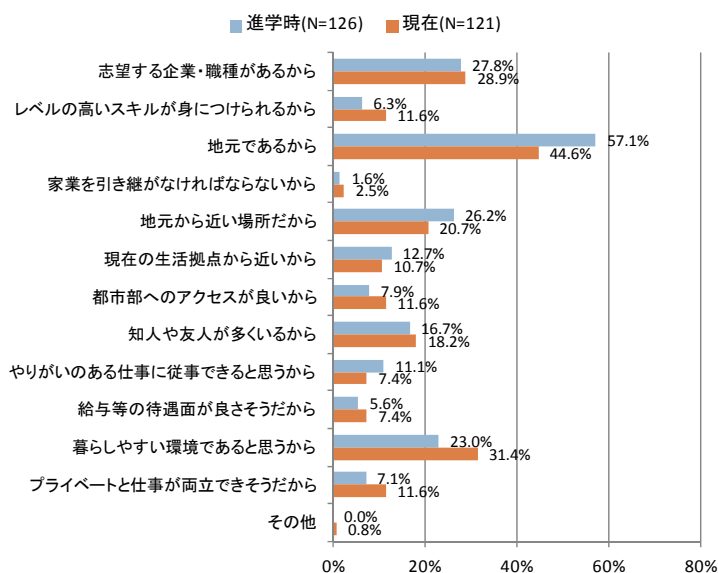
「地元（出身地）」への就職意向が高かった“金沢市”に住む学生の就職したい場所を選択した理由については、「地元であるから（進学時：57.5%、現在：53.2%）」や「暮らしやすい環境であると思うから（進学時：37.5%、現在：45.5%）」が高くなっている。“進学時”と比べて“現在”では「志望する企業・職種があるから」が8.7ポイント、「暮らしやすい環境であると思うから」が8.0ポイント高くなっている。

図表 3-1-4 就職したい場所を選択した理由(金沢市)



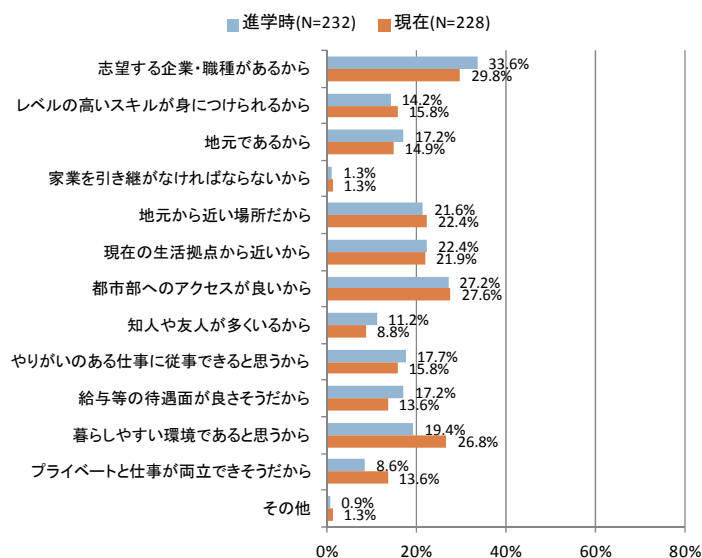
「地元（出身地）」への就職意向が高かった「北陸圏」に住む学生の就職したい場所を選択した理由については、「地元であるから（進学時：57.1%、現在：44.6%）」「暮らしやすい環境であると思うから（進学時：23.0%、現在：31.4%）」「志望する企業・職種があるから（進学時：27.8%、現在：28.9%）」が高くなっている。「進学時」と比べて「現在」は「地元であるから」が12.5ポイント低く、「暮らしやすい環境であると思うから」が8.4ポイント高くなっている。

図表 3-1-5 就職したい場所を選択した理由(北陸圏)



「東京都」への就職意向が高かった「東京圏」に住む学生の就職したい場所を選択した理由については、「志望する企業・業種があるから（進学時：33.6%、現在：29.8%）」や「都市部へのアクセスが良いから（進学時：27.2%、現在：27.6%）」が高くなっている。「進学時」と比べて「現在」は「暮らしやすい環境であると思うから」が7.4ポイント、「プライベートと仕事が両立できそうだから」が5.0ポイント高くなっている。

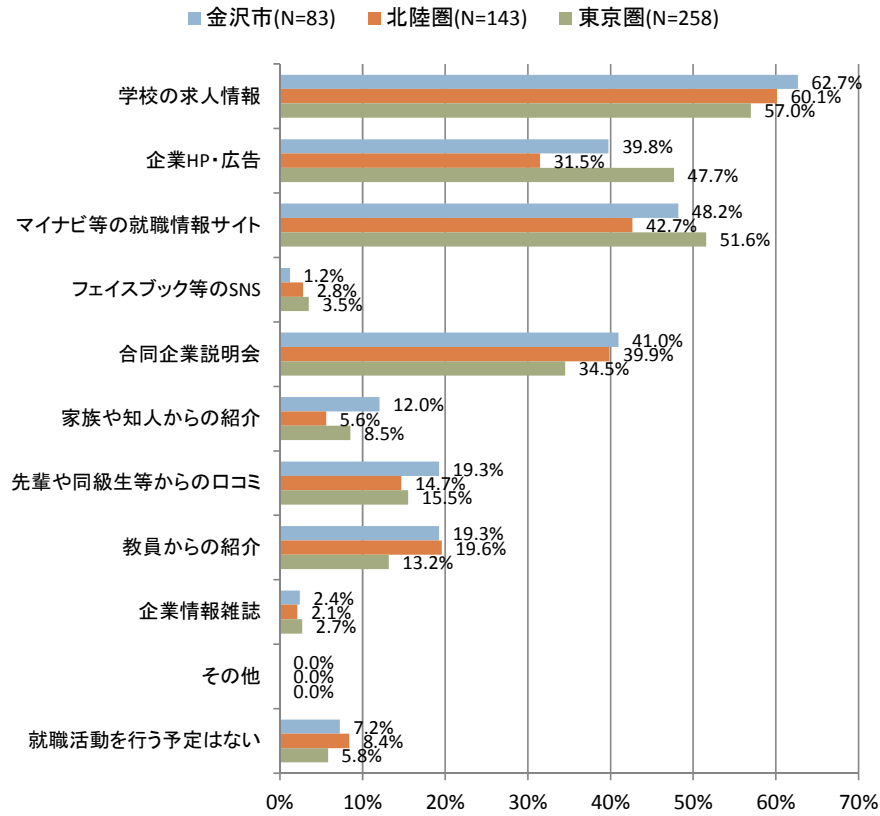
図表 3-1-6 就職したい場所を選択した理由(東京圏)



⑤就職活動時の情報源（当てはまる項目を3つまで選択）

“東京圏”に住む学生は「企業HP・広告」が47.7%を占め、他の居住地と比べて7.9ポイント以上高くなっている。一方、“金沢市”や“北陸圏”に住む学生では「合同企業説明会」や「教員からの紹介」が“東京圏”に住む学生と比べて高くなっている。

図表 3-1-7 就職活動時の情報源

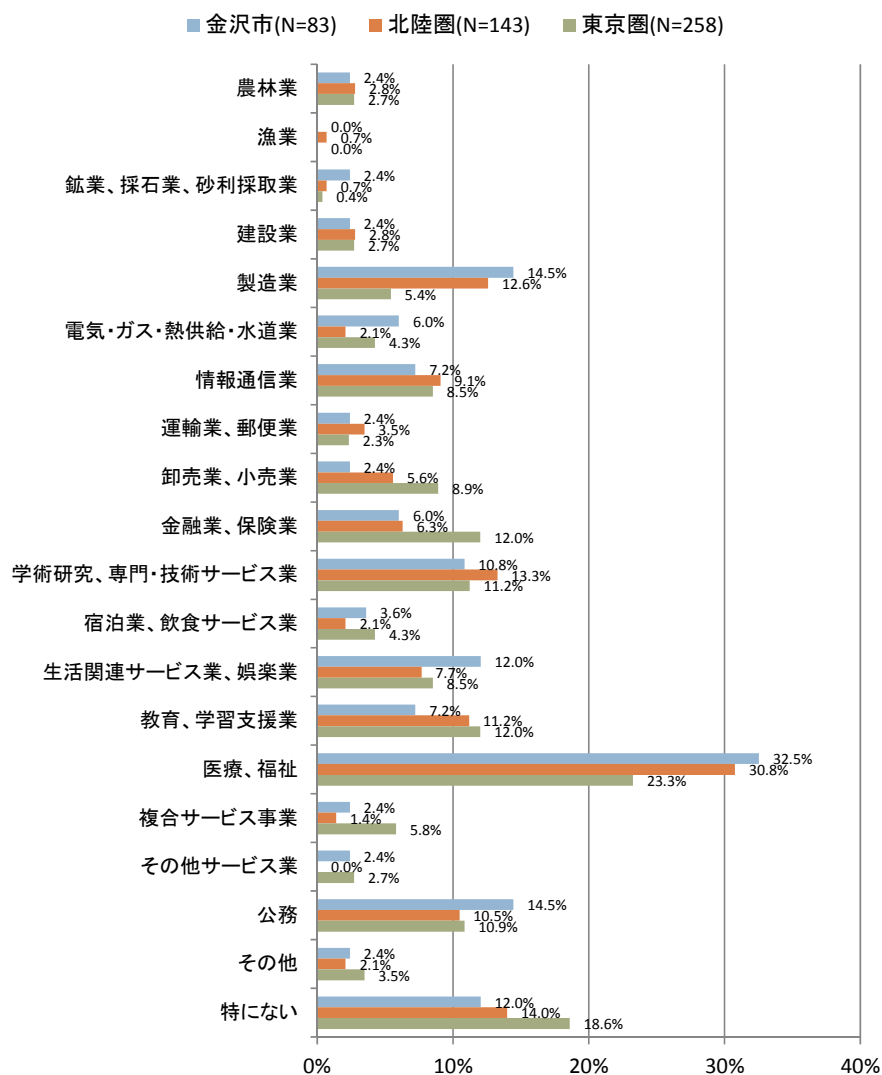


⑥就職したい業種（当てはまる項目を3つまで選択）

“金沢市”に住む学生は「医療・福祉」「製造業」「公務」、「北陸圏」に住む学生は「医療・福祉」「学術研究、専門・技術サービス業」「製造業」、「東京圏」に住む学生は「医療・福祉」「金融業・保険業」「教育、学習支援業」の順に割合が高くなっている。

「製造業」や「医療、福祉」においては、“金沢市”や“北陸圏”に住む学生が“東京圏”に住む学生と比べて高くなっている。一方、「金融業、保険業」は、“東京圏”に住む学生が他の居住地と比べて5.7ポイント以上高くなっている。

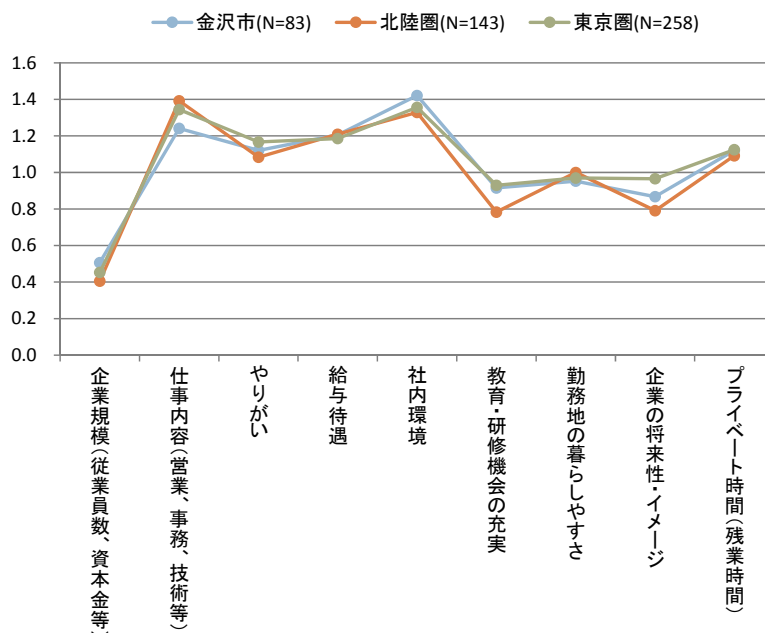
図表 3-1-8 就職したい業種



⑦就職の決め手となる条件（各項目について5段階評価）

就職の決め手となる条件について、“金沢市”や“東京圏”に住む学生は「社内環境」、「北陸圏」に住む学生は「仕事内容（営業、事務、技術等）」が最も重視されている。一方、「企業規模（従業員数、資本金等）」は他の項目と比べ、重視されていない。

図表 3-1-9 就職の決め手となる条件



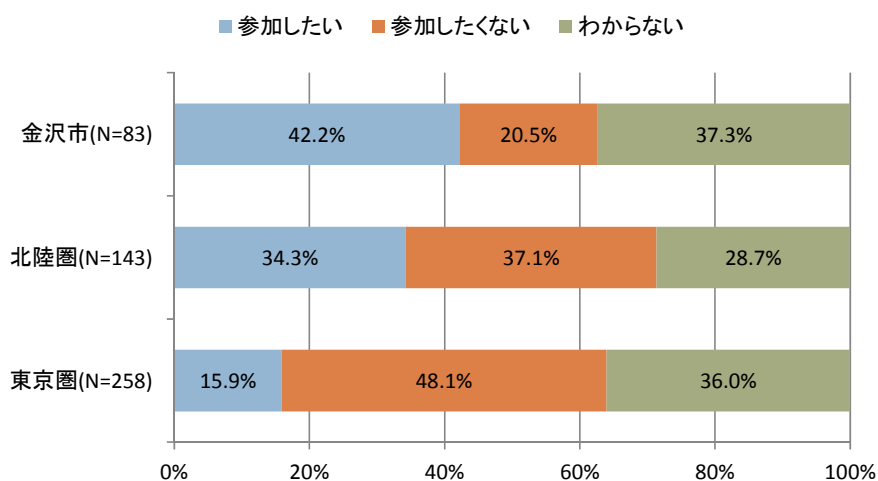
～算出方法～

・「とても重視する」：+2点、「やや重視する」：+1点、「どちらでもない」：0点、「それほど重視しない」：-1点、「重視しない」：-2点として加重平均値を算出している。

⑧金沢市の企業へのインターンシップ参加意向（当てはまる項目を1つ選択）

金沢市の企業へのインターンシップ参加意向については“金沢市”や“北陸圏”に住む学生の30%以上が参加意向を示しているが、“東京圏”に住む学生は、約半数が「参加したくない」と回答している。

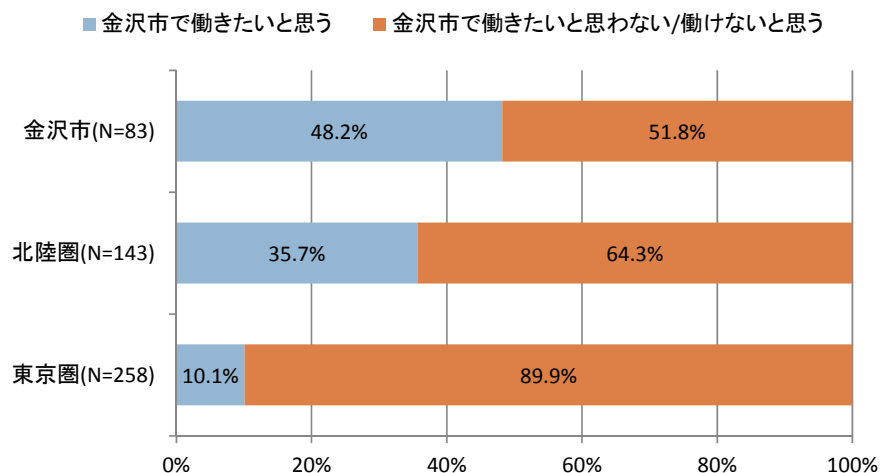
図表 3-1-10 金沢市の企業へのインターンシップ参加意向



⑨金沢市の企業への就職意向（当てはまる項目を1つ選択）

“金沢市”に住む学生は、約半数が「金沢市で働きたいと思う」と回答している。一方、“東京圏”に住む学生は、約9割が「金沢市で働きたいと思わない／働けないと思う」と回答している。

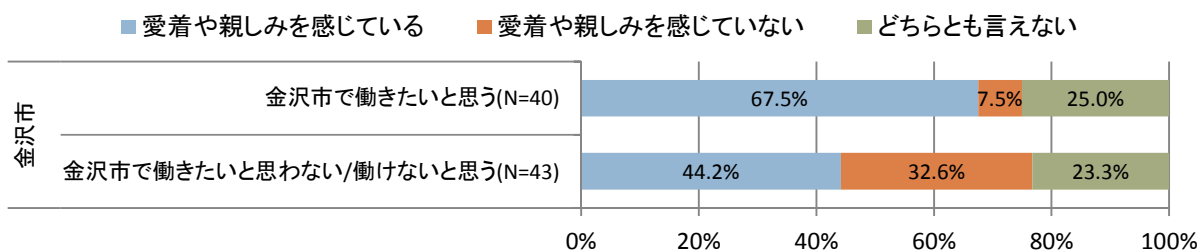
図表 3-1-11 金沢市の企業への就職意向



<参考>

“金沢市”に住む学生は、まさに愛着を持つ学生ほど金沢市の企業への就職意向が高くなっている。

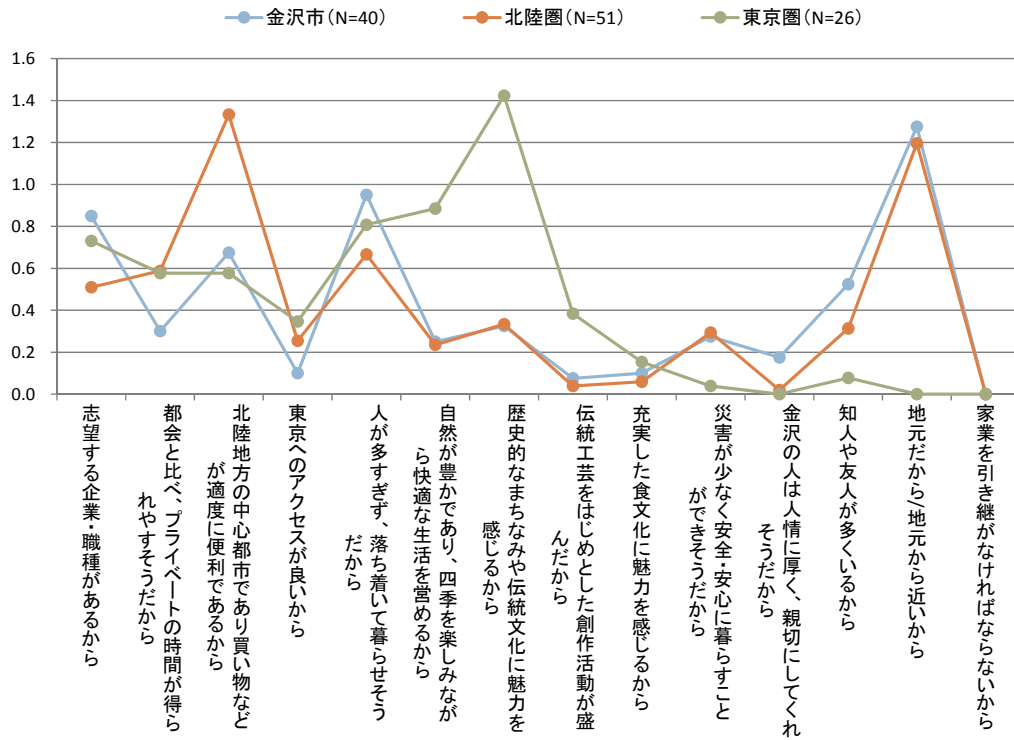
図表 3-1-12 金沢市に住む学生の金沢の企業への就職意向と愛着・親しみの関係



⑩金沢市で働きたい理由（当てはまる順に3つ選択）

金沢市で働きたい理由について、“金沢市”に住む学生は「地元だから／地元から近いから」、
 “北陸圏”に住む学生は「北陸地方の中心都市であり買い物などが適度に便利であるから」、
 “東京圏”に住む学生は「歴史的なまちなみや伝統文化に魅力を感じるから」が最も重視されている。

図表 3-1-13 金沢市で働きたい理由



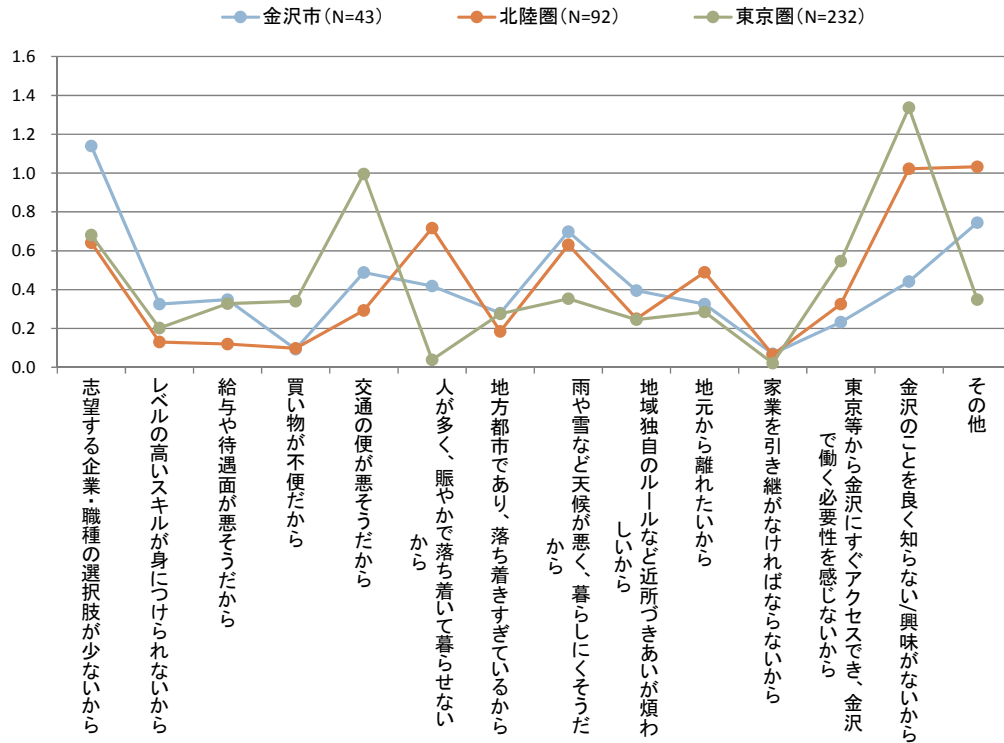
～算出方法～

・1位は3点、2位は2点、3位は1点として加重平均値を算出している。

⑪金沢市で働きたくない理由（当てはまる順に3つ選択）

金沢市で働きたくない理由について、“金沢市”に住む学生は「志望する企業・職種の選択肢が少ないから」、北陸圏や“東京圏”に住む学生は「金沢のことを良く知らない／興味がないから」が最も重視されている。

図表 3-1-14 金沢市で働きたくない理由



～算出方法～
 ・1位は3点、2位は2点、3位は1点として加重平均値を算出している。

2. 若年就労者へのアンケート調査

(1) 調査概要

①調査目的

若年就労者の人口流出入の実態や金沢定住に対する意向を把握することを目的に実施した。

②調査対象

金沢市に在住の20歳代就労者

③調査実施方法

インターネットを用いたアンケート調査を実施した。

④調査実施期間

平成27年8月26日～8月31日

⑤回収数

103票

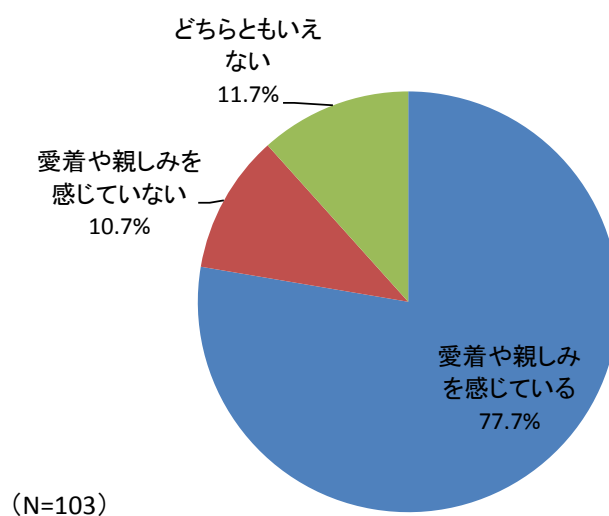
(2) 調査結果概要

①居住地に対する愛着・住みやすさ（当てはまる項目を1つ選択）

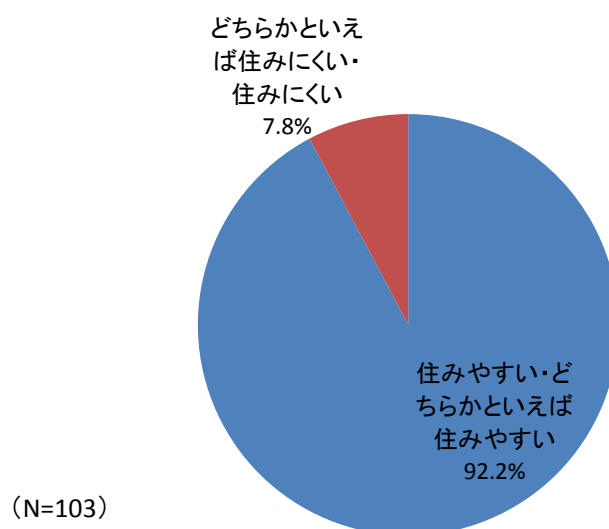
居住地に対する愛着については、「愛着や親しみを感じている」が最も多く77.7%を占め、次いで「どちらともいえない」が11.7%、「愛着や親しみを感じていない」が10.7%となっている。

居住地に対する住みやすさについては「住みやすい・どちらかといえば住みやすい」が92.2%、「どちらかといえば住みにくい・住みにくい」が7.8%となっている。

図表 3-2-1 居住地に対する愛着



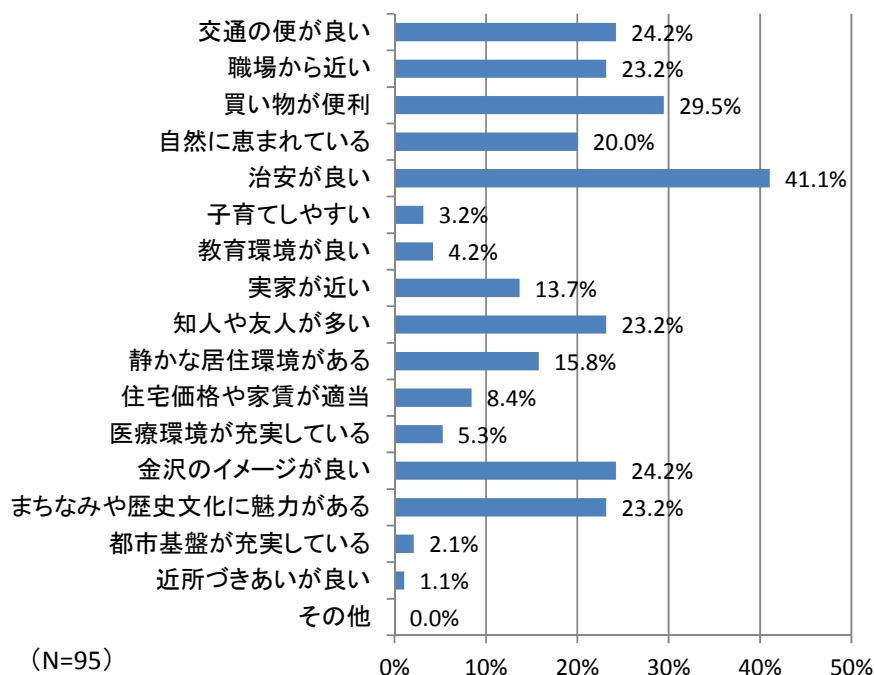
図表 3-2-2 居住地に対する住みやすさ



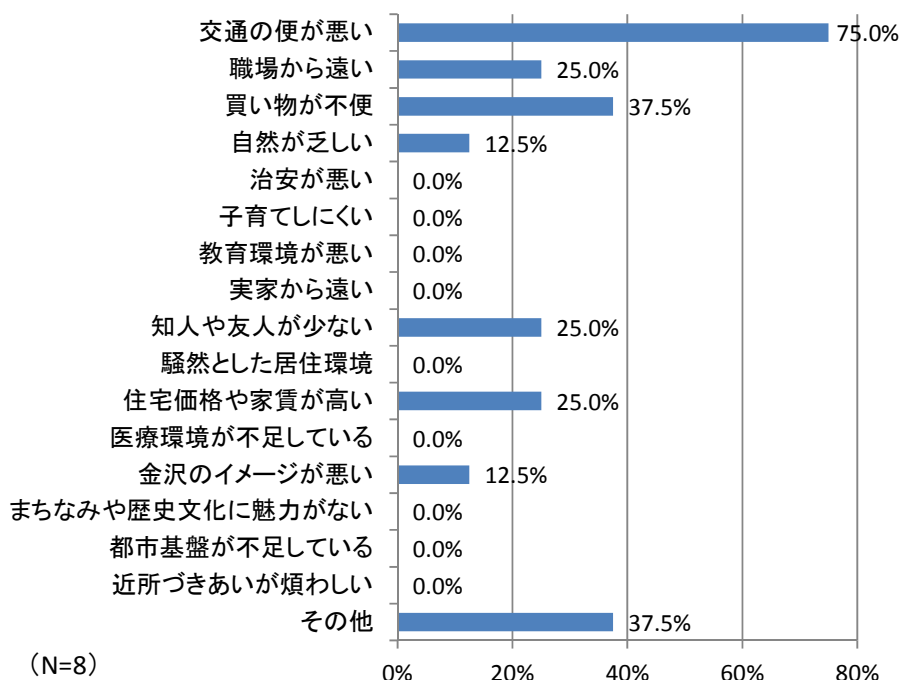
②金沢市を住みやすいと思う理由/住みにくいと思う理由（当てはまる項目を3つまで選択）

金沢市が住みやすいと思う理由は「治安が良い」が最も多く41.1%を占め、次いで「買物が便利」が29.5%、「交通の便が良い」「金沢のイメージが良い」がそれぞれ24.2%となっている。一方、住みにくいと思う理由は「交通の便が悪い」「買い物が不便」等が多くなっている。

図表 3-2-3 金沢市を住みやすいと思う理由

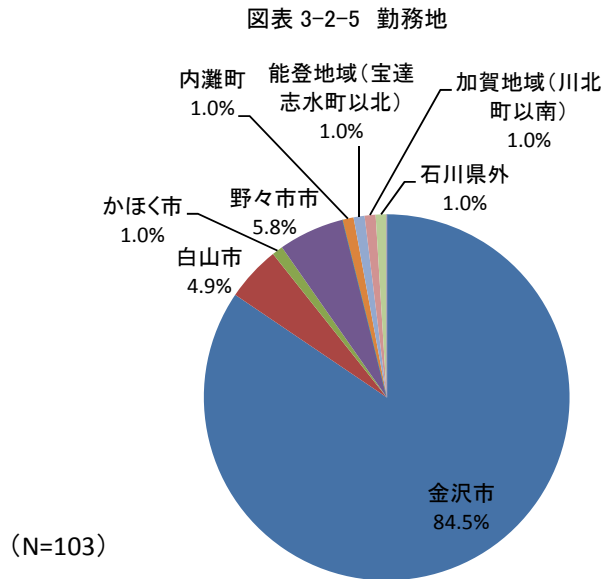


図表 3-2-4 金沢市を住みにくいと思う理由



③勤務地（当てはまる項目を1つ選択）

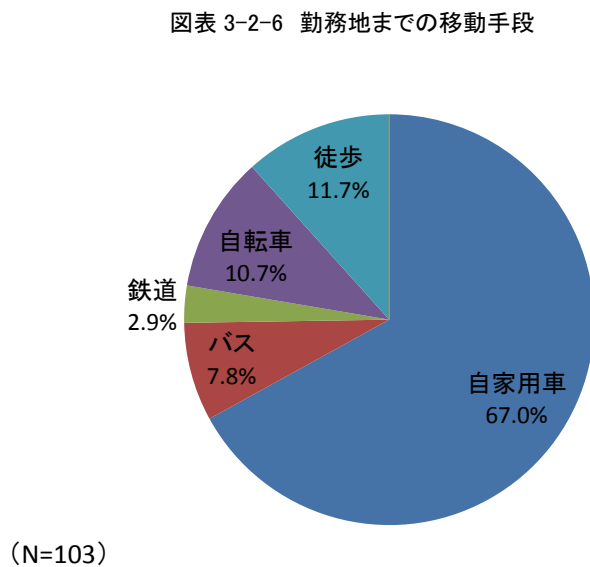
勤務地は「金沢市」が最も多く 84.5%を占め、次いで「野々市市」が 5.8%、「白山市」が 4.9%となっている。



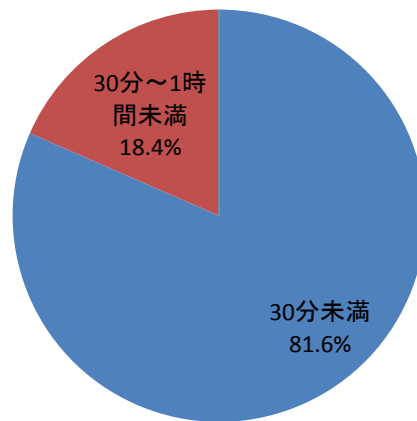
④勤務地までの移動手段・移動時間（当てはまる項目を1つ選択）

勤務地までの移動手段は、「自家用車」が最も多く 67.0%を占め、次いで「徒歩」が 11.7%、「自転車」が 10.7%となっている。

勤務地までの移動時間は、「30分未満」が 81.6%、「30分～1時間未満」が 18.4%となっている。



図表 3-2-7 勤務地までの移動時間



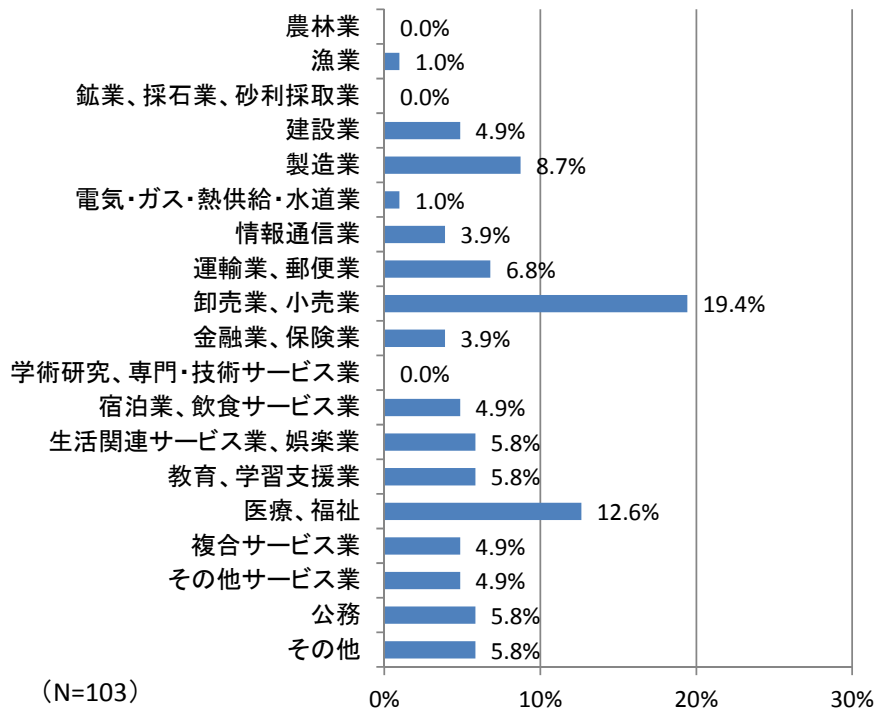
(N=103)

⑤就業している業種・年収（当てはまる項目を1つ選択）

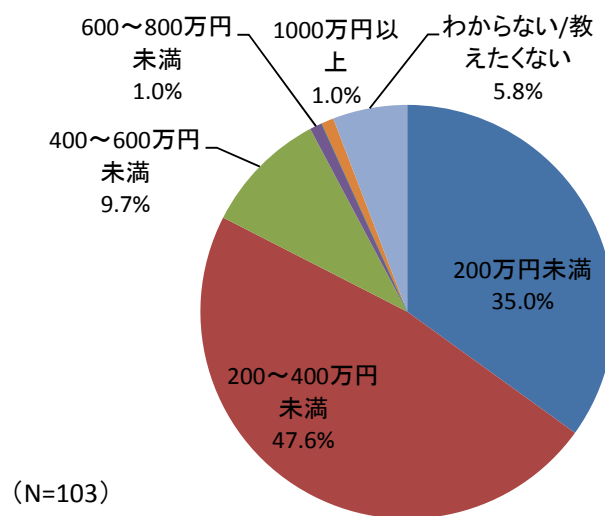
就業している業種は、「卸売業、小売業」が最も多く19.4%を占め、次いで「医療、福祉」が12.6%、「製造業」が8.7%となっている。

年収は、「200～400万円未満」が最も多く47.6%を占め、次いで「200万円未満」が35.0%、「400～600万円未満」が9.7%となっており、回答結果から平均年収は295万円と算出される。

図表 3-2-8 就業している業種



図表 3-2-9 年収



平均：295万円

～算出方法～

・価格帯中間値に回答者数を乗じて平均年収を算出している。

・「200万円未満」は「200万円」、「1,000万円以上」は「1,000万円」に回答者数を乗じている。

⑥金沢市からの転居意向・理由・転居先

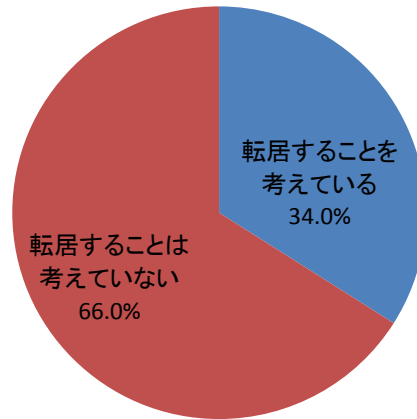
(意向：当てはまる項目を1つ選択、理由・転居先（当てはまる項目を3つまで選択）)

金沢市からの転居意向は「転居することは考えていない」が66.0%、「転居することを考えている」が34.0%となっている。

転居する理由は、「転勤」が最も多く34.3%を占め、次いで「結婚」が28.6%、「生活の利便性（交通、買い物、治安など）」が20.0%となっている。

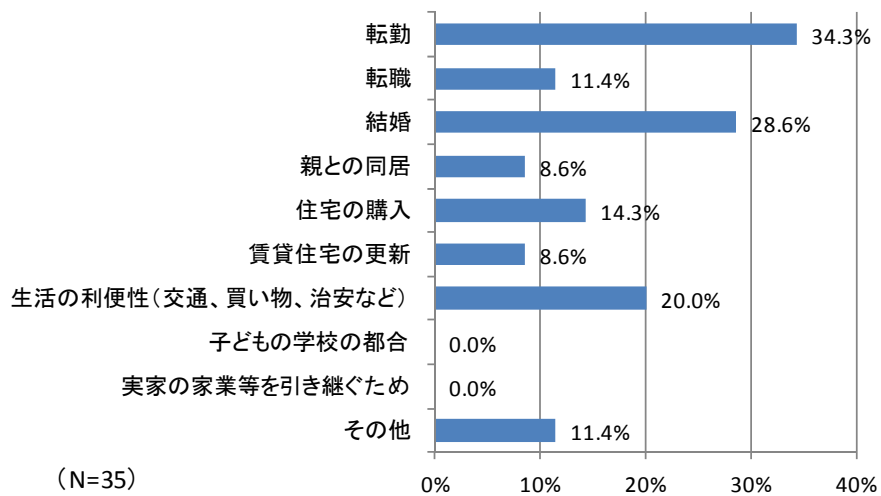
転居先は「石川県内（金沢市以外）」が最も多く37.1%を占め、次いで「関西」が25.7%、「関東」が17.1%となっている。

図表 3-2-10 金沢市からの転居意向



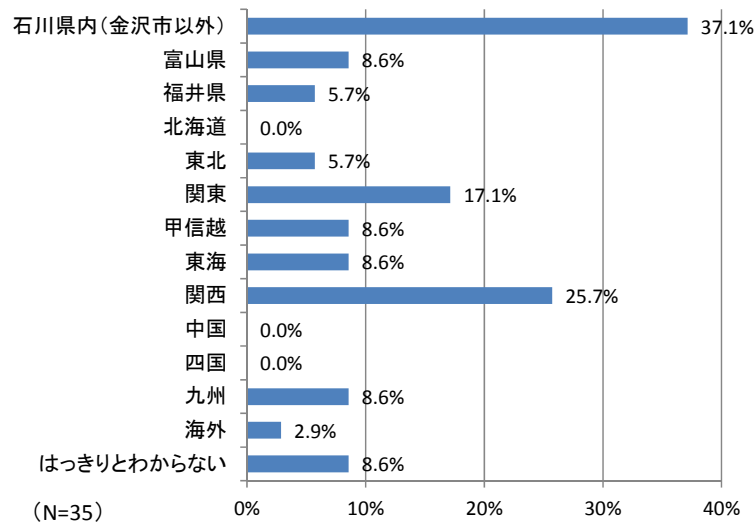
(N=103)

図表 3-2-11 金沢市からの転居理由



(N=35)

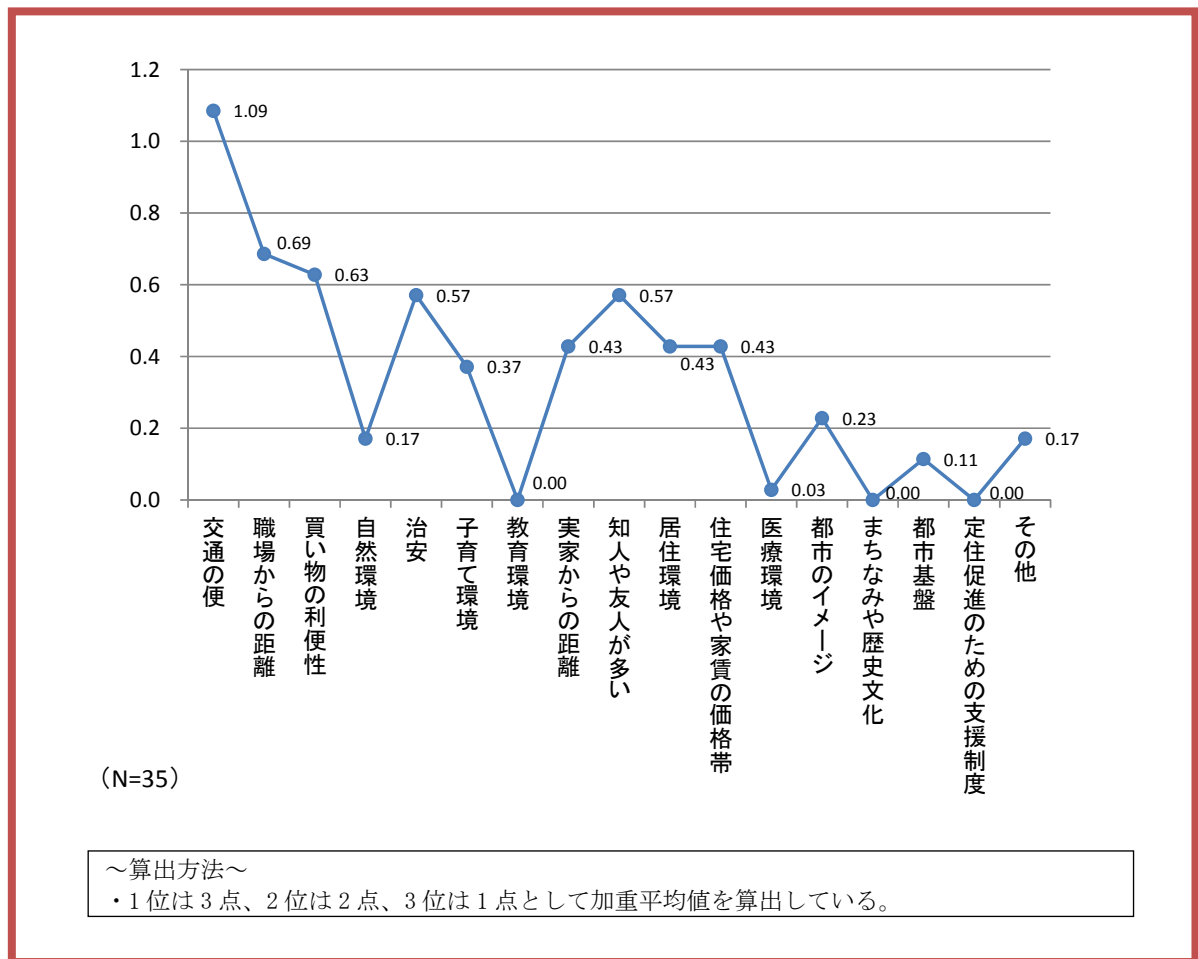
図表 3-2-12 金沢市からの転居先



⑦転居先を決める際に重視する条件（当てはまる項目を重視する順に3つ選択）

転居先を決める際に重視する条件は、「交通の便」が1.09となっており、次いで「職場からの距離」が0.69、「買い物の利便性」が0.63となっている。

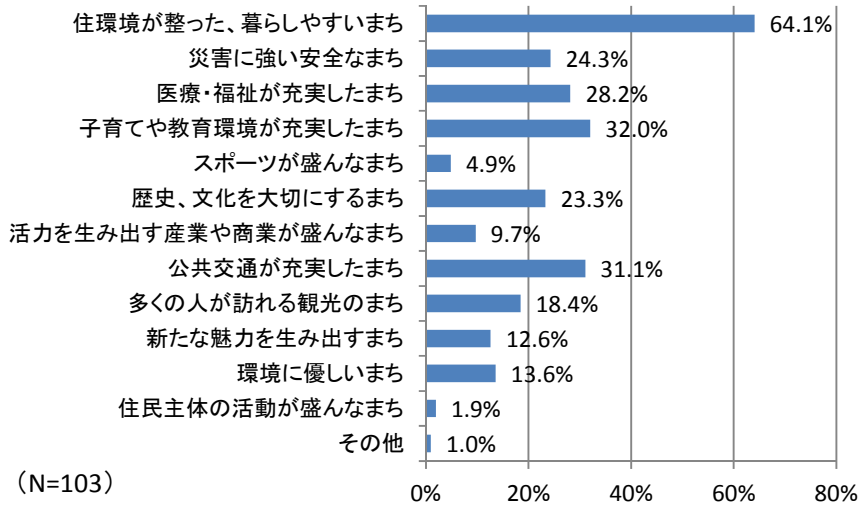
図表 3-2-13 転居先を決める際に重視する条件



⑧今後、望むまちの姿（当てはまる項目を3つまで選択）

今後、望むまちの姿は、「住環境が整った、暮らしやすいまち」が最も多く 64.1%を占め、次いで「子育てや教育環境が充実したまち」が 32.0%、「公共交通が充実したまち」が 31.1%となっている。

図表 3-2-14 今後、望むまちの姿



3. 大学へのヒアリング調査

(1) 調査概要

①調査目的

近年の学生の特徴や就職動向等を把握するため、大学へのヒアリング調査を実施した。

②調査対象

金沢市内の国立大学、私立大学 就職担当者

③調査実施方法

調査対象への直接ヒアリングにて実施した。

④調査実施日

平成 27 年 10 月 8 日

⑤調査項目

近年の学生の状況について

- 学生の出身地の割合（石川県・金沢市・県外の比率）を教えてください。
- 金沢市内の大学生の特徴（居住地、バイト、地域活動、趣味・趣向など）があれば教えてください。
- 歴史的なまちなみや伝統文化、暮らしやすさ、企業の技術力の高さ等、首都圏にはない金沢ならではの魅力が学生に伝わっていますか。また、伝わっていないのであれば、どのような手法が有効とお考えでしょうか。

近年の学生の就職状況について

- 近年の就職先の状況（石川県・金沢市・県外）などを教えてください。
- 学生が就職先に求める条件（人気職種、地域（地元・都会）待遇など）として顕著なものや優先順位などがありましたら教えてください。
- 県外出身者で金沢就職を希望する学生の特徴や理由などの傾向があれば教えてください。
- 学生は企業情報をどのように入手していますか。ネット利用がほとんどですか。
- 学生の就職活動において、ゼミOB・OG等との交流による情報収集等を行っていますか。
- 学生の就職活動において、どのような相談が多いか教えてください。
- 就職せずに起業などをする学生はいますか。
- インターンシップを希望する学生は増えていますか。どのような企業へのインターンシップが増えていますか。
- インターンシップが実際の就職に効果があると思いますか。インターンシップ企業へ就職する学生は何割ぐらいいますか。

近年の求人状況について

- 求人数の傾向（石川県・金沢市・県外の比率）について教えてください。
- 求人が多い業種の傾向（全国、石川県、金沢市）について教えてください。
- 効果的・特徴的な求人方法の企業はありますか。どのような手法ですか。

(2) 調査結果概要

①近年の学生の状況について

<学生の出身地>

- 国立大学及び私立大学ともに石川県出身者の割合は全体の約 25%（私立大学では全体の 10%程度が金沢市）を占め、北陸新幹線金沢開業に伴い、今後、東京圏からの学生が増える可能性があることを認識している。

～具体的な意見～

- ・国立大学では、全体の 50%が北陸 3 県（全体の 25%は石川）からの入学であり、次いで愛知、新潟、長野が多い状況にある。また、私立大学では、全体の約 25%が石川県出身者であり、全体の 10%程度が金沢市となっている。
- ・国立大学、私立大学共に、今後、北陸新幹線の影響により東京圏出身者が増える可能性もあることを認識している。

<大学生の特徴>

- 他県、能登地域出身の学生は自宅通学の学生に比べ、地域活動やまちなかのイベントへ積極的に参加する傾向がある。
- 研究室活動の一環として自治体と連携した地域活動へ参加している。

～具体的な意見～

- ・市内大学に通学する学生の特徴として、他県出身者や能登地域からの学生、留学生の世話をしている学生は、地域活動やまちなかのイベントへ積極的に参加している状況にある。
- ・自宅通学の学生は地域活動等には参加しない傾向が強い。
- ・地域活動の参加方法については、研究室活動の一環として、県や市などの自治体と連携してイベントに取り組んでいる場合もある。

<大学における金沢の魅力の伝え方>

- 大学において地域の文学や歴史、地元企業を学ぶ地域創生概論を必修科目として設定し、金沢をはじめとした石川県全体の魅力を学生へ伝える動きがある。

～具体的な意見～

- ・次年度から 1 年時の必修科目として石川全体を対象とした地域概論を設定する予定である。
- ・県内の文学や歴史、地元企業などの学習を授業に組み込むことを考えている。

②近年の学生の就職状況について

<近年の就職先の状況>

- 国立大学、私立大学ともに北陸3県、関東、東海の企業等への就職が多く、特に北陸出身の学生は地元就職、Uターン志向が高い傾向がある。

～具体的な意見～

- ・ 国立大学では、石川県をはじめとする北陸3県が最も多く、次いで関東、東海が多くなっている。（石川県 358 人、富山県 120 人、福井県 69 人、関東 170 人、東海 143 人）
- ・ 私立大学では、石川県をはじめとする北陸3県が最も多く、次いで関東、東海、関西となっている。（石川県 276 人、東京都 266 人、富山県 138 人、愛知県 105 人、大阪府 92 人、）
- ・ 北陸出身の学生は地元就職やUターン志向が高い傾向がある。

<学生が就職先に求める条件/県外出身者が金沢就職を希望する理由>

- 学生は企業の規模等は関係なく「専門知識を活かせるなど自分が納得でき、やってみたいことができる企業」を優先的に就職先候補として考えているが、最終的に親の関与や意向の影響を受け、知名度の高い企業や公務員を志望する 경우가多く、知名度の低い中小企業への就職意識は低くなっている。
- 北陸圏の学生とその親は、地元の企業を詳しく知らない状況にあり、地元企業の認知・理解不足が金沢就職の阻害要素になっていると想定される。
- 県外出身の学生が金沢市内で就職する場合は、パートナーがいる、若しくは住みやすい環境である（特に富山県、福井県出身者は「ほどよい都会」と認識）が理由として挙げられる。

～具体的な意見～

- ・ 最近の学生は企業の規模等より、専門知識を活かせる場など自分が納得できる就職先を求める傾向が強い。
- ・ 北陸圏の学生は、出身地周辺若しくは金沢に勤務地がある企業等に重点を置き、就職先を探す傾向が強い。
- ・ 学生が地元で就職先を選ぶ場合、親の関与や意向の影響を受けやすく、知名度が低い中小企業に対する就職意識は低い（知名度の高い企業・公務員が選択肢となる）。
- ・ 北陸圏の学生のUターン志向は全国と比較して高いものの、地元優良企業がないという思い込みから、戻ってくる学生が少ないと想定される。
- ・ 金沢市は「ほどよい都会（特に富山県、福井県出身者）」としての魅力があり、住みやすい環境として認識している県外学生が多い。
- ・ 県外の学生が金沢市内で就職する場合は、パートナーがいることも理由として挙げられる。

<情報収集/相談内容/起業意向>

- 最近の大学生の就職活動においては、OB・OGとの交流が盛んに行われており、OB・OGからの話を参考に就職を決める場合もある。
- 就職活動の前半は活動方法全般、後半は内定を取るための相談が多い。
- 起業意向の学生は少ない。

～具体的な意見～

- 就活におけるOB・OGとの交流については、イベントや講演会等を企画し、進んで参加するよう指導しており、その流れで就職先を決める場合もある。
- 時期によるが、就活初期は就活のやり方や自己分析方法などを聞きにくる学生が多く、企業と接触がある時期になるとエントリーシートの書き方などを聞きにくる学生が多い。
- 起業を志す学生は少ない。親の同意が取れないことが多い。

<インターンシップの取組>

- 「志望する就職先へのアピール」「プログラムの内容」等を理由にインターンシップへ参加する学生は増加しており、大学においても独自のインターンシップカリキュラムや汎用性の高いプログラムの作成に取り組んでいる。

～具体的な意見～

- インターンシップに参加意向を示す学生は年々増えている。
- 学生がインターンシップに参加する理由としては、「就活を意識して志望先に行く場合」や「興味がある企業の場合」「プログラムの中身で選択する場合」が挙げられる。
- 大学では独自のインターンシップカリキュラムや石川県と連携した受け入れ側の業界汎用型プログラム（IT、ものづくり、商社、税理士、旅館）の作成に取り組んでいる。

③近年の求人状況について

<企業の求人動向/効果的・特徴的な求人方法>

- 北陸新幹線金沢開業を機に東京圏からの求人が増えている中、インターンシップのプログラムの精度が高い会社等は人材を確保している。
- 地元企業は学生に候補として選ばれるよう、学生との会話を深めるなど、アピール方法等の改善が必要と考えられている。
- 大手企業においては、就活サイトを活用せず、指定校制によるダイレクトリクルーティングで学生を選考している。

～具体的な意見～

- 近年は求人が多く、北陸新幹線金沢開業を機に東京圏からの求人が例年と比べ、2割程度増加している。
- 学生は自分が納得できる職場を選ぶ傾向が強く、企業側は学生に仕事のやりがいや魅力等、良い所も悪い所もすべて伝えて、受け入れられるよう会話を深めていくことが重要かと思う。
- 地元企業はアピール方法を工夫する必要がある、インターンシップのプログラムの精度が高い会社や離職率の低い（社内環境の良い）企業はしっかりと人材を確保している。
- 就活サイトでは学生の申込みが一部企業に集中すること、申込みが集中した企業にとっては多数の中から内定者を選考しても辞退するケースが多いことなどにより、近年、大手では指定校制によるダイレクトリクルーティングでの選考を中心に行っている。

4. 経済団体等へのヒアリング調査

(1) 調査概要

① 調査目的

近年、金沢市内に参入している企業や若年層の雇用に関する動向等を把握するため、市内経済団体等へのヒアリング調査を実施した。

② 調査対象

金沢商工会議所、金沢雇用推進協議会、日本政策投資銀行北陸支店

③ 調査実施方法

調査対象への直接ヒアリングにて実施した。

④ 調査実施日

平成 27 年 10 月 8 日、10 月 9 日

⑤調査項目

金沢市の産業動向全般について

- 金沢市の強みと呼べるような産業・業種はありますか。また、統計データからは「卸売・小売業」「宿泊業、飲食サービス業」「サービス業（その他に分類されないもの）」「運輸業、郵便業」「製造業」が基盤産業として考えられますが、特に、「卸売・小売業」「サービス業（その他に分類されないもの）」「運輸業、郵便業」について、具体的にはどのような企業が当てはまると思いますか。
- 北陸新幹線開業後の経済動向について飲食・宿泊以外での影響や効果はありますか。
- また、マイナスの影響はありますか。
- 従業員が不足している、求人しても人が集まらない業種・産業はありますか。
- 今後、市内で需要・成長が見込まれる産業や業種として何かありますか。
- 金沢市において新たに起業する人は増えていますか。どのような業種が多いですか。
- 起業者のうち若年層は増えていますか。どのような業種が多いですか。

金沢市内の若者の雇用等に関する動向について

- 現状で若年層の雇用が多い業種・産業はありますか（30歳未満の年齢階級が従事する産業は「宿泊業、飲食サービス業」が28%、「生活関連サービス業、娯楽業」「情報通信業」等が共に23%と多くなっている）。
- 若年層の就労の傾向、資質など近年の変化があれば教えてください。
- 企業が若年層に求める資質、特徴、条件などはありますか。
- 若年層を採用する企業が工夫していることはありますか。

(2) 調査結果概要

①金沢市の産業動向全般について

<金沢市内の強みとなる産業>

- 経済団体等からは、金沢市内の強みとなる産業は「卸売・小売業」「宿泊サービス業」「その他サービス業」「運輸郵便業」「製造業」が挙げられ、統計データから導き出された市内基盤産業とほぼ合致している。

～具体的な意見～

- ・ 総合的に売上や利益、従業員数等を基に「卸売・小売業」「宿泊サービス業」「その他サービス業」「運輸郵便業」「製造業」が強みとなる産業として挙げられる。

<北陸新幹線金沢開業の影響>

- 北陸新幹線開業前に懸念されていた東京圏へのストロー現象は見られておらず、北陸新幹線金沢開業により、飲食・宿泊業、運輸業（タクシー）の売上げが好調のほか、駅前の路線価の上昇、オフィス空室率の改善など、まちなかを中心に好影響が及ぼされている。

～具体的な意見～

- ・ 石川県でビジネス・観光において観光客3割増を予想したが、予想以上の入り込みと感じている。
- ・ 商業の売上は全国平均より若干上昇し、現状ではストロー減少は見られない。
- ・ 景気は開業前から徐々に上り調子になり、飲食・宿泊業を中心に開業後は堅調に推移している。
- ・ 金沢は食が魅力的であり、食品関係や食材提供、加工関連企業が潤っているのではないかと。
- ・ タクシーは3～5割程度売上が上昇しているとのことである。
- ・ 北陸新幹線金沢開業前後には新たな拠点が増え、金沢市への定住や消費が期待できる（ジャパンディスプレイ、村田製作所、日機装、楽天など）。
- ・ 駅西の路線価は全国一の伸び率であり、リーマンショック以前まで上昇している。
- ・ オフィス空室率は減少し、賃料は北陸新幹線開業前から上昇している。

<従業員が不足している産業/需要が見込まれる産業>

- 飲食・宿泊業や建設業、運輸業、卸売小売業、介護・医療・福祉分野において人手不足にあり、特に、飲食・宿泊業や介護・医療・福祉分野は若年層も含め、離職率が高いと認識されている。
- 需要が見込まれる産業には、人口減少や高齢化に関連の高い医療や住宅設備維持等のほか、知的材料・スマート化技術関連が想定され、付加価値の高い伝統工芸の振興も重要である。

～具体的な意見～

- ・ 北陸三県では全国と比べ有効求人倍率が高く、飲食・宿泊業や建設業、運輸業、卸売小売業、介護・医療・福祉分野において人手不足にある。特に、飲食・宿泊業や医療・福祉分野は若年層の離職率も高いようである。
- ・ 景気が良くなると学生は首都圏の企業に流れ、景気が悪くなると地方から雇用を吸収しにくくなるのが想定されるため、地元企業と連携しながら学生に会社を理解してもらうことや地元に対する愛着の醸成に取り組むことが必要かと思う。
- ・ 今後の人口減少や高齢化に対して、医薬品、医療、住宅設備維持、教育・娯楽のほか、知的材料・スマート化技術関連の産業の需要が見込まれる。
- ・ 伝統工芸の付加価値が高く、金沢のブランド戦略として、美大や卯辰山工芸工房に力が入ってくるのではないかと思う。
- ・ 6次産業化や美大を活用したデザイン等の付加価値を高める工夫、広域都市圏の中で資金が循環する仕組みづくりが必要である。
- ・ 金沢発祥ながら、近隣市町に移転した優良企業も多い。

<新たな起業動向/若年企業者の業種>

- 新たな起業動向については、若年層を含め商業・飲食・サービス系の起業相談が多く、美容関係のほか、趣味の延長上で行うプチ創業が増加している。

～具体的な意見～

- ・ 起業相談に訪れる方は若年層を含め、商業・飲食・サービス系（美容業界）が多い。
- ・ 美容関係において、ネイルやメイク、エステは難易度の高い国家資格ではなく、比較的取得しやすい業界団体の資格であるほか、自宅の一室で開業することが可能なため、女性の起業が多い。
- ・ 最近では、女性の方を中心に趣味の延長上で行うプチ創業が増えている。

②金沢市内の若者の雇用等に関する動向について

<若年層の雇用が多い業種>

- 若年層の雇用が多い業種として小売業やサービス業、情報通信（IT）、建設業が挙げられているが、飲食・宿泊業などのサービス業においては、就職前とのギャップが大きく離職率が高い。

～具体的な意見～

- ・若年層の雇用が多い業種として、小売業やサービス業、情報通信（IT）、建設業が該当すると思う。
- ・飲食業や宿泊業などのサービス業への就職は多いが、業界に入った際のギャップが大きく、離職率が高い。

<若年層の就労の傾向/企業が若年層に求める資質>

- 多くの企業において、世代間で仕事に対する考え方にズレが生じているほか、若年層のコミュニケーション能力の低下が指摘されている。
- 企業はコミュニケーション能力や協調性があり、長く勤続する若年層を求めている。

～具体的な意見～

- ・世代間で教育環境や家庭環境が異なるため、仕事に対する考え方にズレが生じている。
- ・最近の若年層はテレビゲームやネット、スマホの世界に接しているためか、コミュニケーション能力が下がっており、ストレスを抱えても相談しない。
- ・会社からの悩み相談などは逆効果となり、重荷になり辞めてしまう傾向にある。
- ・北陸経済連合会におけるアンケート調査では、採用で重視する能力には、コミュニケーション能力、協調性・チームワーク、実行力の順になっている。
- ・継続して就労してもらえる方が一番であり、短期間で辞められることは企業にとっても損害である。

<若年層採用に向けた企業の工夫>

- 市内の企業では、インターンシップや人事担当者同士での情報交換会の開催など、学生の市内就職を促す取組が進められているが、企業の負担が大きくなっている。

～具体的な意見～

- ・人事担当者が情報交換会を開催し、自分の企業とマッチングしなかった学生の他社への紹介、福利厚生などの相談等に取り組んでいる事例がある。
- ・インターンシップは受け入れると世話が大変であるとともに、採用効果も低いことが現状である。
- ・待ちの姿勢ではなく、採用する企業側の姿勢の変化も大切である。

5. 学生へのグループインタビュー調査

(1) 調査概要

① 調査目的

本章第1項の学生へのアンケート調査結果では、「金沢のことを知らない/興味がない」が金沢で働きたいと思わない大きな要因であったため、金沢及び東京圏の学生が、金沢を知り、金沢への愛着を持ち、金沢で就職するための方策について、学生の視点からの意見やアイデアを把握するため、グループインタビュー調査を実施した。

② 調査対象

金沢学生のまちづくり会議メンバー 8名（金沢グループ 1グループ）

慶応大学学生 15名（東京グループ 2グループ）

③ 調査実施方法

ワークショップ形式にて実施

④ 調査実施日

平成27年9月17日

⑤ 内 容

開 会

グループインタビューの内容説明

金沢グループテーマ：「金沢に愛着を持ってもらうためには」「金沢就職を促すためには」

東京グループテーマ：「金沢を知ってもらうためには」「金沢就職を促すためには」

発表・意見交換

閉 会



(2) 調査結果概要

以下に、金沢、東京の各グループの発表や意見交換内容を基に整理した結果概要を示す。

①金沢グループ

- 金沢に住む学生に金沢就職を促すためには、地域コミュニティの充実を図り、まちへの愛着を高め、人とのつながりを深めることが必要。

～具体的な意見～

- 金沢への愛着を高めるためには、コミュニティの充実が重要と考える。
- 学生だけでなく、地域住民も含めた学生主体の町内会組織を立ち上げてはどうか。
- 様々な人とのつながりにより、「金沢ならではのクリエイティブな発想の育成」「金沢就職をイメージする就活の場の創出」「ツエーゲン金沢をはじめとしたスポーツ等の趣味の共有」「留学生との交流による国際意識の醸成」などが図れると思う。
- これらの効果により金沢への愛着や貢献心が生まれ、金沢定住につながっていくと考える。

②東京グループ1

- 東京圏の学生に金沢を知ってもらうためには、金沢に興味を持ってもらう・来てもらうための取組が必要。

～具体的な意見～

- 金沢を知ってもらうためのアイデアとして「学生のまちとしてのアピール」「大学生協とのコラボによる金沢への学生格安旅行の企画」「スポーツイベントや野外フェスの充実」「金沢のまちのイメージを特化した広報」など、金沢に興味を持ってもらう・来てもらうための取組が効果的かと思う。
- 金沢に住み、就職するためのアイデアとして、金沢の特性の中で「発展させたいこと」と「今あるものを活かしていくこと」に分けて整理した。
【発展させたいこと】
 - 短期バイト等による金沢に来てもらう仕組みづくり
 - (関東圏) 私大キャンパスの誘致
 - Wi-Fi 環境の充実
 - 移住費の助成
 - 交通面の利便性を高める公共交通機関の強化 (景観を損ねない配慮が必要)【今あるものを活かしていくこと】
 - 自然災害が少ないことや子育てのしやすいまちとしてのアピール
 - 自然や文化に触れつつも治安が良い便利な暮らしをアピール
 - 東京と京都を融合した”金沢スタイル”の確立

③東京グループ2

- 金沢就職を促すためには、学生期（1-2年）、就活期（3-4年）、就職期を考慮した取組の展開が必要。

～具体的な意見～

- 金沢を知ってもらうためのアイデアとして「テレビ等のメディアやアンテナショップ、有名人を活用したアピール」「金沢学生のための大学生協と連携した格安ツアーの企画」「金沢＝おしゃれのイメージを確立し、ファッション雑誌（写真多め）や女子旅のアピール」「東京では体験できない“町家宿泊”や“田や畑のレンタルによるファームステイ”」などが効果的かと思う。
- 金沢に住み、就職するためのアイデアとして、「学生期（1-2年）」「就活期（3-4年）」「就職期」に分けて取組内容を整理した。
 - 【学生期（1-2年）】
 - 独特の研究を進める学生に興味を持ってもらう
 - 国内での交換留学を実施する（独特の学部を創り学生を呼び込むなど）
 - 学生のうちに金沢に長期滞在する機会を作る
 - 【就活期（3-4年）】
 - 東京と比べストレスフリーな仕事環境を整える
 - 他都市に負けない産業をつくる
 - 地域の人との交流の機会を創出する（移住してきたときに助け合って暮らせる環境づくり）
 - 【就職期】
 - 金箔など金沢が中心となる企業をアピールする
 - 子育て、防災、自然災害といった暮らしの安心・安全など一生住みたいと思える街をアピールする

<参考：各グループで出されたアイデア・意見 一覧>

【金沢グループ】

ハード面の整備		
個人経営のみ屋、チェーン店誘致の抑制	スポーツ選手を輩出する	和菓子もっとPR
ポケモンセンターを作る	FreeWi-Fi充実	学生はお得！！みたいなサービス
【ソフト面の整備】		
中小企業の良さ、成長やりがいいアピール	建築物を利用したイベントを増やす	(地元進学) 知っているようで知らない「一本ウラ」の良さを知る
ドラマで金沢を使う		
【ひと】		
金沢好きな人と出会う	友達を作る	金沢のひとと友達を増やす
他大学生との交流	家族のような関係を作る	金沢はコミュニティがさかん
【場所】		
好きな場所づくり	自分だけの場所をつくる	老若男女だれでも交流できる場所を作る
金沢の場所を知る	住みやすいといい	
【自分でつくる】		
自分の好きな事をやること	自分たちが積極的に活動していくこと	
【まちとのかかわり】		
地元のひとと話す	地元のひととのかかわりを持つ	大学以外でつながりを作る
まちのひとと話す！	地域のひとと仲良し	
【説明・紹介する系】		
逆に県外の学生と交流する！→良さを再確認	金沢のイベントやまつりを紹介する	自営業をできやすいように環境作り
金沢の隠れた名所を紹介	まちめぐりのツアー	高校野球に力を入れる！！
スタディーツアー	学生会議に入る	金沢で遊べる場所を探す
【ターゲット絞る】		
各大学 半強制条例→学生町内会	街のひと、友人と関わり知る！	伝統工芸→体験
コミュニティの形成	オーディション ネット配信 →多くの社会人とのつながり	広報の数、ユネスコクラフト創造都市
チェーンメール YouTube スクール		
【ターゲット：クリエイター】		
広報→県外のひと、県内学生はあまり知らない	公立美大、家賃安い、美容専、デザ専多い	<美術系>21 美や伝統工芸にふれる機会を増やす
現：芸術シェアハウス、21 美、学祭に有名アーティスト、アカペラタウン、ジャズフェス、まつり、三大文豪	金沢に大きめのホールを作る →アーティスト等のコンサート	有名人がおすすりできる街にする
KANAZAWA GIRLS COLLECTHION 開く！！	服屋さんがめっちゃある	(美術) 大規模な共同制作活動
デザイナー物件を増やす	かわいいものをもっと増やす	
【学生団体の交流】		
コミュニティがないから愛着がわからない →町内会 (各アパート・大学・地域・講習会・イベント・交流会) 金沢の中小企業の魅力		

【東京グループ1】

金沢を知ってもらうためには…		
【文化】		
伝統工芸品を現代風にアレンジ、モダンとの融合	学生のまちであることをアピール（京都・仙台を参考に）	住み心地の良さをアピールできるような工夫・ランキング上位を目指す
新たに世界遺産登録を目指す	クリーンな場所というアピール	緑のある場所というアピール
もっと学術都市であるという点をアピールする	歴史・文化が感じられる街	風情のある街並み
【経済（交通）】		
日本版ホームステイ（伝統的な家屋に滞在など）	実際に訪れる機会を作る ex 旅行スタディツアー	新幹線開業で今盛り上がっているのでそこを利用して来てもらう
大学の生協などで学生向けに安くしたツアー	北陸新幹線アピール（京都よりも気軽）	青春 18 切符のような学生が行きやすさをアピール
生協とコラボした旅行企画をたてる	仙台みたいに県が旅費を少し援助	お得な切符をつくる
【広告】		
SNSを活用したPR	雑誌を学生とコラボして作る	電車の宙づり広告
金沢出身のタレントさん・芸能人などを観光大使に任命してPRする	金沢をPRするCMを全国放送で流す	金沢＝〇〇みたいなのを推す。イチオシをもっとアピール
祭り		
【娯楽】		
ご当地ゆるキャラを作ってそれをもとにグッズなどを作る	日本最大のアウトレット	金沢の質の良い製品に「金沢●●」など金沢のイメージを向上
温泉 日本海アピール	スポーツチームのイベント	レジャーテーマパークを作る
野外フェスやイベントの誘致	ご当地グルメをアピール（金沢カレーの存在などを知らなかった）	金沢で有名な店舗の東京進出
金沢就職を促すためには…		
【発展させたいこと】		
行政で社会福祉の向上させる →生活水準を高める	私大のキャンパス誘致 →そのまま就職・結婚	Wi-Fi
落ち着いた雰囲気	助成（移住費援助）	物流、ショッピングセンター
短期バイト、インターン	大学や高校など学業施設の向上（偏差値↑で周辺の若者を呼び込む）	コンビニの数
オンリーワンの企業	交通面での利便性を高める（鉄道・バス）	企業誘致
【今あるものを活かしていくこと】		
自然災害の少なさをアピール	防災に強いまちづくり（治安よく）	街がきれい
子育てしやすい環境づくり・アピール	人の良さ（近所付き合いとか・・・）	地価の安さ
保育施設を充実させる ex 待機児童0をアピール	地域コミュニティ連帯性繋がりを強く	自然や文化にふれつつも治安が良く便利な暮らし

【東京グループ2】

金沢を知ってもらうためには…		
【文化】		
金沢だけでなく能登など他の所にも観光しやすくする（金沢だけだと難しい→能登や白川へも行きやすいとアピール）	新幹線開通により金沢へ訪れやすくなったことをもっと全国的にアピールし金沢を知る機会を増やす	金沢に一度だけでなく何度も来てもらうため、年に一度くらいで石川県の色々なグルメを集めたグルメ市を開く
通訳をアピール	祭り、イベント	東京にアンテナショップを作る
金沢出身の芸能人にアピールしてもらう	金沢を色々な大会の会場にして多くの人に来てもらう	金沢出身のアイドルグループを結成する
金沢が舞台のドラマやマンガを出す	ドラマ・映画	YouTube 的な動画
広告をたくさん出す・CMを流す	東京に金沢の料理屋を出店する	Instagram Retrip にのせる
テレビでおススメスポットを流す	ゆるキャラの人気を高める	
【リーズナブル 金沢学生のために】		
タダで泊まれる旅館、家貸し出し	旅館（超リーズナブル魅力的）	生協とコラボ！夏休みプラン
格安ツアーを企画する	京都に行くより安上がりになるようにする（京都よりゆったり）	新幹線とコラボしてみる（今がチャンス）
【発信する 金沢＝「オシャレ」というイメージをつくる】		
ファッション雑誌で特集	女子旅	雑誌で伝統工芸コラボ
カメラ男子カメラ女子	SNSでアピール	カフェ・お茶・かき氷
若者が行く場所ルミネとかでイベント	フェス	海をリゾート化する
おしゃれなガイドブック	巨大アウトレット	夜景
テーマパーク（USJ的な）		
【東京ではできないことを体験】		
田んぼ当たります、レンタル田んぼ畑	地域の中小企業と学生のコラボ、工場見学ツアー	兼六園でイベント（ガイド）
昔ながらの町家に泊まろう	金沢ならではの産業や最新技術でのアピール（伝統工芸品など）	現代アート美術×伝統工芸→リーズナブルにする、身近なものにする
地元の方たちの親切さや温かさに触れる	歴女に来てもらう	金沢の文化を体験
ファームステイ（お米、農家、漁業）	祭り好きの人のために金沢独自の祭りをアピールする	

金沢就職を促すためには…		
【学生期】		
近畿大学のマグロ産業のように独特の研究を進める学生に興味を持ってもらう	有名大学の金沢キャンパスを作る	学生のうちに金沢に長期滞在する機会を作る
大学を誘致・大企業世界的有名企業	国内での交換留学の実施（独特の学部を作り学生を呼び込むなど）	大学の努力！！
【就活期】		
東京で働くよりストレスフリーな仕事環境を作る	地域の人が温かい（移住してきたときに助け合って暮らせる環境）	グローバルの動きにどう対応しているか
何か強い産業を作る	安定、ストレスフリーを求める学生をターゲット	
【就職期】		
金沢の企業を盛り上げる	コンパクトシティ金沢	治安の良さを猛アピール
金沢企業に無償の給食センター	人が多すぎない	金沢独自企業の振興・アピール
金箔の技術を応用→産業に	歴史文化を一体化した暮らし	子育て、防災、自然災害といった暮らしの安心・安全→一生住みたいと思える街へ
物価が安い	子育てがしやすい待機児童ゼロをアピールする	
町家に住める	子育て	
【就職後】		
研修出張を増やす	金沢に長期滞在する機会を増やす	スローライフ

6. 市外からの移住者へのグループインタビュー調査

(1) 調査概要

①調査目的

若年層の移住・定住促進に向け、他都市からの移住者を対象に金沢市への移住を決めたポイントや市の魅力等を把握するため、グループインタビュー調査を実施した。

②調査対象

金沢市外からの移住者 4名（2名×2グループ）

③調査実施方法

グループインタビュー形式にて実施した。

④調査実施日

平成 27 年 11 月 24 日

⑤調査内容

- ・ 金沢を知ったきっかけは何ですか。
- ・ 金沢への来訪前後で都市のイメージに違いはありましたか。
- ・ 具体的に金沢への移住の決め手となったことは何ですか。都会や出身地に無い、金沢の魅力を併せて教えてください。
- ・ 金沢への移住前に不安に感じたことや障害等はなかったでしょうか。その場合、ご自身が取られた対応や行動を教えてください。
- ・ 金沢への移住に関する様々な情報（住宅、職、学校、行政の支援制度等）をどのように入手しましたか。また、必要な情報の中で「容易に得られにくいと感じた情報」や「もっと発信を強化すべきと思う情報」等があれば教えてください。
- ・ 金沢で暮らしてみて、移住前の生活からの大きな変化や不便に感じていること等はありませんか（生活上のルール、収入の違い、近所付き合い 等）。
- ・ 金沢に移住してみて、移住前と移住後にそれぞれ、どのような支援がほしいと思いますか。（起業支援、子育て支援等）
- ・ 今後、若年層の移住・定住を促進するため、まちづくりやPR戦略に対し、アイデアや意見等があれば教えて下さい。

(2) 調査結果概要

<金沢を知ったきっかけ>

- 金沢は、家族旅行や学会等をきっかけに知ることが多い。

～具体的な意見～

- ・ 家族旅行で来沢したことが、金沢市を知ったきっかけである。
- ・ 他都市に暮らしていた際に開かれたワークショップにて、金沢の方と出会い、話を聞いたことが知ったきっかけである。
- ・ 大学生の時に滋賀県の学会から足を伸ばして、金沢に来たことがきっかけである。

<来訪前後における都市イメージの変化>

- 訪れた時に金沢の文化に触れ、路地裏や古いまち並み、食文化などの魅力を感じている方が多い一方、交通の便や季節の特性（冬場の雪や湿気、雷）に戸惑う声も聞かれた。

～具体的な意見～

- ・ 兼六園等の観光名所に向かう道中に裏路地に残る銭湯や個人商店を見て、まだ生活が息づいている金沢に魅力を感じ、それ以来、裏路地を楽しみに個人旅行で来沢し、金沢の深さを感じた。
- ・ 来訪前の金沢はサスペンスドラマのイメージ程度であり、来訪してみて、想像以上に寒く感じたほか、雪が重く感じた。
- ・ 数年に1度古いまち並みを見たいと思うようになり、来沢するようになった。また、気軽に入れる料理屋でもお店の対応を含め、レベルが高く、また来たいと思った。
- ・ 金沢に特別のイメージはなかったが、日本海側の寒さと湿度の高さ、雷の多さについては周りから聞いており、訪れた際に実感した。
- ・ 海産物や和菓子屋が魅力的であると感じた。

<金沢への移住の決め手・魅力等>

- 金沢への移住の決め手は、文化的な魅力が他都市と比べ高いこと、まちの中に様々な要素が凝縮され、暮らし方の選択肢が多いことが挙げられている。

～具体的な意見～

- ・ 個人的に徒歩圏内の市場や商店で買い物をし、ちゃぶ台のある和室で生活したいと考えていた。金沢は、自分が望む生活を送れる環境が残っており、移住する方はそういう金沢の魅力がわかる方が多いのではないかと感じる。
- ・ まちなかだけでなく、海や里山が近く、まちの中に暮らし方の選択肢が多いことも魅力かと思う。

- 山形、宮城、北海道、九州などを含めて移住場所を考えたが、金沢で見たたり聞いたたりしたことを人生かけて体験したいと感じ、文化性が強く、お茶やお花、人との距離感などに刺激があると感じた。
- 新築の戸建てやマンションに住むイメージが湧かず、古い建物に住む生活、暮らし方を望んでいた。全国規模で比較検討しながら町家のある都市を探していた中、金沢が最も町家の流通状況が良く、東京や大阪へのアクセス性や災害の少ない点が魅力と感じた。
- 感度の高い人たちが触発し合って集まっているまちである。

<移住前に感じた不安や障害>

- 他の土地に移り住むことに対する不安はあったが、金沢に対する特有の不安は感じられていない。

～具体的な意見～

- 漠然とした不安はあったが、金沢特有の不安はなかった。
- 金沢への移住というより、自分に対する不安はあった。
- 過去に東京から離れて暮らすことを経験したため、金沢へ移住することに対する不安はなかった。

<金沢の移住に関する情報>

- 金沢への移住に対して必要とされている情報は、地域に住む方の生の声であり、金沢に住んだ時の暮らしがイメージできる情報集を求めている。

～具体的な意見～

- 移住前は、ネットで不動産情報を得ており、趣味やライフスタイルに合わせたまちの情報があると助かると思う。
- 地域に住む年代別の住民カタログのようなものがあると良いと思う。住民の顔が見え、世代別や職業別等で索引できるものとしてまとめると移住者にとっては非常に参考になると思う。
- 地域を紹介する方の中に話し好きのリーダー（銭湯や八百屋のおばちゃん等）がいて、そのような方と直接、地域のことについて話ができる環境があると良いと思う。
- 工芸作家のおすすめ地域は材木地域である等、郊外部を含めエリアごとの個性がわかると良い。また、東京の人に金沢の地域を紹介する際には、東京 23 区の地域イメージと重ねると説明しやすいと思う（片町は新宿、南町は大手町等）。

<移住後の生活の変化や不便に感じたこと>

- 雪かきや公共交通に対する不便を感じているが、地元食材、大学生と連携したコミュニティ活動、イベントの多さに対しては面白みや豊かさを感じている。
- 収入は東京に比べ低いものの華美なことを控えれば、それほどの収入差はないと認識している。
- 仕事上の人間関係においては、新参者が入りにくい敷居の高さを感じさせられるが、仲間意識も生まれやすい空間と感じている。

～具体的な意見～

- 雪かきが大変なことと市内を運行するバスがわかりにくい点が不便に思う。ふらっとバスのルートを増やして欲しい。
- 職場付近のコミュニティ活動等に参加しており、最近の公民館活動は美大生と星空見学会を実施するなど、面白い取組を実施していると感じる。
- 地元食材が多く、旬を感じられることが嬉しい。
- 金沢は世界に向けて情報発信している都市であるためか、職に直結するイベント等が多く、東京に比べ移動時間を短くして良い情報を得られる。
- 最低賃金額は東京より低い、華美なことをしなければ、交通費や交際費も抑えられる。
- 仕事のやりやすさについては、業界内における個々のつながりが強く感じられ、新参者が入りにくい敷居の高さを感じるが、仲間意識も生まれやすい。

<移住者に必要な支援>

- 起業支援について、行動への制限を受けること等から必要性を感じていないとの意見がある一方、年齢制限等の緩和を求める声もあった。
- 中山間地域への居住や二地域居住に対する支援を求める意見が挙げられている。

～具体的な意見～

- 起業支援を受けると枠が設けられ、行動しにくくなると感じるため、必要と感じていない。
- 起業する人は行政に頼らない人が多く、基本的には助成金に頼りたいとは思っていないと思う。働く上での同業者や顧客とは、行政に頼らなくても活動上でつながりを持つので、特に支援は必要ないと思う。
- 起業支援における年齢制限の枠が厳しく、移住の際にネックになると思う。
- ものづくり関係の方は騒音等の問題もあり、まちなかに住めないため、中山間地域などへの居住ニーズへの対応も必要ではないか。
- 中山間地域の空き家に住み継ぐために、水回り改修に対する補助メニューがあるといいのではないか。
- 二地域居住に対しても交通費補助などの支援があると良いのではないか。

<若者の移住・定住を促進するためのアイデア、意見等>

- 文化的な感性の高い人が金沢へ移住しやすい傾向があり、歴史的なまちなみやものづくり等の魅力、創造性を高める取組が必要である。
- 金沢の生活を紹介する雑誌の刊行やセミナー等を通じて、金沢の魅力を移住者へ発信するPRが必要である。

～具体的な意見～

- ・京都市では空き家解消に向けてアーティストを対象とした不動産マッチングに取り組んでいる。個人で不動産屋と交渉しても信用されにくいことから、行政の仲介があるとありがたい。
- ・東山の基準が厳しすぎて個性が感じられない景観となっていると感じる。もっと多様性を認めてもいいのではないか。
- ・卯辰山工房、職人大学校、大学など経験者や若い世代が学ぶ場だけでなく、一般の方が改めて、学び直せる施設や機会があると良い。
- ・海外への情報発信を強化すれば、世界的なレベルになる可能性が有る。
- ・地域の暮らしを紹介する「湘南スタイル」という雑誌があり、その金沢版があると良い。
- ・移住者に対し、忙しすぎない、自分の好きなことができる人が沢山いることを伝えられるPRができると良いと思う。
- ・鬱々とする冬をPRするのではなく、食の美味しさやめまぐるしく変わる天気を楽しむなど、いかに金沢の冬を楽しむかを伝えた方が良い。

7. 各調査結果のまとめ

(1) 学生アンケート調査

- 学生の就職先に求める条件は、「仕事内容」「社内環境」が挙げられており、企業規模（従業員、資本金）は重視していない。
- 金沢市に住む学生は進学前から就職に対する意識が高く、まさに愛着を持つ学生ほど金沢就職に対する意向が高い。
- 北陸圏・東京圏に住む学生の金沢で働きたい主な理由には、「北陸の中心都市としての魅力」や「歴史・伝統文化の魅力」が挙げられ、金沢で働きたくない主な理由には、「金沢のことを良く知らない/興味がない」ことが挙げられている。

(2) 就業者アンケート調査

- 住みやすい主な理由には「治安が良い」「金沢のイメージが良い」が挙げられている。
- 今後、望むまちの姿には「住環境が整った、暮らしやすいまち」「子育てや教育環境が充実したまち」「公共交通が充実したまち」が主に挙げられている。
（「結婚」や「転勤」等のプライベートに関する項目は除く）

(3) 地元教育機関へのヒアリング調査

- 他県、能登地域出身の学生は自宅通学の学生に比べ、地域活動やまちなかのイベントへ積極的に参加する傾向がある。
- 北陸の学生は地元就職、Uターン志向が強い。
- 学生は企業の規模等とは関係なく「専門知識を活かせるなど自分が納得でき、やってみたいことができる企業」を優先的に就職先候補として考えているが、最終的に親の関与や意向の影響を受け、知名度の高い企業や公務員を志望するケースが多い。
学生とその親は、地元の企業を詳しく知らない状況にあり、地元で優良企業がほとんど無いとの思い込み等から知名度の低い中小企業への就職への抵抗が強くなっている。
- 大学では必修科目に地元企業等を学ぶ地域概論を設定するほか、研究室のOB・OGとの交流やインターンシップへの参加を促進し、地元企業を意識させる取組を進めている。
- 北陸新幹線金沢開業を機に東京圏からの求人が増えている中、インターンシップのプログラムの精度が高い会社やダイレクトリクルーティングに取り組む大手企業等は人材を確保している。

(4) 地元経済団体

- 金沢の強みとなる産業は「卸売・小売業」「宿泊サービス業」「その他サービス業」等が挙げられ、統計データから導き出された市内基盤産業とほぼ合致している。
- 飲食・宿泊業や建設業、運輸業、卸売小売業、介護・医療・福祉分野において人手不足にあり、特に、飲食・宿泊業や介護・医療・福祉分野は若年層も含め離職率が高いと認識されている。
- 今後、需要が見込まれる産業には、人口減少や高齢化に関連の高い医療や住宅設備維持等のほか、知的材料・スマート化技術関連が想定され、付加価値の高い伝統工芸の振興も重要である。
- 新たな起業動向については、若年層を含め商業・飲食・サービス系の起業相談が多く、美容関係のほか、趣味の延長上で行うプチ創業が増加している。
- 学生の市内就職を促すインターンシップ等の取組が進められているが、企業の負担が大きい状況にある。

(5) 学生へのグループインタビュー

- 金沢に住む学生の金沢就職を促すためには、地域コミュニティの充実を図り、まちへの愛着を高め、人とのつながりを深めることが必要。
(学生主体の町内会組織の発足→クリエイティブな発想の育成、スポーツ等の趣味を共有する場の創出 等)
- 金沢は東京に比べストレスフリーな環境にあるなど、来訪して初めて良さを感じることができ、東京圏の学生に金沢に興味を持ち、来てもらうための取組が必要。
(まちのイメージを特化した広報、大学生協と連携した格安ツアー、東京では体験できない滞在型観光の充実 等)
- 金沢就職を促すためには、就職準備期（1-2年）、就職活動期（3-4年）、就職後を考慮した取組の展開が必要。
(学生期：国内交換留学の実施、長期滞在の機会の創出 就活期：ストレスフリーな仕事環境の整備、市民との交流の機会の創出 就職期：暮らしにおける安心、安全のアピール 等)

(6) 市外からの移住者へのグループインタビュー

- 金沢を知るきっかけは家族旅行や学会等であり、訪れた時に金沢の文化に触れ、路地裏や古いまちなみ、食文化などの魅力を感じている方が多い。
- 金沢への移住の決め手は、文化的な魅力が他都市と比べ高いこと、まちの中に様々な要素が凝縮され、暮らし方の選択肢が多いことが挙げられている。
- 金沢の移住に対して必要とされている情報は、地域に住む方の生の声とエリアごとの個性であり、金沢に住んだ時の暮らしがイメージできる情報を求めている。
- 町家に暮らしてみたいというニーズは多いが、個人で交渉しても信用されにくいいため、行政の仲介を求める意見が挙げられている。
- 起業支援における年齢制限等の緩和や、二地域居住に対する支援を求める意見が挙げられている。

第4章 若年層の定住促進に向けた取組の方向性

第4章 若年層の定住促進に向けた取組の方向性

1. 基本的な取組の方向性

本調査研究で行った各種アンケート調査、ヒアリング調査、グループインタビュー調査等から抽出・整理された課題を基に、若年層の定住促進に有効と考えられる基本的な取組の方向性を以下のとおり整理する。

- 学生と企業のマッチング支援
- 進学前の児童・生徒に対する企業紹介
- 学生と親の意向のギャップ解消
- 首都圏学生への企業PR
- 金沢の経済環境に応じた支援
- 首都圏若年層への金沢の魅力PR
- 移住検討者への金沢の魅力PR
- 学生と地域との交流を促進

2. 具体的な取組の方向性

前項で設定した若年層の定住促進に向けた取組の8つの基本的な方向性の柱毎に、本調査研究から得られた重要な調査結果・課題と、その解決のためのより具体的な取組の方向性と取組の展開イメージを以下に整理する。

なお、取組の展開イメージは短期と中期に分類し、短期は1～2年、中期は3～5年の期間を想定する。また、金沢市として既に取り組んでいる施策の充実・拡充に当たるものは◇、新たに取り組むことが望まれる施策に当たるものは◆とした。

(1) 学生と企業のマッチング支援

重要な調査結果・課題

- ・大学ではインターンシップを推進しているものの、インターンシップを受け入れる地元企業の負担感は大きい。一方で、インターンシッププログラムの精度が高い企業や離職率の低い（社内環境の良い）企業は人材を確保している。
- ・金沢就職を促すためには、就職準備期（1-2年）、就職活動期（3-4年）、就職期を考慮した取組の展開が必要。



具体的な取組の方向性

○学生と地元企業のマッチングを支援

【取組の展開イメージ（短期）】

◇学生と金沢の企業をつなぐ就職支援事業の充実

⇒大学の就職担当者と企業の採用担当者の情報交換の促進

◆学生向けのポータルアプリの開発による学生への企業情報、リクルート・インターンシップ情報の提供

◆金沢への就職を希望する留学生に対する就職サポートの実施

(参考) 学生と金沢の企業をつなぐ就職支援事業

「金沢の企業を知ろう」をテーマに、本格的な就職活動を控えた学生に地元企業を知る機会を提供し、地元企業の人材確保を支援する。

主な事業内容

- ・学生と企業経営者・若手社員との交流会の開催
- ・企業現場見学会の開催
- ・合同就職説明会の開催

【取組の展開イメージ（中期）】

- ◆インターンシップをコーディネートする人材の発掘・育成及び活動の場の提供

○中小企業の採用担当者の学生向けアピール能力の向上を支援

【取組の展開イメージ（中期）】

- ◆アピール力の高い企業の事例研究等による中小企業の採用担当者向けの研修・セミナー等の開催

(2) 進学前の児童・生徒に対する企業紹介

重要な調査結果・課題

北陸圏に住む学生は、大学進学前から就職を意識する学生が多く、小中学生に地元企業をPRする取組が必要ではないか。



具体的な取組の方向性

○大学進学前の児童・生徒に対する地元企業の魅力紹介

【取組の展開イメージ（短期）】

◇小中学生を対象としたものづくり次世代担い手育成事業の充実

⇒ものづくり分野以外（サービス業等）での次世代担い手育成事業の実施

(参考) ものづくり次世代担い手育成事業

小中学校時代からものづくりの現場に触れ、体験できる場を設け、ものづくりの楽しさや大切さを感じ取ってもらうことにより、次世代のものづくり産業を担う人材の発掘・育成を目指す。

主な事業内容

- ・ものづくり体験教室の実施
- ・ものづくり工場見学
- ・子ども向けものづくり企業紹介パンフレット作成
- ・小中学生向けものづくり工場見学・ものづくり講演会開催費補助
- ・地場産品を活かしたものづくりの啓発

【取組の展開イメージ（中期）】

◆高校生を対象とした次世代担い手育成事業の展開

(3) 学生と親の意向のギャップ解消

重要な調査結果・課題

- ・ 学生は、企業規模等に関係なく、自分が納得できる就職先を選びたい思いが強いが、親の意向等の影響により知名度の高い企業や公務員を志望するケースが多い。
- ・ 金沢発祥ながら、近隣市町に移転した企業も多い。



具体的な取組の方向性

○学生の保護者への地元企業の紹介

【取組の展開イメージ（短期）】

- ◆保護者向け地元企業紹介セミナー・交流会の開催

○石川中央都市圏（金沢市・白山市・かほく市・野々市市・津幡町・内灘町）単位での地元企業の紹介

【取組の展開イメージ（中期）】

- ◆石川中央都市圏における地元企業紹介ガイドの作成

(4) 首都圏学生への企業PR

重要な調査結果・課題

北陸圏の学生はUターン志向が強い一方、地元優良企業がほとんどないとの思い込みから、戻ってくる学生が少ないのではないか。



具体的な取組の方向性

○学生向け、保護者向けU J I ターンセミナーの充実・強化

【取組の展開イメージ（短期）】

◇金沢U J I ターン応援プロジェクトの内容充実

⇒対象大学の拡大、連携する高校同窓会の拡大

⇒県外学生の地元企業でのインターンシップの促進

◆学生向けのポータルアプリの開発による学生への企業情報、リクルート・インターンシップ情報の提供（再掲）

【取組の展開イメージ（中期）】

◆優良事例の研究・提供等により、地元企業の若手社員向け研修制度の充実を支援

(参考) 金沢U J I ターン応援プロジェクト

大都市圏の学生を対象に、金沢での働きやすさと地元企業をPRし、U J I ターン就職の促進を図る。

主な事業内容

- ・学生向けU J I ターンセミナー、保護者向けU J I ターンセミナーの開催
- ・高校同窓会との連携（同窓会名簿を活用した事業PR等）
- ・U J I ターンリーフレットの作成

○U J I 就職を促進する奨励金制度の検討

【取組の展開イメージ（中期）】

◆U J I ターン就職者を採用した企業が対象者に支払う住居手当の一部上乗せ分を市が助成する制度の検討

(5) 金沢の経済環境に応じた支援

重要な調査結果・課題

- ・市内の飲食・宿泊業や医療・福祉分野等は人手不足にあるほか、若年層の離職率も高い状況にある。
- ・今後、需要が見込まれる産業には、人口減少や高齢化に関連の高い医療や住宅設備維持等のほか、知的材料・スマート化技術関連産業が想定され、付加価値の高い伝統工芸の振興も重要である。



具体的な取組の方向性

○業種に特化した就労支援や離職防止対策の実施

【取組の展開イメージ（短期）】

◇はたらく人にやさしい事業所表彰事業の内容充実

◇金沢勤労者福祉サービスセンターによる福利厚生制度の周知の強化

◇キャリアアップ促進奨励金制度の内容充実

⇒助成対象の若年層への重点化

◆人手不足となっている地元企業と若年未就職者とのマッチングを支援し、早期就労を支援するとともに、離職防止のためのセミナーを開催

(参考1) はたらく人にやさしい事業所表彰

仕事と生活の調和の促進や労働環境の改善や整備等に積極的に取り組み、具体的な成果につなげている先進的な事業所を市長表彰し、その事例を広く紹介する。

主な事業内容

- ・派遣社員等の非正規労働者の正規雇用化を推進している
- ・ワークライフバランス（仕事と生活の両立）を推進している
- ・環境、教育、子育て等の分野における社会貢献活動に取り組んでいる
- ・その他労働環境の改善や雇用問題の解決に取り組んでいる 等

(参考2) キャリアアップ促進奨励金制度

従業員を非正規雇用から正規雇用に転換した事業主に対し、国の助成制度に引き続き、奨励金を支給

対象者：国のキャリアアップ助成金の支給を受け、正規雇用を12ヶ月間継続している事業主

支給額；国の助成金の1/2

【取組の展開イメージ（中期）】

◆戦略的な重点業種（卸売業・小売業、宿泊・飲食サービス業、製造業等）の設定と雇用等の実態の把握

⇒特定業種に特化したインターンシッププログラムの検討

⇒人材の継承に向けたインターンシッププログラムの検討（伝統工芸工房での就業体験、商店街での販売体験等）

(6) 首都圏若年層への金沢の魅力PR

重要な調査結果・課題

金沢は「北陸の中心都市としての魅力」や「歴史・伝統文化の魅力」「通勤時間の短さ」「災害の少なさ・子育て環境の充実」等、魅力多いまちであるが、その魅力が東京圏に伝わっていない。



具体的な取組の方向性

○気軽に金沢に来てもらうための仕掛けづくりの検討

【取組の展開イメージ（短期）】

◇ゼミ合宿の誘致強化、ゼミ合宿参加学生への丁寧なフォローアップ
⇒金沢に関する研究テーマを設定するゼミに対する助成制度の検討

【取組の展開イメージ（中期）】

◆大学生協等との連携による金沢滞在ツアーの造成の検討

○金沢のまちの魅力、暮らしやすさ等の発信強化

【取組の展開イメージ（中期）】

◆若年層をターゲットとした魅力の磨き上げ・発信
⇒金沢＝オシャレなまち、和菓子・スイーツのまち、歴史豊かなまち等のイメージを磨き上げ、首都圏からの女子旅や歴女を誘致

(7) 移住検討者への金沢の魅力PR

重要な調査結果・課題

金沢への移住を検討している人は、地域に住む方の生の声や市内のエリアごとの個性・特徴など、金沢に移り住んだときの暮らしがイメージできる情報を求めている。



具体的な取組の方向性

○移住後の生活がイメージできる取組の推進

【取組の展開イメージ（短期）】

◇金澤ふうライフ提案事業の充実

⇒移住プロモーション動画の作成

⇒金沢に移住したクリエイター等と移住を検討している首都圏在住者との意見交換会を開催

◇起業チャレンジ若者支援事業の充実

⇒支援対象年齢の引上げ

◇起業支援の充実

⇒起業支援の相談窓口を設置するとともに、ウェブサイトやフリーペーパーにより首都圏等の起業希望者に金沢での起業の魅力を発信

◆移住者に対する定住支援制度の創設

◆金澤町家の利活用に関する相談やコンサルティングの実施

(参考1) 金澤ふうライフ提案事業

北陸新幹線金沢開業を契機とし、首都圏に在住する子育て世代のクリエイターなどに対し、金沢でしか味わえない「金澤ふうライフ」を提案し、移住や二地域居住を促す。

主な事業内容

- ・首都圏で開催する移住セミナーでのPR
- ・金澤ふうライフ体験ツアーの実施

(参考2) 起業チャレンジ若者支援事業

起業する若者への支援を通じて、商店街の活性化を図る。

対象者 : 35歳未満で、金沢市において起業を予定している者及び起業して1年以内の者

対象業種 : 小売業、飲食業、理容業、美容業

対象区域 : 市内商店街

支援内容 : 開業奨励金 限度額 500 千円

家賃助成 1年目 2 / 3 限度額 1,400 千円

2年目 1 / 2 限度額 1,000 千円

支援アドバイザーの派遣

【取組の展開イメージ（中期）】

◆移住検討者のライフスタイルや趣味に応じた情報提供

⇒先輩移住者のライフスタイルの発信

⇒移住検討者（デザイナーやクリエイター、伝統工芸作家等）のライフスタイルや趣味に応じたおすすめエリアの紹介や、そのエリアに住む住民の声の紹介

(8) 学生と地域との交流を促進

重要な調査結果・課題

- ・金沢に住む学生は、まちに愛着を持つ学生ほど金沢への就職の意向が高い。
- ・金沢に住む学生の地元就職を促すためには、地域コミュニティの充実を図り、まちへの愛着を高め、人とのつながりを深めることが必要。



具体的な取組の方向性

○学生の地域コミュニティへの参加を促進

【取組の展開イメージ（短期）】

- ◇「金沢まちづくり学生会議」「学生のまち地域推進団体」の活動内容の充実
- ◆地域住民と学生、NPO法人が連携して取り組む交流活動を支援
- ◆地域住民と学生との交流・連携をコーディネートする人材の育成
- ◆学生向けのポータルアプリの開発による学生間の交流、地域との交流の支援

(参考) 金沢まちづくり学生会議・学生のまち地域推進団体

○金沢まちづくり学生会議

学生のまちを市と協働で進めるための学生組織（学生のまち推進条例第15条）

主な活動内容

- ・地元商店街と連携した「まちなか学生まつり」の開催
- ・新入生をターゲットに金沢の魅力を伝える「オープンシティ金沢」の開催

○学生のまち地域推進団体

学生、住民、高等教育機関が地域活性化のために取り組み、交流するまちづくり組織

（学生のまち推進条例第16条）

主な活動内容

- ・地域と学生による共同イベントの開催
- ・学生が地域の活動や行事に参加するなど、相互交流の取組の推進

【取組の展開イメージ（中期）】

- ◆高校生が地元大学生と金沢の魅力や将来像について語り合い、金沢への愛着を育む

きっかけとなる交流会の開催

3. 関連機関との連携

前項で示した個々の具体的な取組の方向性について、今後、その取組を検討・推進していく際には、石川県が設置しているジョブカフェ石川や金沢大学が中心となって推進している「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COCプラス事業)等との連携・事業の棲み分け等に十分に留意していく必要がある。

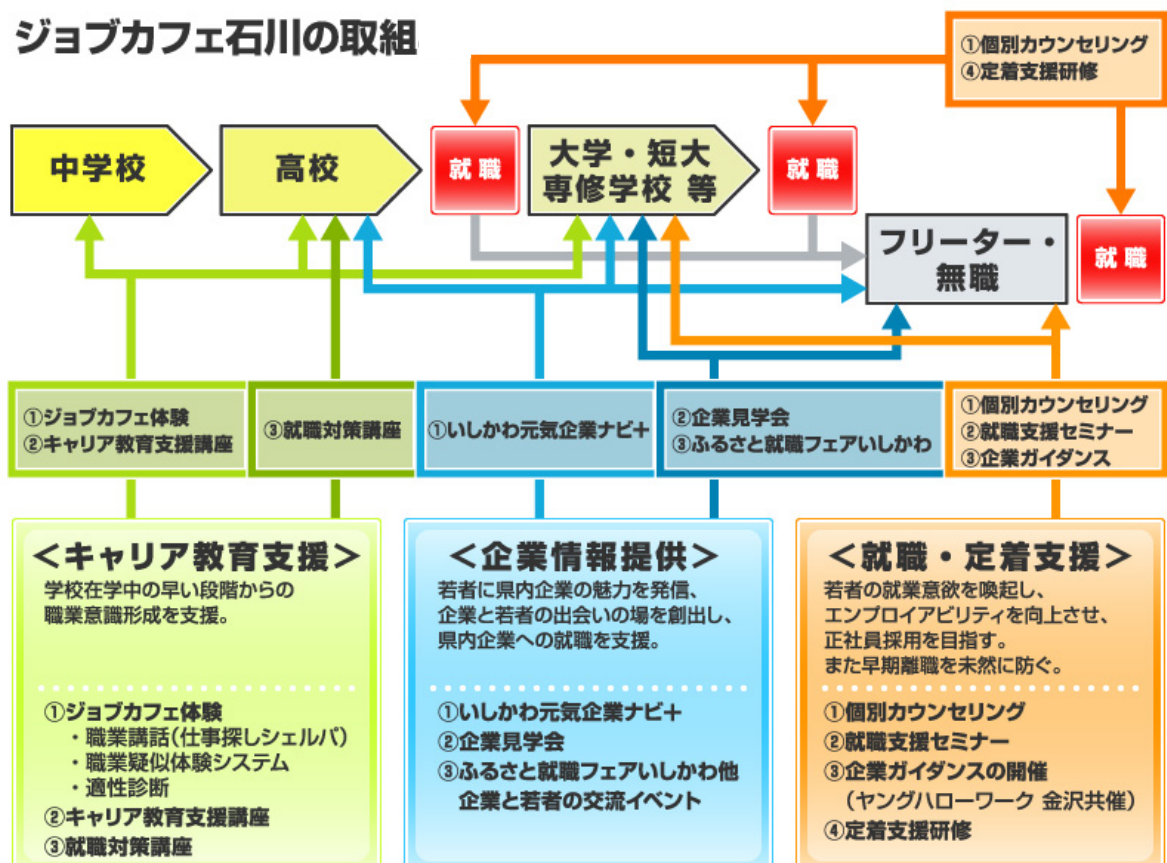
(参考1) ジョブカフェ石川の取組

ジョブカフェ石川は、地域の実情に合った若者の能力向上と就職促進を図るため、若年者が雇用関連サービスを1ヵ所でまとめて受けられるようにした就職支援のワンストップサービスセンターである。

石川県が、平成16年7月に設置し、石川県人材育成推進機構が運営を担い、35歳未満までの若年者を対象に、

- (1) 就職及び定着支援、
 - (2) 県内企業の魅力発信、
 - (3) 中学生・高校生を対象としたキャリア教育支援、
- の3つを柱に総合的な就職支援サービスを行っている。

ジョブカフェ石川の取組



(参考2) 地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COCプラス事業)の取組

平成27年度文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COCプラス事業)」において、金沢大学が申請した「金沢・加賀・能登で地域思考型教育による夢と志を持つ人材養成」が採択された。

15大学、金沢市を含む20自治体、18法人・団体が連携しながら、地域特性や課題が違う3つの地域(能登、金沢及び加賀)をフィールドとして、若者(学卒者)の石川県内での就業率向上を目指し、「ICT教育カリキュラムの開発・実施」「新インターンシップの開発・実施」「起業環境の構築」などを実施する。

平成27年度 金沢大学 地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COCプラス事業)
「金沢・加賀・能登で地域思考型教育による夢と志を持つ人材養成」
 事業期間: H27年度~H31年度 地域特性や課題が違う、いしかわを3つのフィールドに分類して若者の地域定着を促進。

教育フィールドA 能登
 里山里海分野
 ・環境に感性の高い人材養成
 ・世界農業遺産
 ・エコツーリズム
 能登を愛する地域創生人材

教育フィールドB 金沢
 国際文化都市づくり分野
 ・観光・伝統工芸文化
 ・ツーリズムの中心地
 ・ユネスコ国際文化都市
 金沢を愛する地方創生人材

教育フィールドC 加賀
 モノづくり分野
 ・クラフトマンシップ
 ・世界的モノづくり
 ・多文化共生
 ・中山間地域のモノづくり
 ・放鳥産業
 コマツ・ウェイ
 加賀を愛する地方創生人材

合計15大学、20自治体、18法人・団体

(参加大学)
 金沢大学 金沢工業大学
 石川県立看護大学 石川県立大学
 金沢星稜大学 北陸大学
 金沢学院大学 金城大学

(協力大学)
 北陸先端技術大学院大学
 金沢美術工芸大学
 金沢医科大学
 北陸学院大学
 北陸学院短期大学部
 金城大学短期大学部
 芝浦工業大学

(自治体)
 石川県 金沢市 七尾市
 小松市 輪島市 珠洲市
 加賀市 羽咋市 かほく市
 白山市 能美市 野々市市
 川北町 津幡町 内灘町
 志賀町 宝達志水町
 中能登町 穴水町 能登町

(企業・団体等)
 石川県商工会議所連合会
 石川県商工会連合会
 石川県中小企業団体中央会
 石川県鉄工機電協会
 石川県繊維協会
 石川県食品協会
 石川県情報システム工業会
 石川県産業創出支援機構
 角間里山みらい
 金沢森林組合
 小松製作所栗津工場
 大学コンソーシアム石川
 能登キャンパス構想推進協議会
 北陸銀行 北國銀行
 北國新聞社 PFU 佛子園

学卒者(若者)の地元定着に向けた「地域思考型教育」3つの取組み

1. ICT教育カリキュラムの開発・実施
 ● ICTを活用し、将来的に県内全学生が受講できる科目「地域創生概論(案)」の構築(一学年約5,000人受講)
 → 地方創生の意義から、石川の文化、自然、資源、企業が理解できるICT科目を開発、JMOOCで配信

2. 共創インターンシップの開発・実施
 ● 学生自身のキャリア・ライフ・デザインを明確にするとともに、県内優良企業とのマッチングを実施
 → 地域企業を深く理解するとともに、いしかわで働き、豊かに生活するイメージを醸成。「志」を持つ。

3. 起業環境構築「innova-emotion」
 ● 大学の知を活用し、若者に夢のある起業モデルの構築
 → いしかわで生活しても、首都圏と遜色ない情報共有・人的交流できる場を構築。若者の「夢」が実現できる自由な起業環境を自治体と協働で整備する。

上記「地域思考型教育」による地域定着雇用増に向けた5年間の取り組みにより
石川県内の就業率向上 10%を目指す

金沢大学事業説明資料(H28.1)より抜粋

調査研究委員会名簿

調査研究委員会名簿

委員長	佐無田 光	金沢大学人間社会学域教授・地域政策研究センター長
委員	新井 洋司	日本政策投資銀行北陸支店企画調査課長
	久保 雅寛	金沢市都市政策局担当部長兼企画調整課長
	武市 祥司	金沢工業大学情報フロンティア系経営情報学科教授 情報マネジメント研究所長
	城 祥子	金沢まちづくり学生会議副代表
	宅本 門示	連合石川かなざわ地域協議会事務局長 (任期 平成 27 年 11 月 2 日～平成 28 年 3 月 31 日)
	西田 満明	連合石川事務局長 (任期 平成 27 年 7 月 13 日～平成 27 年 10 月 30 日)
	林 健治	金沢商工会議所常務理事
	藤田 萬豊	(一財) 地方自治研究機構常務理事
	柚森 直弘	石川県企画振興部企画課長

(五十音順)

事務局	新保 博之	金沢市都市政策局企画調整課課長補佐
	小森 聡	金沢市都市政策局企画調整課企画係長
	中野 直人	金沢市都市政策局企画調整課主査
	吉井 剛	金沢市都市政策局企画調整課主査
	野村 卓弘	金沢市都市政策局企画調整課主任
	久保田信治	(一財) 地方自治研究機構 調査研究部主任研究員
	羽田 康宏	(一財) 地方自治研究機構 調査研究部研究員

基礎調査機関

	柳瀬 邦治	株式会社日本海コンサルタント 社会事業本部計画研究室 担当室長
	神納 毅	株式会社日本海コンサルタント 社会事業本部計画研究室 リーダー
	能村 萌	株式会社日本海コンサルタント 社会事業本部計画研究室

資料編

資料編

1. 学生へのアンケート調査票

学生へのアンケート調査

Q1 あなたの出身地を教えてください。(1つのみ選択)

- 1. 北海道
- 2. 青森県
- 3. 岩手県
- 4. 宮城県
- 5. 秋田県
- 6. 山形県
- 7. 福島県
- 8. 茨城県
- 9. 栃木県
- 10. 群馬県
- 11. 埼玉県
- 12. 千葉県
- 13. 東京都
- 14. 神奈川県
- 15. 新潟県
- 16. 富山県
- 17. 石川県
- 18. 福井県
- 19. 山梨県
- 20. 長野県
- 21. 岐阜県
- 22. 静岡県
- 23. 愛知県
- 24. 三重県
- 25. 滋賀県
- 26. 京都府
- 27. 大阪府
- 28. 兵庫県
- 29. 奈良県
- 30. 和歌山県
- 31. 鳥取県
- 32. 島根県
- 33. 岡山県
- 34. 広島県
- 35. 山口県
- 36. 徳島県
- 37. 香川県
- 38. 愛媛県
- 39. 高知県
- 40. 福岡県
- 41. 佐賀県
- 42. 長崎県
- 43. 熊本県
- 44. 大分県
- 45. 宮崎県
- 46. 鹿児島県
- 47. 沖縄県
- 48. 海外

Q2 あなたの「居住地」と「通学している学校の所在地」を教えてください。(それぞれ1つずつ選択)

	1 金沢市	2 石川県 (金沢市以外)	3 富山県	4 福井県	5 東京都	6 埼玉県	7 千葉県	8 神奈川県	9 その他の 道府県	10 学生 ではない
1. 居住地	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2. 通学している学校の所在地	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q2FA あなたの「居住地」と「通学している学校の所在地」を教えてください。(それぞれ1つずつ選択)

1. Q2S1_9 居住地/その他の道府県【 】

Q2FA あなたの「居住地」と「通学している学校の所在地」を教えてください。(それぞれ1つずつ選択)

1. Q2S2_9 通学している学校の所在地/その他の道府県【 】

Q3 Q2でお答えいただいた以下の地域に対する、「愛着や親しみ」について教えてください。(それぞれ1つずつ選択)

	1 愛着や 親しみを 感じている	2 愛着や親し みを感じて いない	3 どちらとも 言えない
1. 居住地(【Q2S1の選 択内容】【Q2S1_9FA の選択内容】)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2. 通学している学校の所 在地(【Q2S2の選 択内容】【Q2S2_9FAの	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q4 Q2でお答えいただいた「居住地」に対する「住みやすさ」について教えてください。(1つのみ選択)

- 1. 住みやすい・どちらかといえば住みやすい
- 2. どちらかといえば住みにくい・住みにくい
- 3. どちらともいえない

Q5 あなたが通っている学校種別をお答えください。(1つのみ選択)

- 1. 短期大学
- 2. 高等専門学校
- 3. 専門学校(専修学校専門過程)
- 4. 4年制大学
- 5. 6年制大学
- 6. 大学院
- 7. その他の学校【 】

Q6 あなたは、いつ頃から就職について意識しましたか(意識する予定ですか)。(1つのみ選択)

- 1. 進学前
- 2. 1年時
- 3. 2年時
- 4. 3年時
- 5. 4年時
- 6. 5年時
- 7. 6年時
- 8. 意識はしていない(いなかった)

Q7 あなたは将来、どこで仕事をしたいと考えていますか?「進学時」に考えていた意向と「現在」の意向を教えてください。(あてはまるものひとつ)※この設問は縦方向にお答えください。

	1 地元 (出身地)	2 東京都	3 神奈川県	4 千葉県	5 埼玉県	6 愛知県	7 京都府	8 大阪府	9 金沢市	10 金沢市を除く石川県	11 富山県	12 福井県	13 その他の道県	14 海外	15 どこでも良い/ 決めていない
1. 進学時	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2. 現在	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q7FA あなたは将来、どこで仕事をしたいと考えていますか?「進学時」に考えていた意向と「現在」の意向を教えてください。(あてはまるものひとつ)※この設問は縦方向にお答えください。

1. Q7S1_13 進学時/その他の道県【 】

Q7FA あなたは将来、どこで仕事をしたいと考えていますか?「進学時」に考えていた意向と「現在」の意向を教えてください。(あてはまるものひとつ)※この設問は縦方向にお答えください。

1. Q7S2_13 現在/その他の道県【 】

Q8 あなたは、前設問において「進学時」及び「現在」の仕事をしたい場所を選択した理由を教えてください。(主な理由3つまで選択)
※この設問は縦方向にお答えください。※表示されたものについてお答えください。

	1 志望する企業・職種があるから	2 レベルの高いスキルが身につけられるから	3 地元であるから	4 家業を引き継がなければならないから	5 地元から近い場所だから	6 現在の生活拠点から近いから	7 都市部へのアクセスが良いから	8 知人や友人が多くいるから	9 やりがいのある仕事に従事できると思うから	10 給与等の待遇面が良さそうだから	11 暮らしやすい環境であると思うから	12 プライベートと仕事が両立できそうだから	13 その他
1. 進学時	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2. 現在	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Q8FA あなたは、前設問において「進学時」及び「現在」の仕事をしたい場所を選択した理由を教えてください。(主な理由3つまで選択)
※この設問は縦方向にお答えください。※表示されたものについてお答えください。

1. Q8S1_13 進学時／その他【 】

Q8FA あなたは、前設問において「進学時」及び「現在」の仕事をしたい場所を選択した理由を教えてください。(主な理由3つまで選択)
※この設問は縦方向にお答えください。※表示されたものについてお答えください。

1. Q8S2_13 現在／その他【 】

Q9 あなたは、就職した際に許容できる片道の通勤時間を教えてください。(1つのみ選択)※就職意向の無い方についても、就職した際のことをイメージしてお答えください。

- 1. 30分未満
- 2. 30分～1時間未満
- 3. 1時間～1時間30分未満
- 4. 1時間30分～2時間未満
- 5. 2時間以上

Q10 あなたは、就職活動を実施するに当たり、どのような媒体から情報を得ようと思いますか。(主なものを3つまで選択)

- 1. 学校の求人情報
- 2. 企業HP・広告
- 3. マイナビ等の就職情報サイト
- 4. フェイスブック等のSNS
- 5. 合同企業説明会
- 6. 家族や知人からの紹介
- 7. 先輩や同級生等からの口コミ
- 8. 教員からの紹介
- 9. 企業情報雑誌
- 10. その他【 】
- 11. 就職活動を行う予定はない

Q14 あなたは就職活動時に金沢市に本社や事務所がある企業情報を見た、若しくは見たいと思いますか。(1つのみ選択)

- 1. 見た
- 2. 見ていないが、見たいと思う
- 3. 見ていないし、見たいと思わない
- 4. 覚えていない/わからない

Q15 あなたは金沢市の企業へのインターンシップ(就業体験)の機会があれば、参加したいと思いますか(1つのみ選択)

- 1. 参加したい
- 2. 参加したくない
- 3. わからない

Q16 今年3月に北陸新幹線が金沢まで開業し、金沢-東京間を約2時間30分で移動できるようになりました。あなたは金沢市で働きたいと思いますか。(1つのみ選択)

- 1. 金沢市で働きたいと思う
- 2. 金沢市で働きたいと思わない/働けないと思う

Q17

Q16で「1.金沢市で働きたいと思う」と回答した方にお聞きします。金沢市で働きたいと思う理由を重視する順に3つ教えて下さい。

	1 志望する企業・職種があるから	2 都会と比べ、プライベートの時間が得られやすそうだから	3 北陸地方の中心都市であり買い物などが適度に便利であるから	4 東京へのアクセスが良いから	5 人が多すぎず、落ち着いて暮らせそうだから	6 自然が豊かであり、四季を楽しみながら快適な生活を営めるから	7 歴史的なまちなみや伝統文化に魅力を感じるから	8 伝統工芸をはじめとした創作活動が盛んだから	9 充実した食文化に魅力を感じるから	10 災害が少なく安全・安心に暮らすことができそうだから	11 金沢の人は人情に厚く、親切にしてくれそうだから	12 知人や友人が多くいるから	13 地元だから/地元から近いから	14 家業を引き継がなければならないから	15 その他
1. 1位/番目	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
2. 2位/番目	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
3. 3位/番目	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	

Q18 Q16で「2.金沢市で働きたいと思わない/働けないと思う」と回答した方にお聞きます。金沢市で働きたくないと思う理由を重視する順に3つ教えて下さい。

	1 志望する企業・職種の選択肢が少ないから	2 レベルの高いスキルが身につけられないから	3 給与や待遇面が悪そうだから	4 買い物不便だから	5 交通の便が悪そうだから	6 人が多く、賑やかで落ち着いて暮らせないから	7 地方都市であり、落ち着きすぎているから	8 雨や雪など天候が悪く、暮らしにくそうだから	9 地域独自のルールなど近所づきあいが煩わしいから	10 地元から離れたいから	11 家業を引き継がなければならないから	12 東京等から金沢にすぐアクセスでき、金沢で働く必要性を感じないから	13 金沢のことを良く知らない/興味が無いから	14 その他
1. 1位/番目	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
2. 2位/番目	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
3. 3位/番目	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	

2. 学生へのアンケート調査結果の詳細

1) アンケート調査概要

目的	若年層の進学や就職に際しての人口流出入の実態や意向を把握する
調査対象	①金沢市に在住の高等教育機関に進学する学生 ②北陸圏（金沢市を除く石川県、富山県、福井県）に在住の高等教育機関に通学する学生 ③東京圏（東京都、埼玉県、神奈川県、千葉県）に在住の高等教育機関に通学する学生
調査方法	インターネットを用いてアンケート調査を実施
回収数	484 票（金沢市 83 票、北陸圏 143 票、東京圏 258 票）
回答者属性（性別）	男性：159 人（32.9%）、女性：325 人（67.1%）

2) アンケート結果まとめ

【就職を意識した時期、仕事をしたい場所・理由】

- ・金沢市や北陸圏に住む学生は「進学前」から就職に対する意識が高く、「地元であるから」「暮らしやすい環境であるから」を理由に「地元（出身地）」での就職を希望する割合が高い。(p. 120、p. 122、p. 124、p. 125)
- ・東京圏に住む学生は「3年時」に就職に対する意識が高まり、「志望する企業・職種があるから」「都市部へのアクセスが良いから」「暮らしやすい環境であると思うから」を理由に「東京都」での就職を希望する割合が高い。(p. 120、p. 122、p. 126)

【就職活動を実施する際の情報源】

- ・就職活動において利用する情報収集媒体では、金沢市や北陸圏に住む学生では「学校の求人情報」「合同企業説明会」「教員からの紹介」の割合が東京圏より高くなっており、東京圏では、「企業HP・広告」「マイナビ等の就職情報サイト」の割合が高くなっている。(p. 129)

【就職したい業種】

金沢市：「医療、福祉」「製造業」「公務」(p. 132)

北陸圏：「医療、福祉」「学術研究、専門・技術サービス業」「製造業」(p. 132)

東京圏：「医療、福祉」「金融業、保険業」「教育、学習支援業」(p. 132)

【就職の決め手となる条件】

- ・就職の決め手となる条件は、居住地による大きな差は無く、「仕事内容（営業、事務、技術等）」「社内環境」が重視され、「企業規模（従業員数、資本金等）」はあまり重視されていない。(p. 133)

【金沢市の企業へのインターンシップ参加意向】

- ・金沢市の企業へのインターンシップ参加意向は、金沢市に住む学生が約4割、北陸圏が約3割、東京圏が約2割参加したいと回答している。(p. 135)

【金沢市の企業への就職意向】

- ・ 金沢市の企業への就職意向は、金沢市に住む学生が約 5 割、北陸圏が約 4 割、東京圏が約 1 割就職したいと回答し、金沢市に住む学生は、まさに愛着や親しみを感じている学生やまちが住みやすいと感じている学生ほど金沢就職に対する意向が高くなっている。(p. 136、p. 137)

【金沢市で働きたい理由】

金沢市：「地元だから／地元から近いから」「志望する企業・職種があるから」(p. 139)

北陸圏：「地元だから／地元から近いから」「地方都市の中心都市であり買い物などが適度に便利であるから」(p. 140)

東京圏：「歴史的なまちなみや伝統文化に魅力を感じるから」「志望する企業・職種があるから」(p. 141)

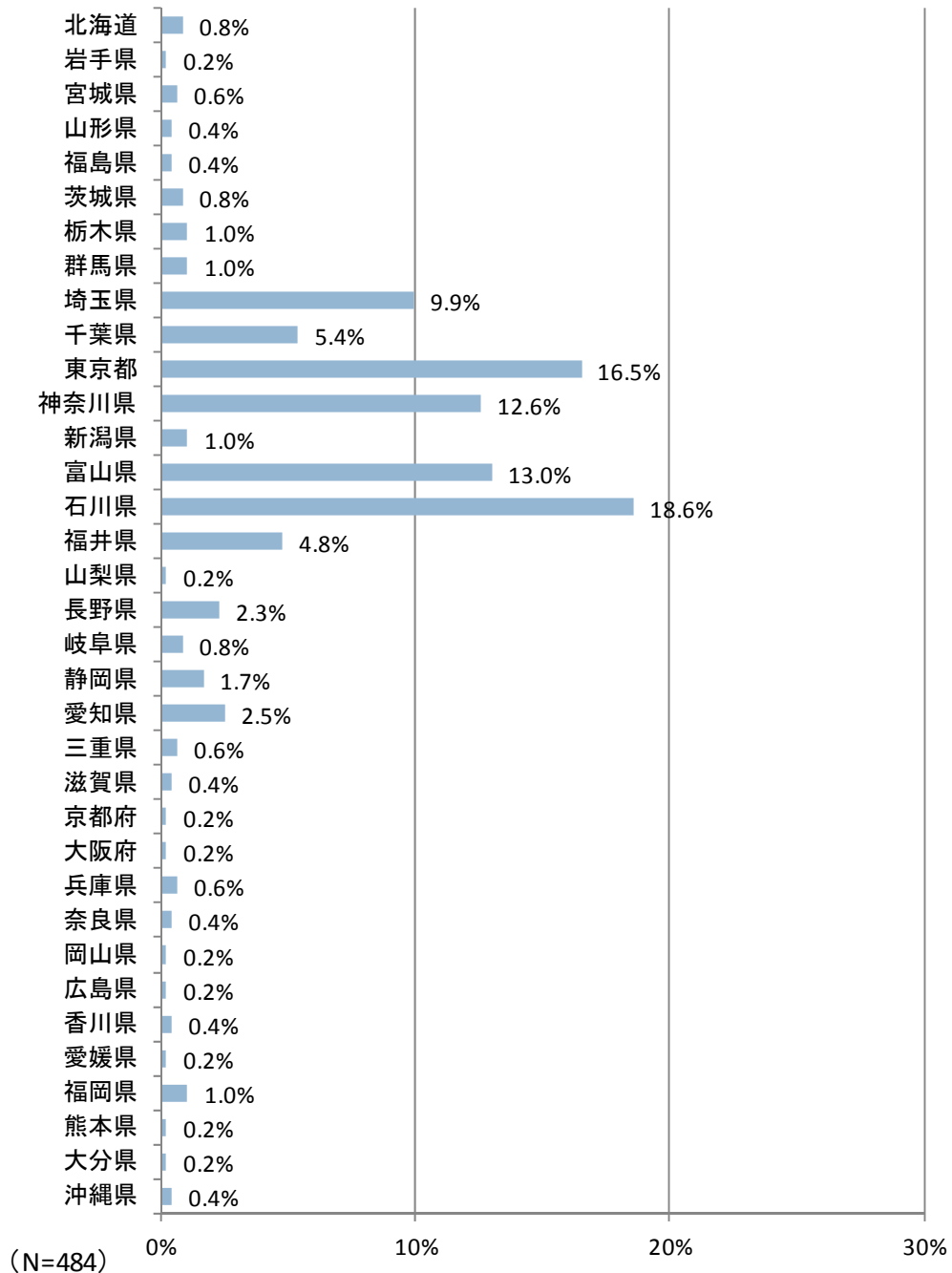
【金沢市で働きたくない理由】

金沢市：「志望する企業・職種の選択肢が少ないから」(p. 144)

北陸圏・東京圏：「金沢のことを良く知らない／興味がないから」(p. 145、p. 146)

3) アンケート結果

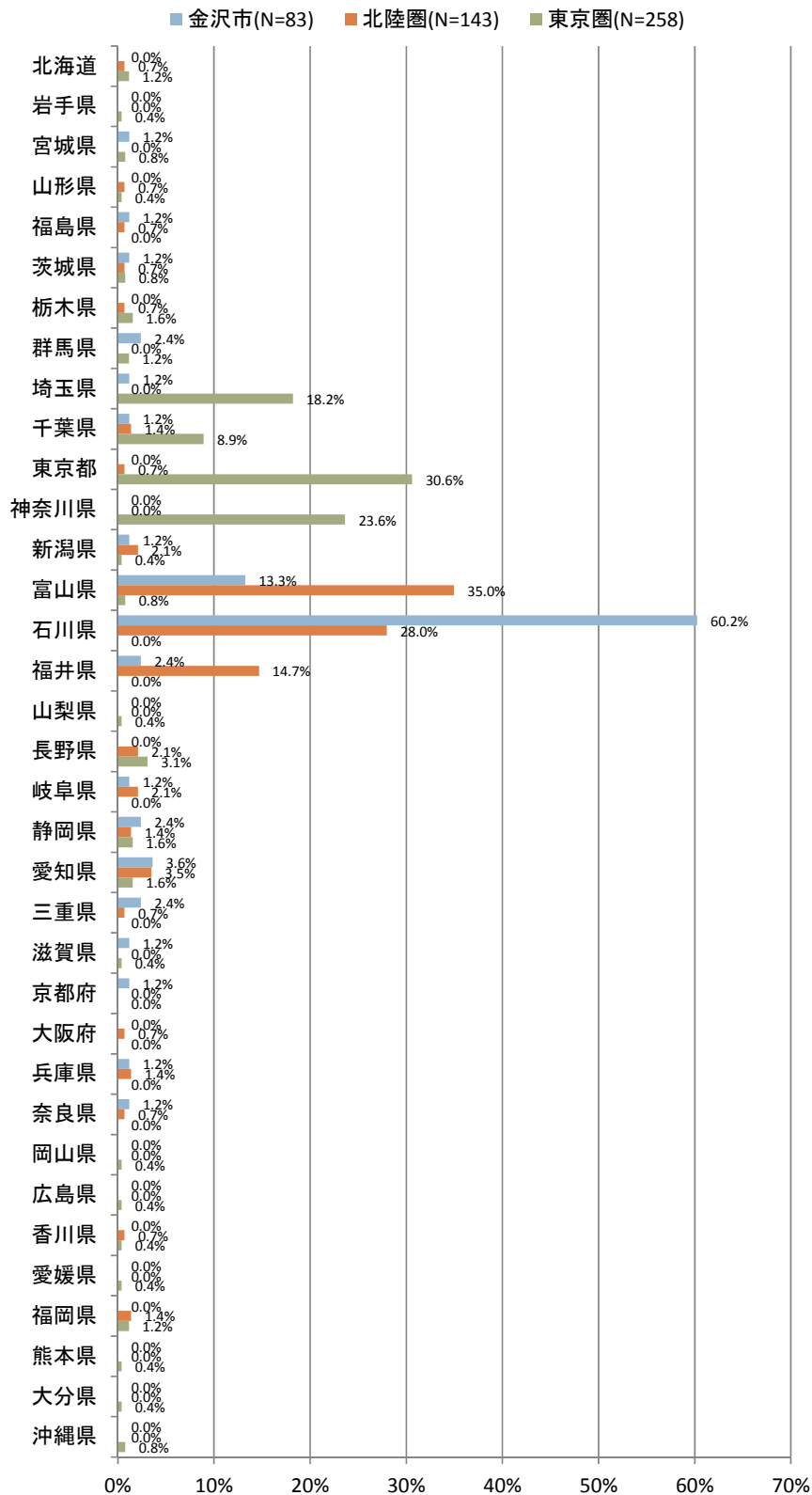
問1	あなたの出身地を教えてください。(1つのみ選択)
	・「石川県」が最も多く 18.6%を占め、次いで「東京都」が 16.5%、「富山県」が 13.0%となっている。



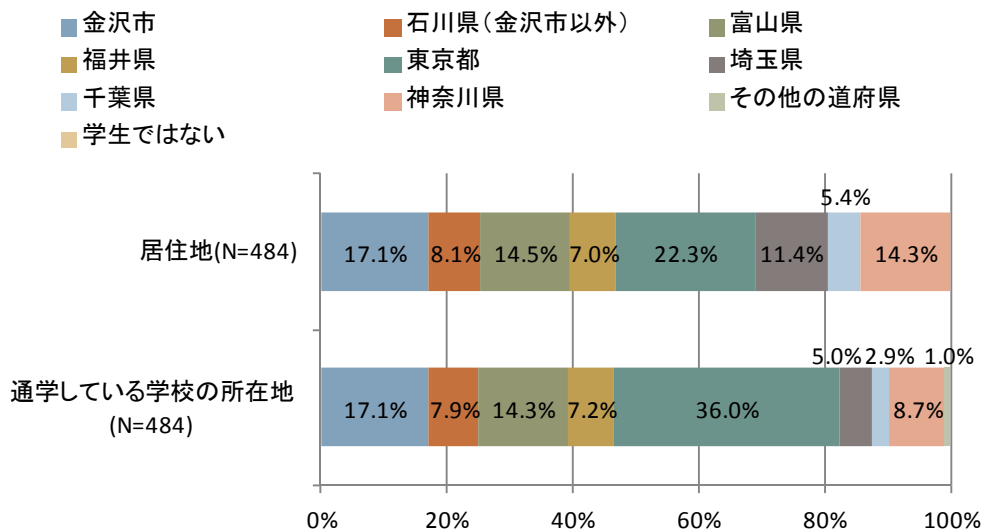
※回答のあった都道府県のみ表記

【居住地クロス】

・“金沢市”に住む学生では「石川県」が最も多く 60.2%を占めている。

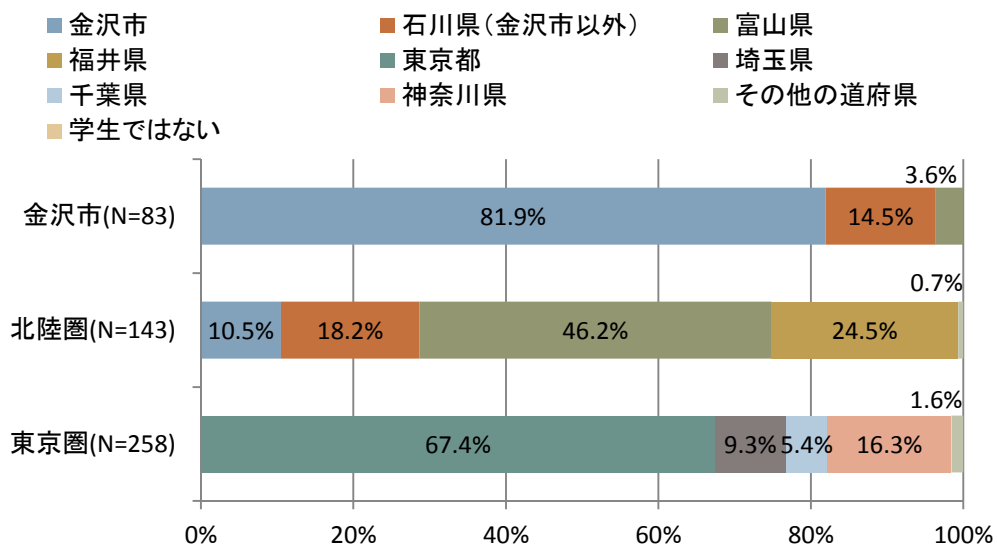


問2	あなたの「居住地」と「通学している学校の所在地」を教えてください。(それぞれ1つずつ選択)
<ul style="list-style-type: none"> ・“居住地”では「東京都」が最も多く22.3%を占め、次いで「金沢市」が17.1%、「富山県」が14.5%となっている。 ・“通学している学校の所在地”では「東京都」が最も多く36.0%を占め、次いで「金沢市」が17.1%、「富山県」が14.3%となっている。 ・「東京都」の割合が“居住地”では22.3%に対し、“通学している学校の所在地”では36.0%を占め、13.7ポイント高くなっている。 	



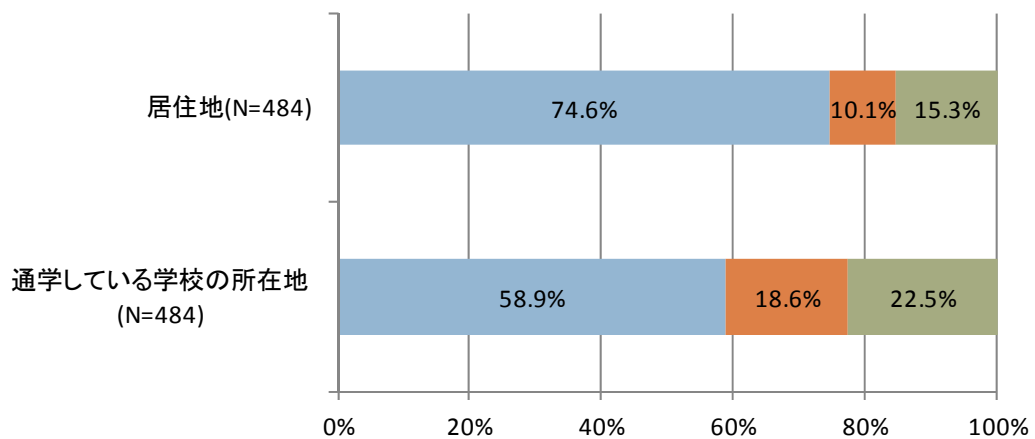
【居住地クロス（通学している学校の所在地）】

<ul style="list-style-type: none"> ・“金沢市”に住む学生では「金沢市」が最も多く81.9%を占めている。 ・“東京圏”に住む学生では「東京都」が最も多く67.4%を占めている。 	
--	--



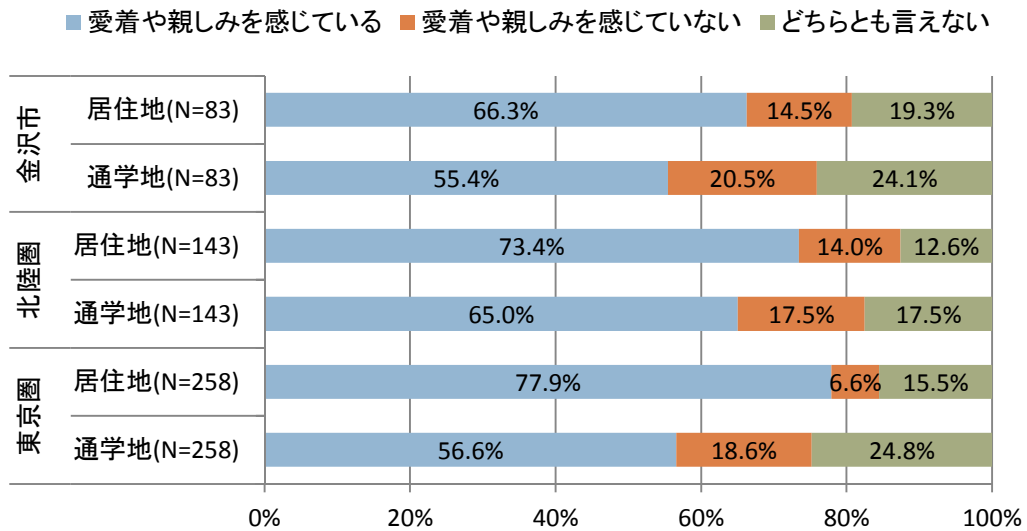
問3	問2でお答えいただいた以下の地域に対する、「愛着や親しみ」について教えてください。 (それぞれ1つずつ選択)
<ul style="list-style-type: none"> ・“居住地”では「愛着や親しみを感じている」が最も多く74.6%を占め、次いで「どちらとも言えない」が15.3%、「愛着や親しみを感じていない」が10.1%となっている。 ・“通学している学校の所在地”では「愛着や親しみを感じている」が最も多く58.9%を占め、次いで「どちらとも言えない」が22.5%、「愛着や親しみを感じていない」が18.6%となっている。 ・“居住地”の方が“通学している学校の所在地”と比べて「愛着や親しみを感じている」割合が15.7ポイント高く、「愛着や親しみを感じていない」割合が8.5ポイント低くなっている。 	

■ 愛着や親しみを感じている ■ 愛着や親しみを感じていない ■ どちらとも言えない

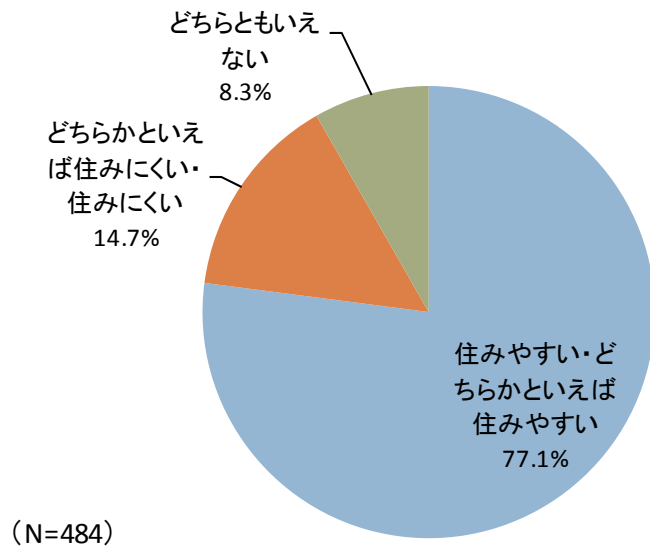


【居住地クロス】

・居住地に対して「愛着や親しみを感じている」と回答した割合は“東京圏”に住む学生が最も多く77.9%を占め、通学地に対しては“北陸圏”に住む学生が最も多く65.0%となっている。

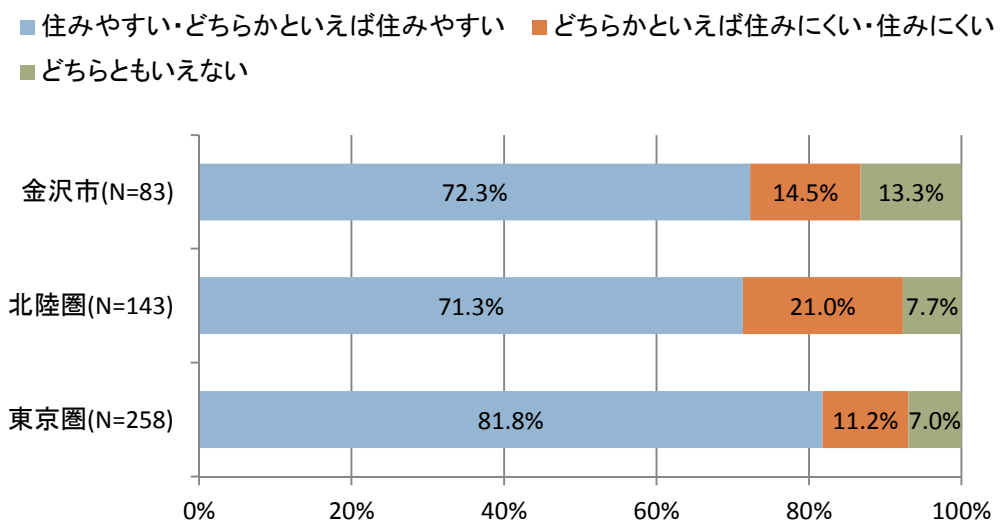


問4	問2でお答えいただいた「居住地」に対する「住みやすさ」について教えてください。(1つのみ選択)
<p>・「住みやすい・どちらかといえば住みやすい」が最も多く77.1%を占め、次いで「どちらかといえば住みにくい・住みにくい」が14.7%、「どちらともいえない」が8.3%となっている。</p>	



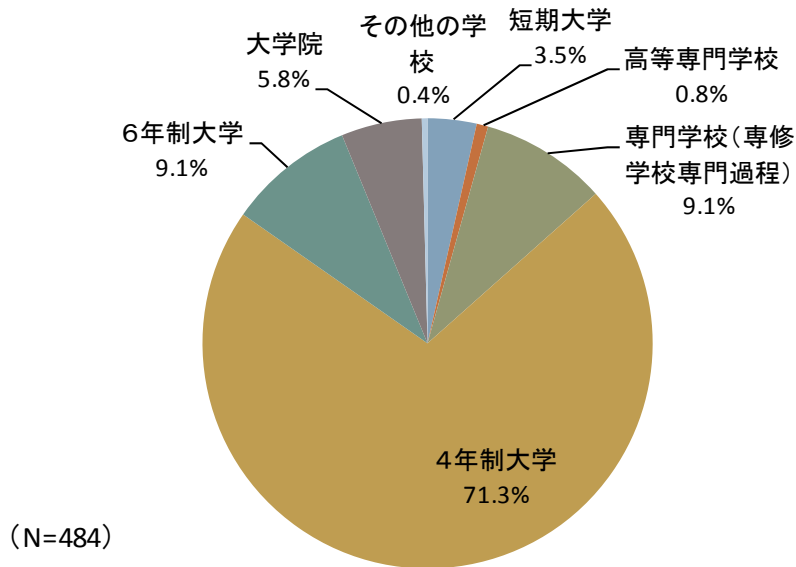
【居住地クロス】

<p>・“東京圏”に住む学生では「住みやすい・どちらかといえば住みやすい」が81.8%を占め、他の居住地と比べて9.5ポイント以上高くなっている。</p>



問5 あなたが通っている学校種別をお答えください。(1つのみ選択)

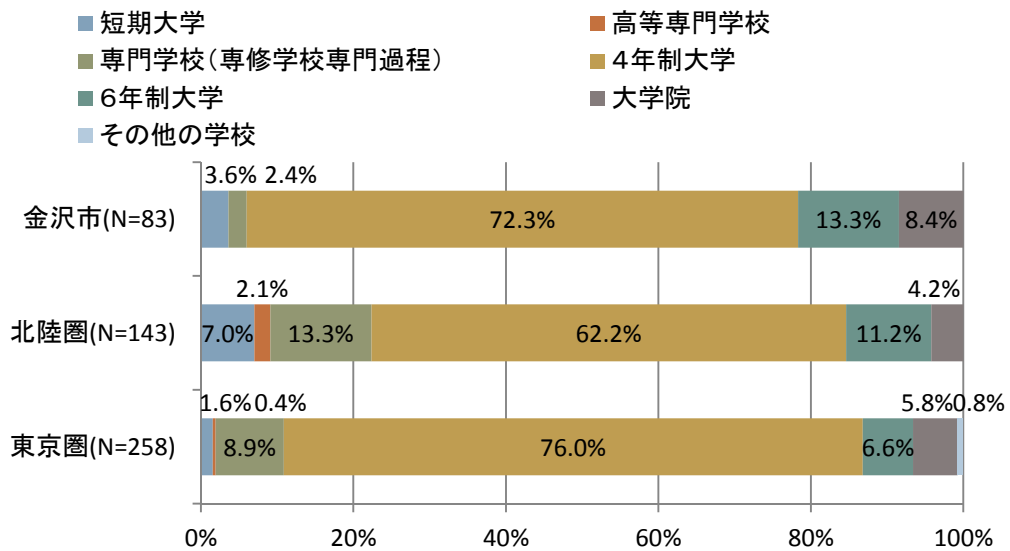
・「4年制大学」が最も多く71.3%を占め、次いで「専門学校（専修学校専門過程）」「6年制大学」がそれぞれ9.1%となっている。



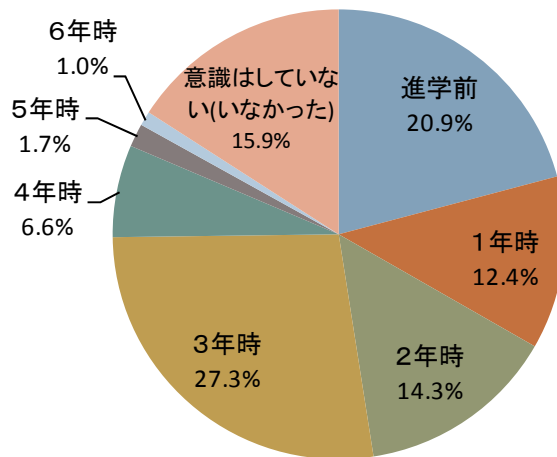
【居住地クロス】

・“金沢市”や“北陸圏”に住む学生では「6年生大学」の割合がそれぞれ13.3%、11.2%と“東京圏”と比べて高くなっている。

・“北陸圏”に住む学生では、「短期大学」が7.0%、「専門学校（専修学校専門課程）」が13.3%と他の居住地と比べて高くなっている。



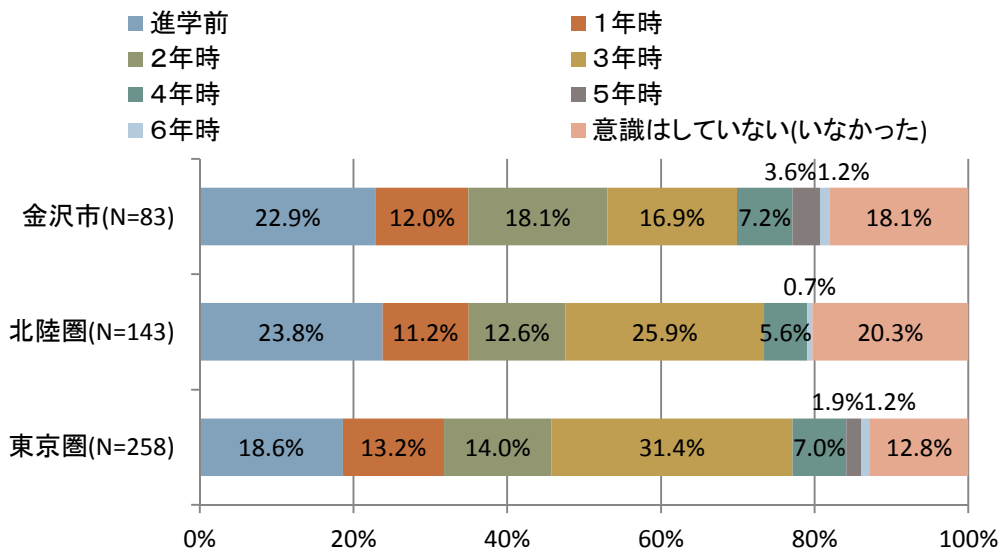
問6	あなたは、いつ頃から就職について意識しましたか(意識する予定ですか)。(1つのみ選択)
<p>・「3年時」が最も多く27.3%を占め、次いで「進学前」が20.9%、「意識はしていない(いなかった)」が15.9%となっている。</p>	



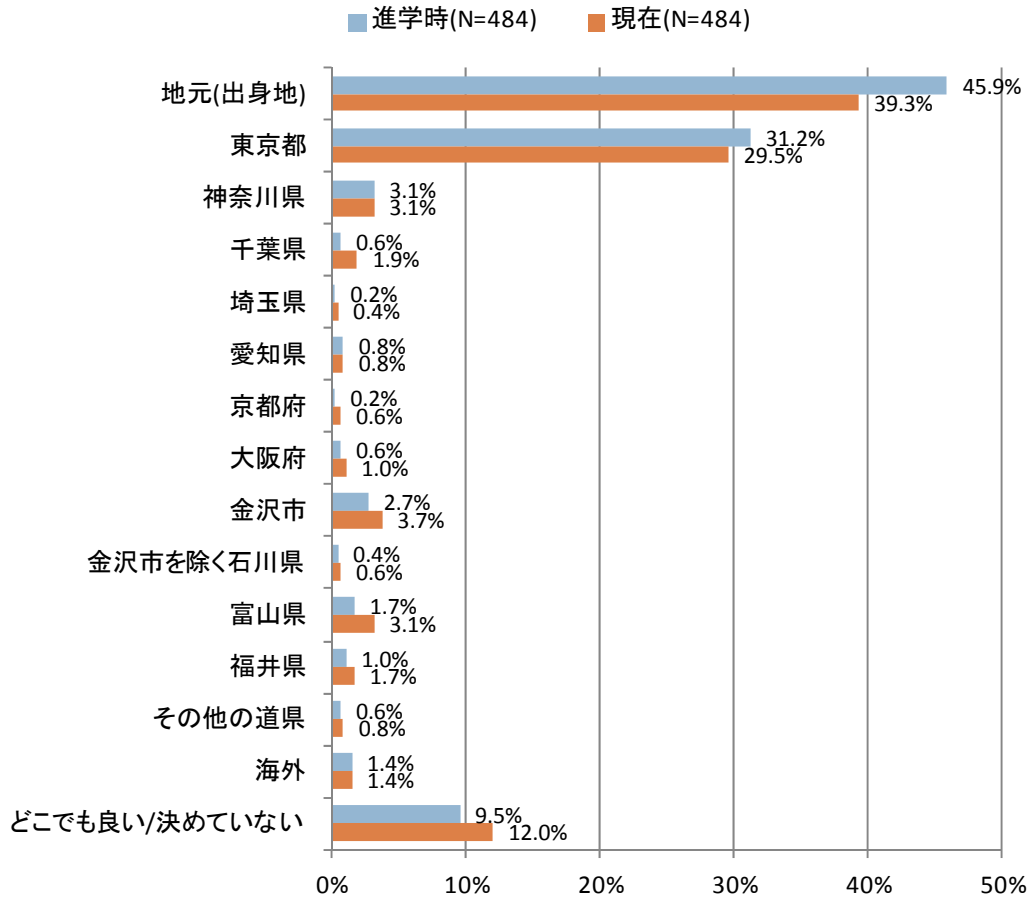
(N=484)

【居住地クロス】

<p>・“金沢市”や“北陸圏”に住む学生では、「進学前」の割合が“東京圏”と比べて高いが、「意識はしていない(いなかった)」の割合も高くなっている。</p>	
--	--

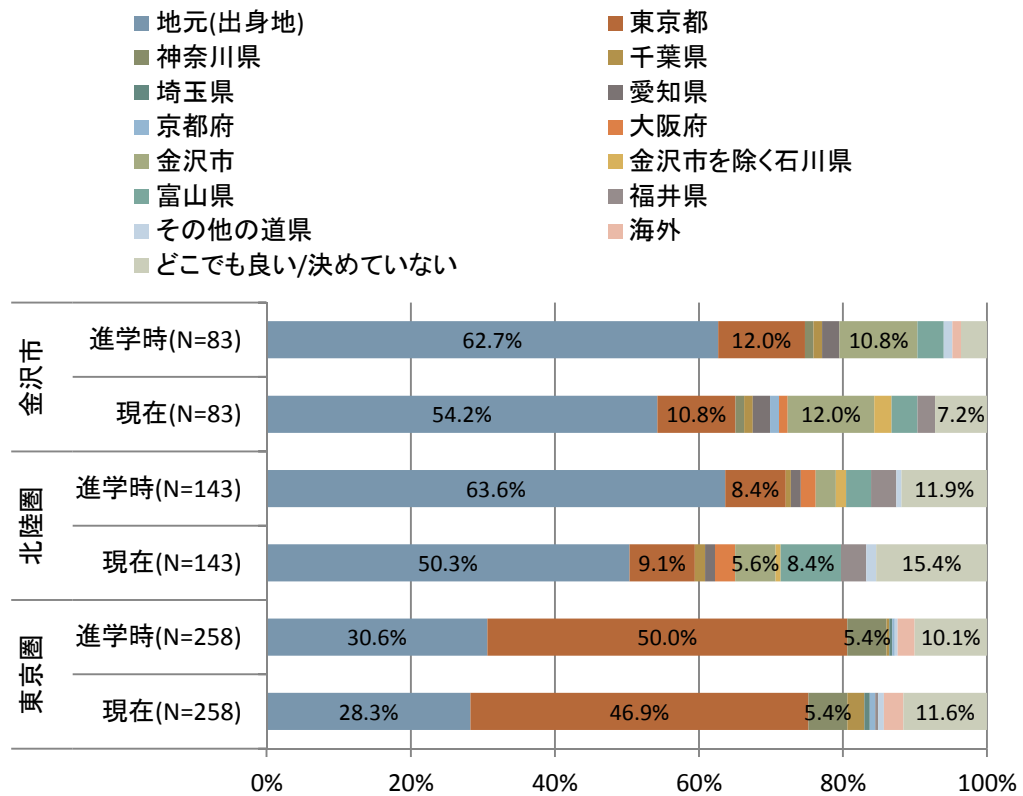


問7	あなたは将来、どこで仕事をしたいと考えていますか?「進学時」に考えていた意向と「現在」の意向を教えてください。(それぞれ1つずつ選択)
<p>・“進学時”“現在”共に「地元(出身地)」が最も多くなっているが、“進学時(45.9%)”と比べて“現在(39.3%)”では6.6ポイント低くなっている。</p>	



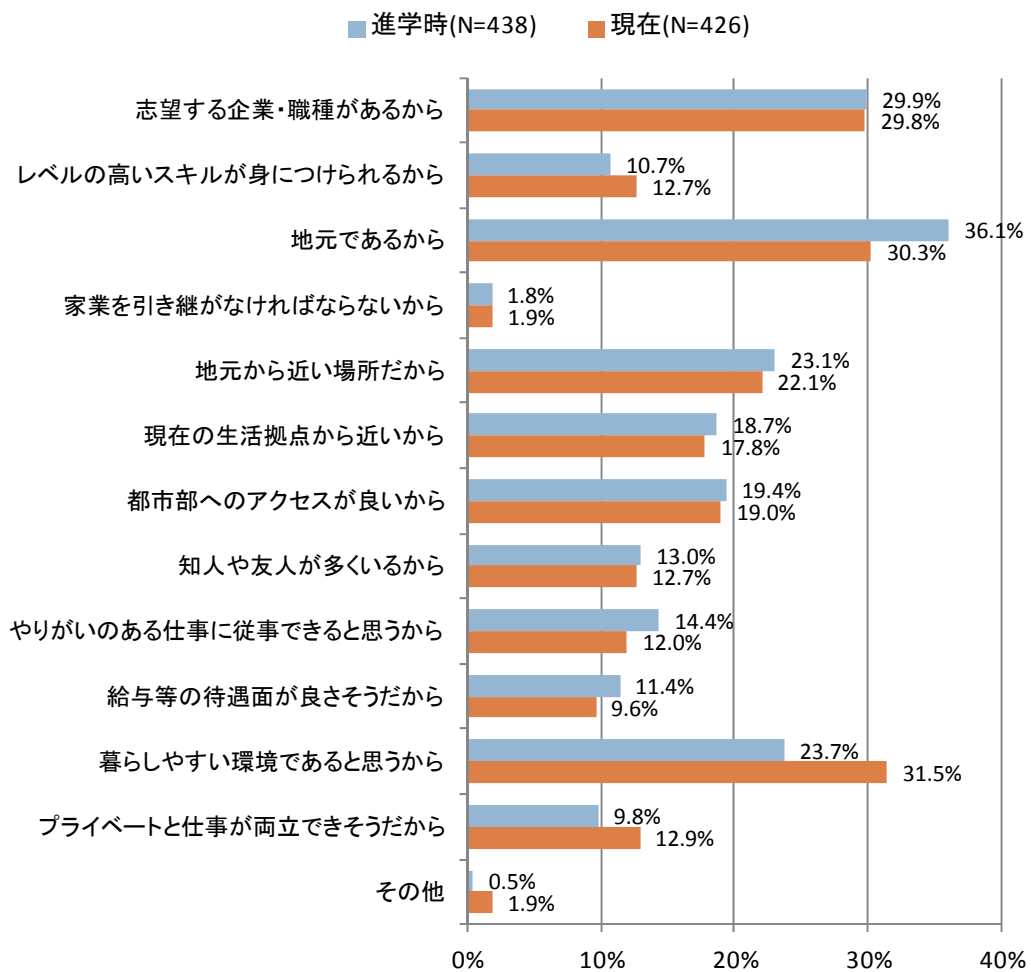
【居住地クロス】

・“金沢市”や“北陸圏”に住む学生では進学時、現在ともに「地元（出身地）」が最も多いが、“東京圏”に住む学生では進学時、現在ともに「東京都」が最も多くなっている。



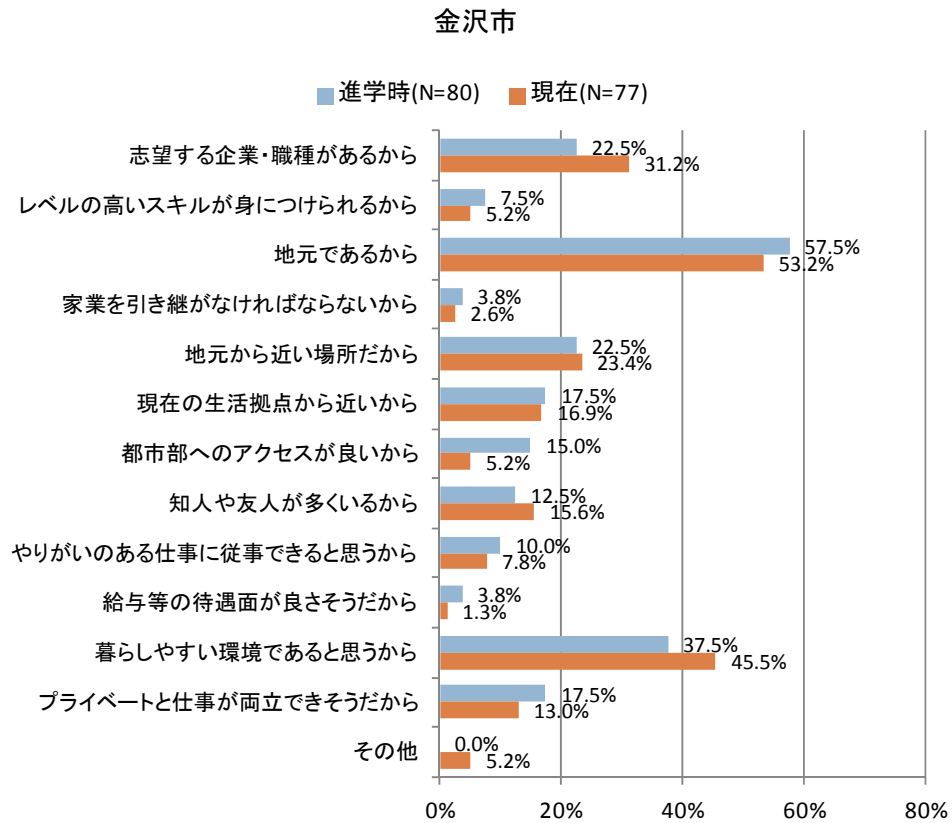
※5.0%以下は表示省略

問8	あなたは、前設問において「進学時」及び「現在」の仕事をしたい場所を選択した理由を教えてください。(主な理由3つまで選択)
<ul style="list-style-type: none"> ・“進学時”では「地元であるから」が最も多く36.1%を占め、次いで「志望する企業・職種があるから」が29.9%、「暮らしやすい環境であると思うから」が23.7%となっている。 ・“現在”では「暮らしやすい環境であると思うから」が最も多く31.5%を占め、次いで「地元であるから」が30.3%、「志望する企業・職種があるから」が29.8%となっている。 ・“進学時”と比べて“現在”では「地元であるから」が5.8ポイント低く、「暮らしやすい環境であると思うから」が7.8ポイント高くなっている。 	



【居住地クロス・金沢市】

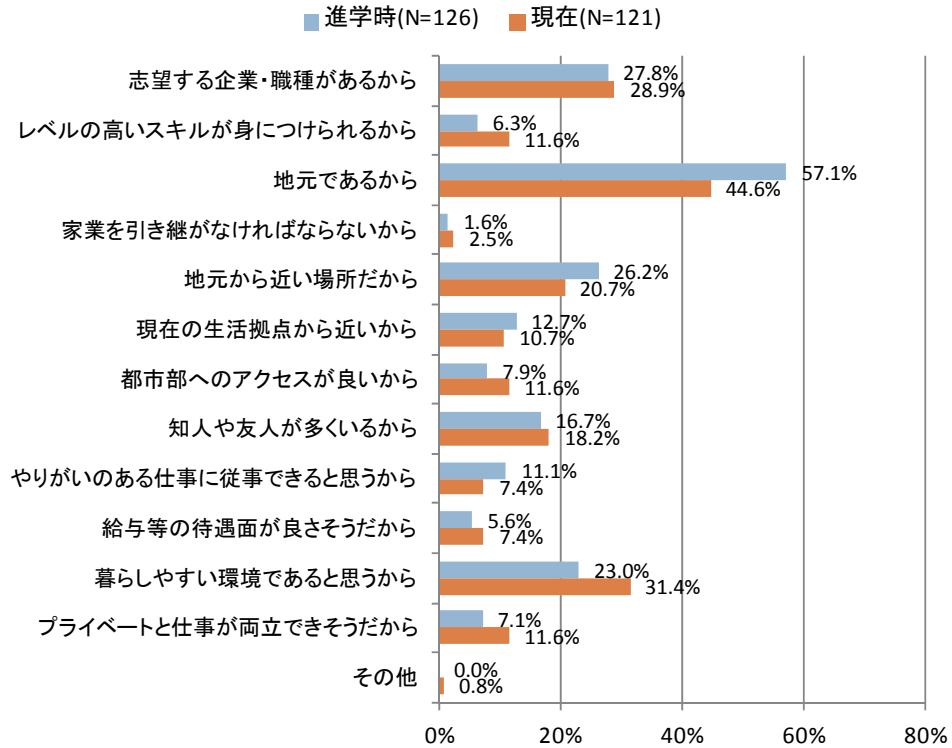
・“進学時”と比べて“現在”では「都市部へのアクセスが良いから」が9.8ポイント低くなっており、「志望する企業・職種があるから」が8.7ポイント、「暮らしやすい環境であると思うから」が8.0ポイント高くなっている。



【居住地クロス・北陸圏】

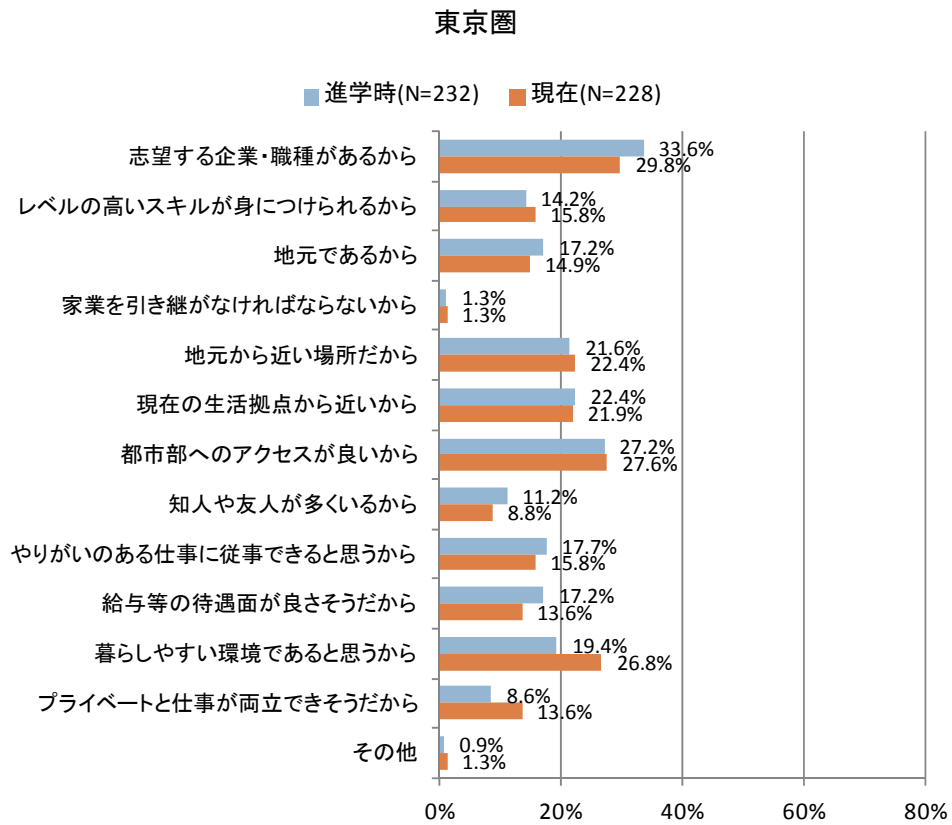
・“進学時”と比べて“現在”では「地元であるから」が12.5ポイント低くなっており、「暮らしやすい環境であると思うから」が8.4ポイント高くなっている。

北陸圏



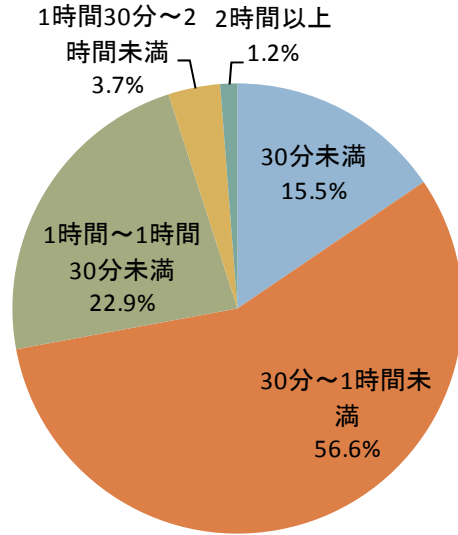
【居住地クロス・東京圏】

・“進学時”と比べて“現在”では「暮らしやすい環境であると思うから」が7.4ポイント、「プライベートと仕事が両立できそうだから」が5.0ポイント高くなっている。



問9 あなたの就職した際に許容できる片道の通勤時間を教えてください。(1つのみ選択)
 ※就職意向の無い方についても、就職した際のことをイメージしてお答えください。

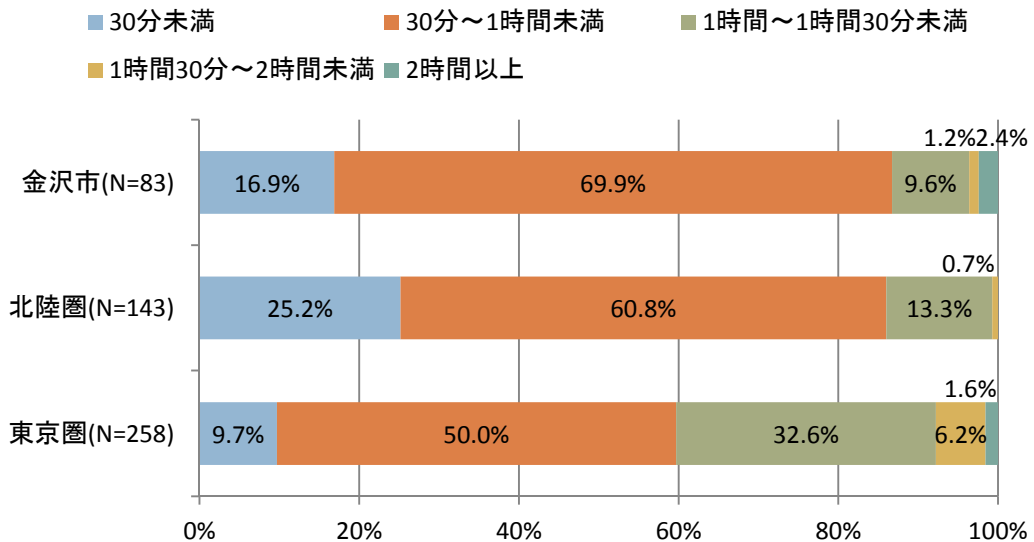
・「30分～1時間未満」が最も多く 56.6%を占め、次いで「1時間～1時間30分未満」が 22.9%、「30分未満」が 15.5%となっている。



(N=484)

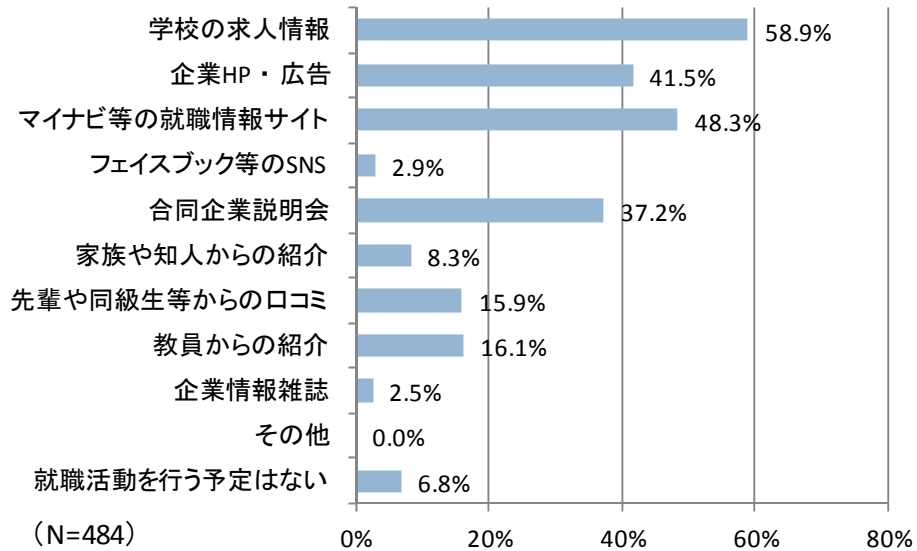
【居住地クロス】

・“東京圏”に住む学生では「1時間～1時間30分未満」が 32.6%を占め、他の居住地と比べて 19.3 ポイント以上高くなっている。



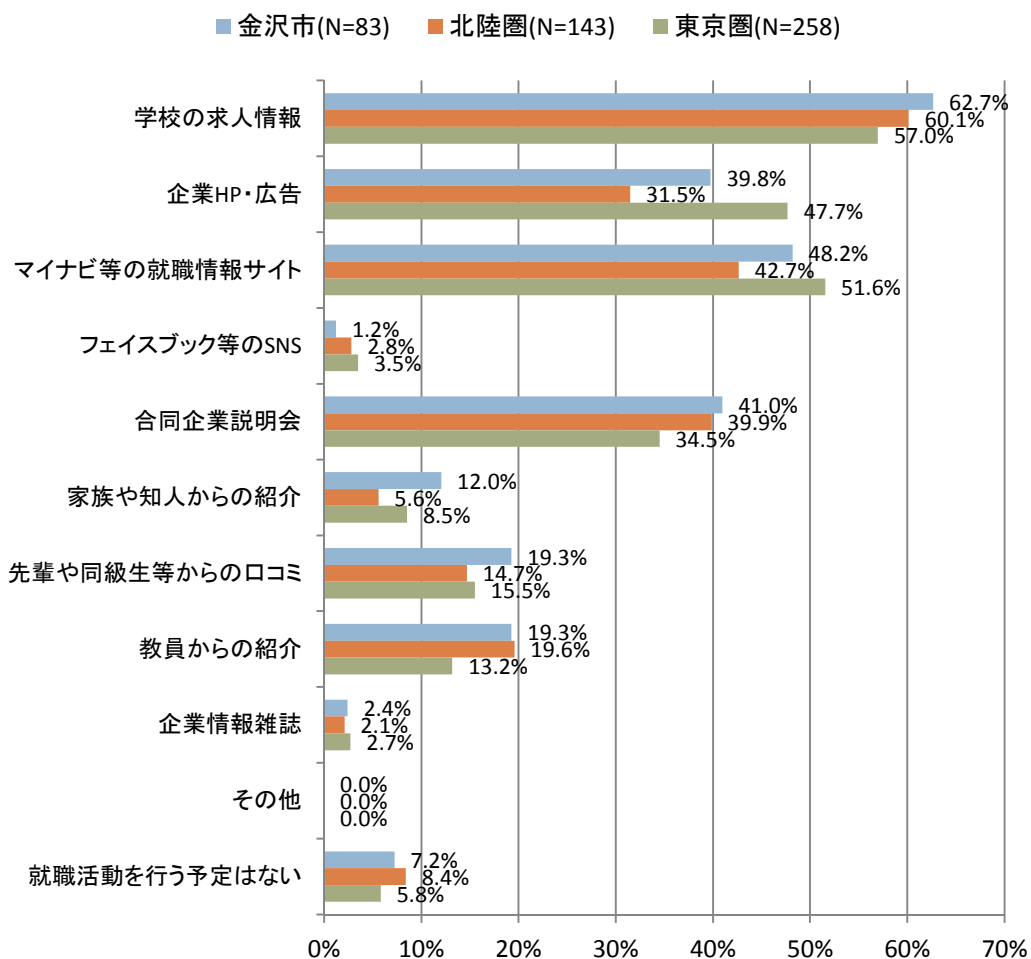
問 10 あなたは、就職活動を実施するに当たり、どのような媒体から情報を得ようと思いますか。(主なものを3つまで選択)

・「学校の求人情報」が最も多く 58.9%を占め、次いで「マイナビ等の就職情報サイト」が 48.3%、「企業HP・広告」が 41.5%となっている。



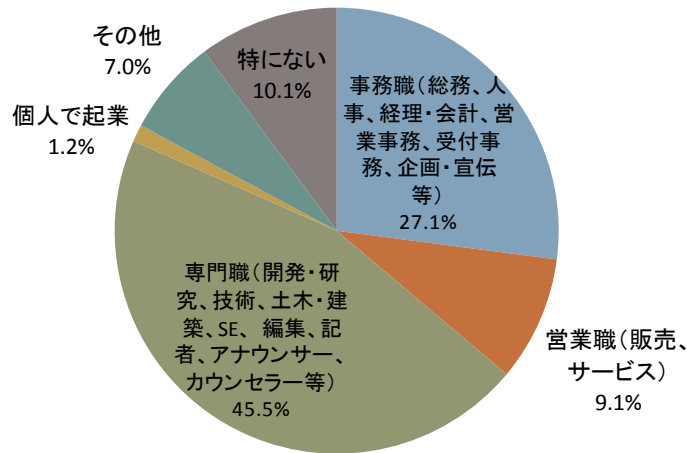
【居住地クロス】

- ・“東京圏”に住む学生では「企業HP・広告」が47.7%を占め、他の居住地と比べて7.9ポイント以上高くなっている。
- ・“金沢市”や“北陸圏”に住む学生では「学校の求人情報」「合同企業説明会」「教員からの紹介」が“東京圏”に住む学生と比べて高くなっている。



問 11 あなたは、どのような職種で働きたいと考えていますか。(1つのみ選択)

・「専門職（開発・研究、技術、土木・建築、SE、編集、記者、アナウンサー、カウンセラー等）」が最も多く 45.5%を占め、次いで「事務職（総務、人事、経理・会計、営業事務、受付事務、企画・宣伝等）」が 27.1%、「営業職（販売、サービス）」が 9.1%となっている。

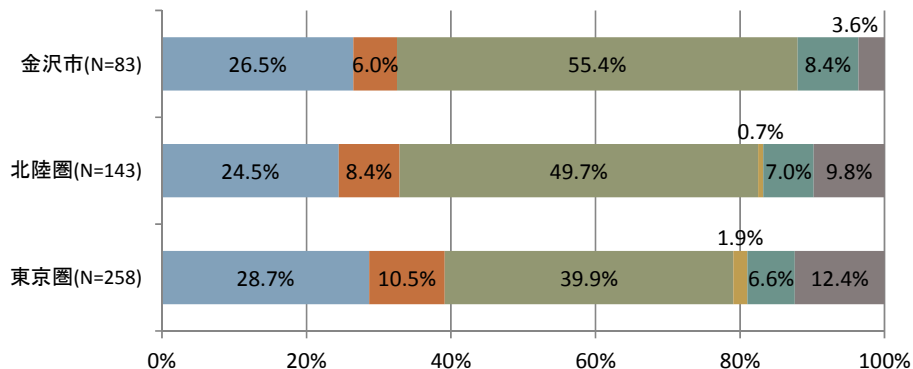
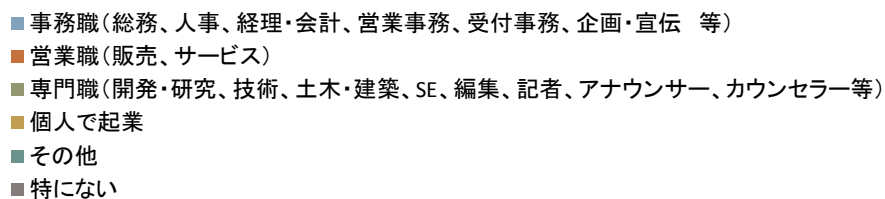


(N=484)

【居住地クロス】

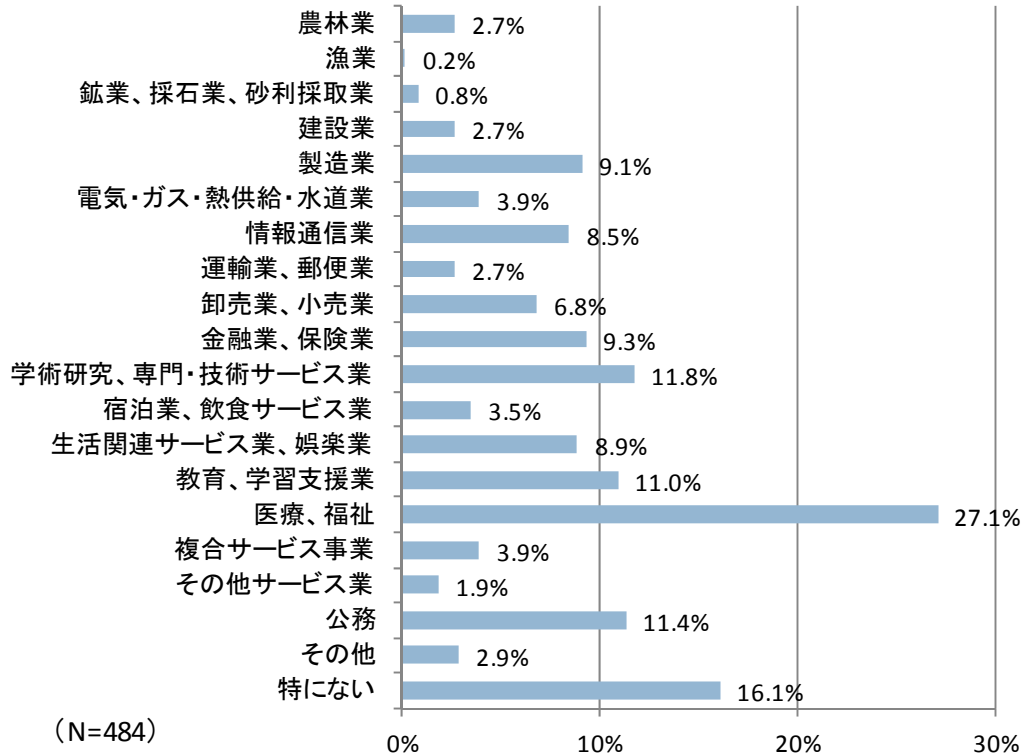
・“金沢市”に住む学生では、「専門職（開発・研究、技術、土木・建築、SE、編集、記者、アナウンサー、カウンセラー等）」が 55.4%を占め、他の居住地と比べて 5.7 ポイント以上高くなっている。

・“東京圏”や“北陸圏”に住む学生では「特にない」が“金沢市”に住む学生と比べて高くなっている。



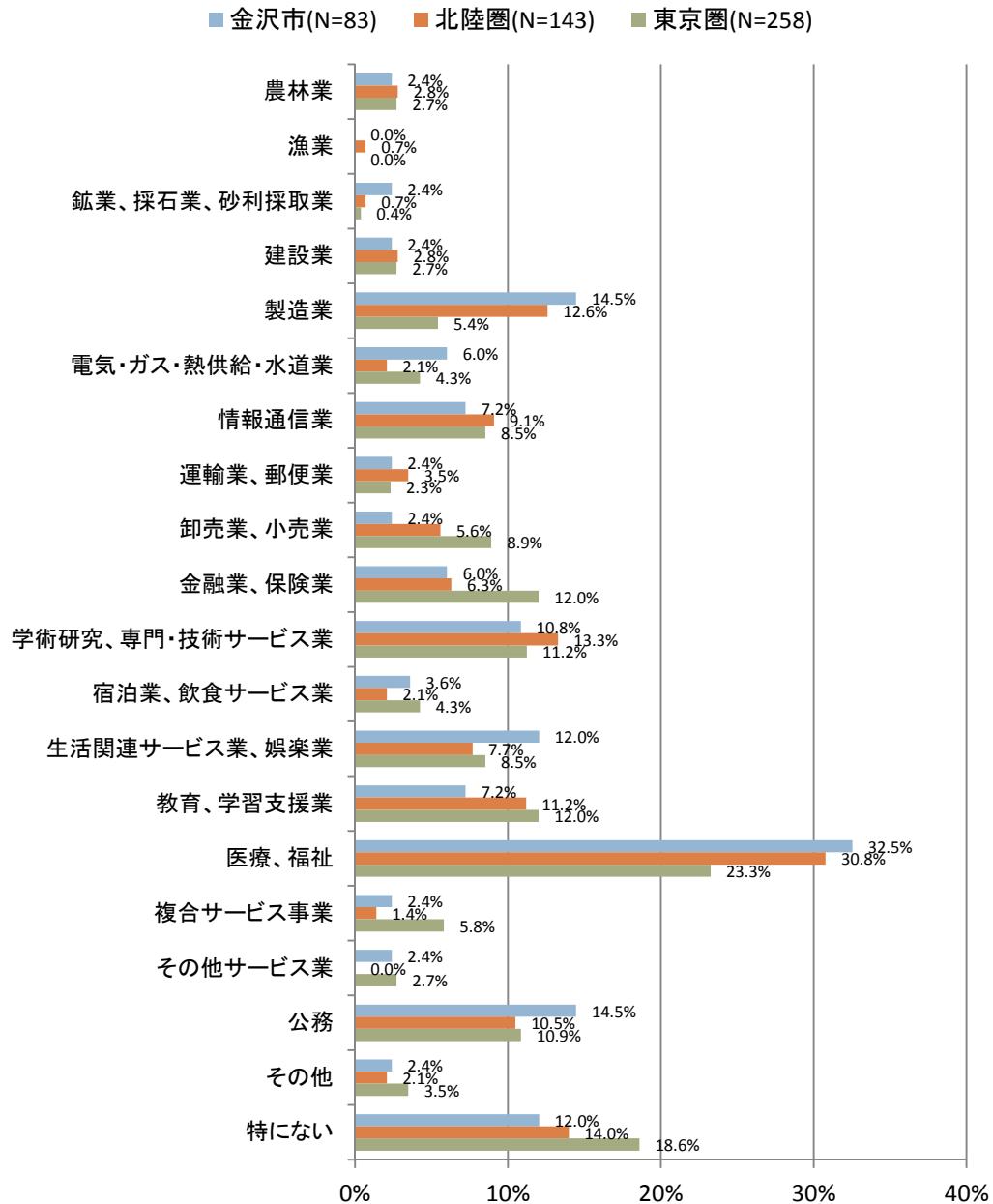
問 12 あなたは、どのような業種で働きたいと考えていますか。(主なもの3つまで選択)

・「医療、福祉」が最も多く 27.1%を占め、次いで「特にない」が 16.1%、「学術研究、専門・技術サービス業」が 11.8%となっている。



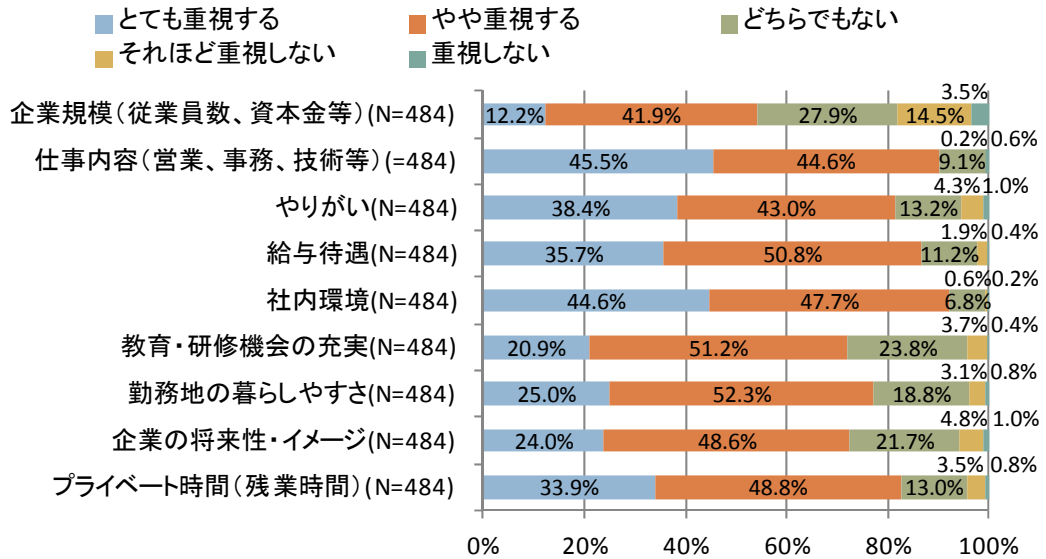
【居住地クロス】

- ・「製造業」や「医療、福祉」では、“金沢市”や“北陸圏”に住む学生が“東京圏”に住む学生と比べて高くなっている。
- ・「金融業、保険業」では、“東京圏”に住む学生が他の居住地と比べて5.7ポイント以上高くなっている。



問 13 あなたの就職の決め手となる条件について、あてはまるものをそれぞれお選びください。

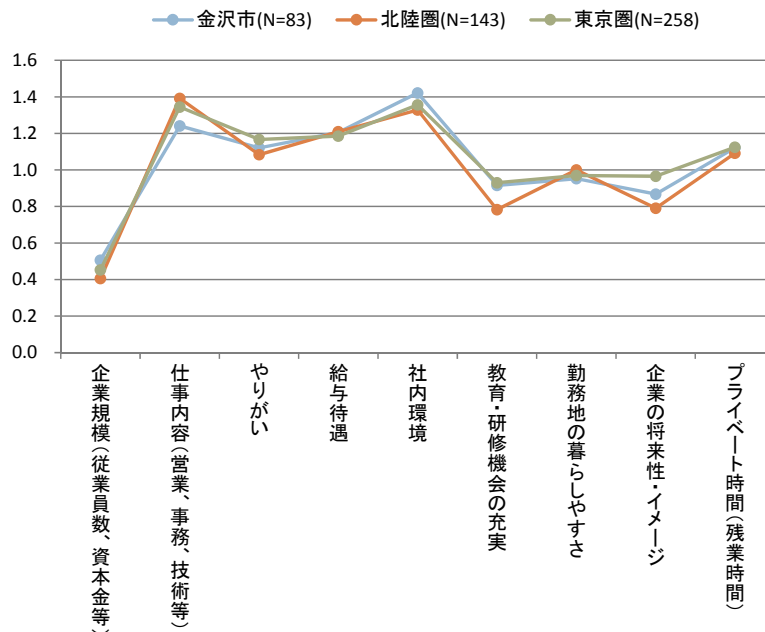
・“とても重視する”では、「仕事内容（営業、事務、技術等）」が最も多く45.5%を占め、次いで「社内環境」が44.6%、「やりがい」が38.4%となっている。



【居住地クロス（加重平均）】

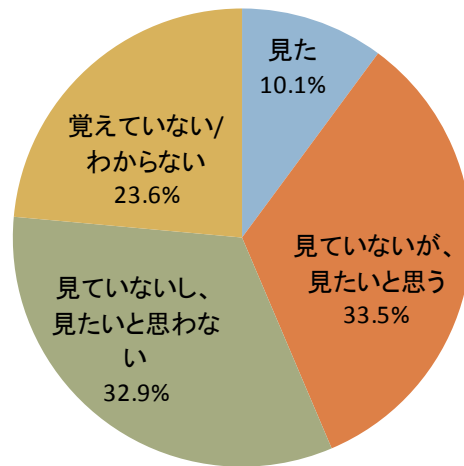
・“金沢市”や“東京圏”に住む学生では「社内環境」が、“北陸圏”に住む学生では「仕事内容（営業、事務、技術等）」が最も重視されている。

・一方、「企業規模（従業員数、資本金等）」は他の項目と比べ、重視されていない。



※ 「とても重視する」: +2点、「やや重視する」: +1点、「どちらでもない」: 0点、「それほど重視しない」: -1点、「重視しない」: -2点として算出した加重平均値

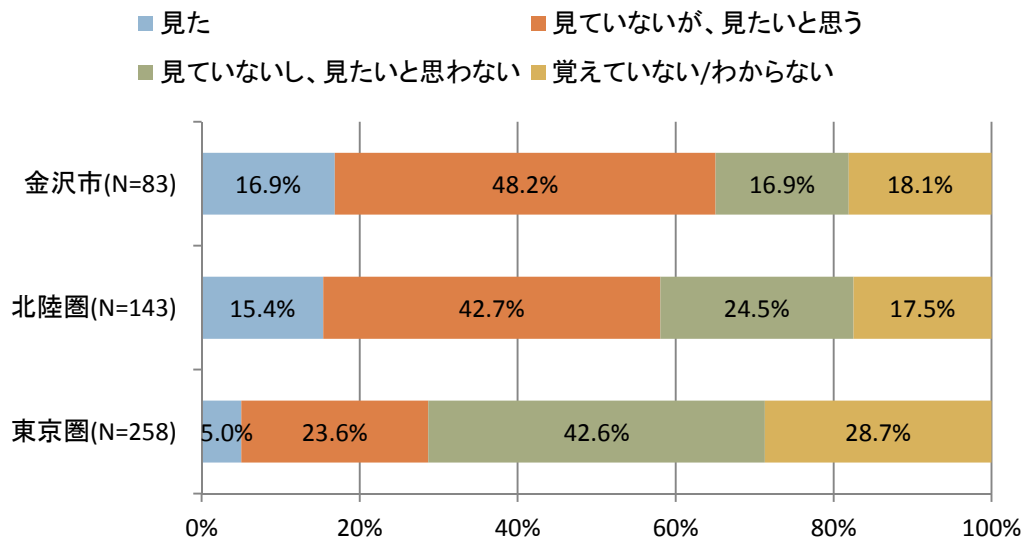
問 14	あなたは就職活動時に金沢市に本社や事務所がある企業情報を見た、若しくは見たいと思いますか。(1つのみ選択)
<p>・「見ていないが、見たいと思う」が最も多く 33.5%を占め、次いで「見ていないし、見たいと思わない」が 32.9%、「覚えていない／わからない」が 23.6%となっている。</p>	



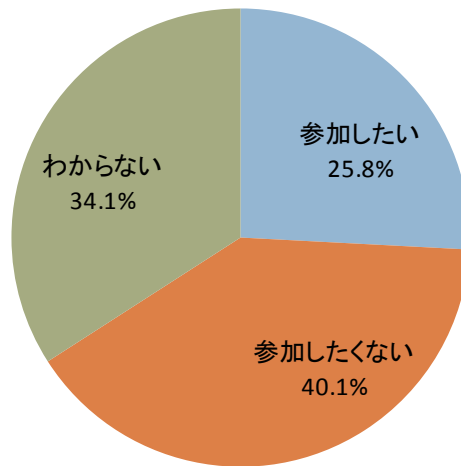
(N=484)

【居住地クロス】

<p>・“東京圏”に住む学生では、「見ていないし、見たいと思わない」が 42.6%を占め、他の居住地と比べて 18.1 ポイント以上高くなっている。</p>
--



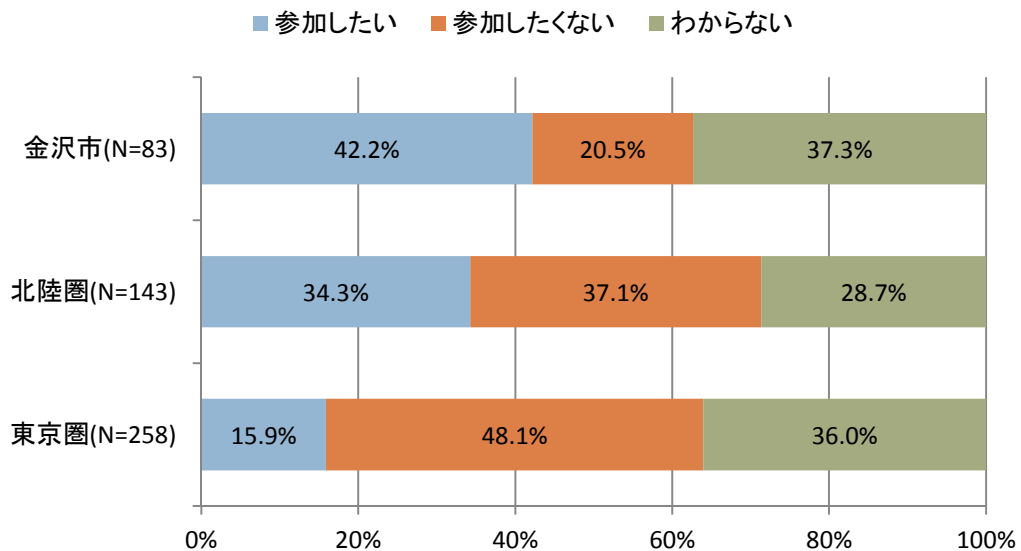
問 15	あなたは金沢市の企業へのインターンシップ(就業体験)の機会があれば、参加したいと 思いますか(1つのみ選択)
<p>・「参加したくない」が最も多く40.1%を占め、次いで「わからない」が34.1%、「参加したい」が25.8%となっている。</p>	



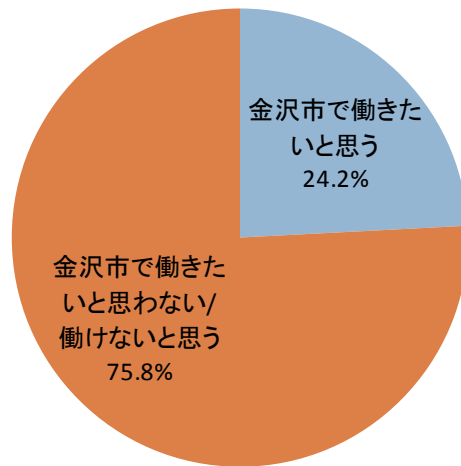
(N=484)

【居住地クロス】

・“東京圏”に住む学生では、約半数が「参加したくない」と回答している。



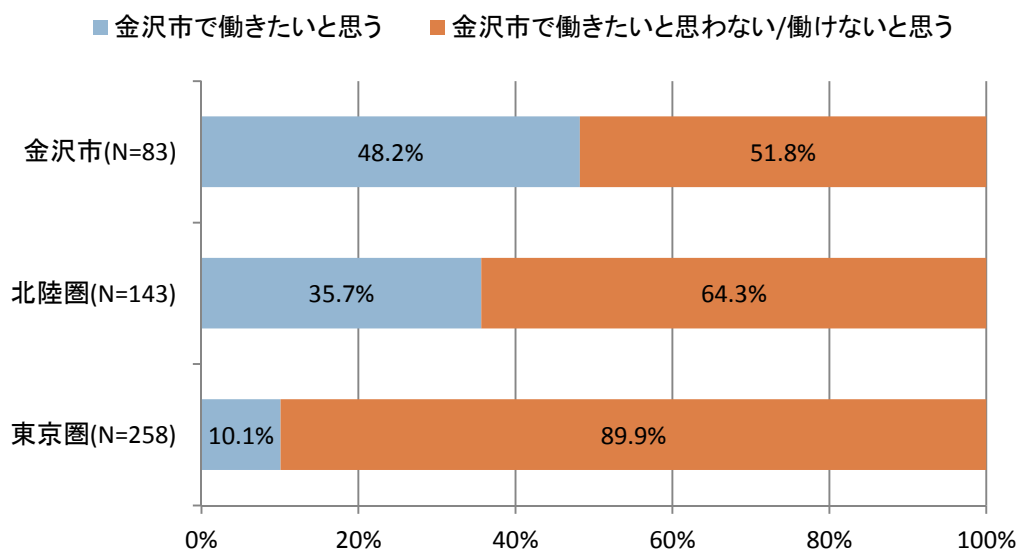
問 16	今年3月に北陸新幹線が金沢まで開業し、金沢-東京間を約2時間30分で移動できるようになりました。あなたは金沢市で働きたいと思いますか。(1つのみ選択)
<ul style="list-style-type: none"> ・「金沢市で働きたいと思わない／働けないと思う」が75.8%、「金沢市で働きたいと思う」が24.2%となっている。 	



(N=484)

【居住地クロス】

<ul style="list-style-type: none"> ・“金沢市”に住む学生では、約半数が「金沢市で働きたいと思う」と回答している。 ・“東京圏”に住む学生では、約9割が「金沢市で働きたいと思わない／働けないと思う」と回答している。
--



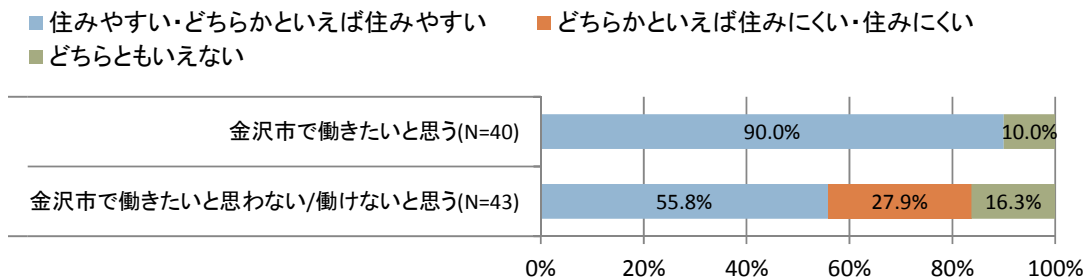
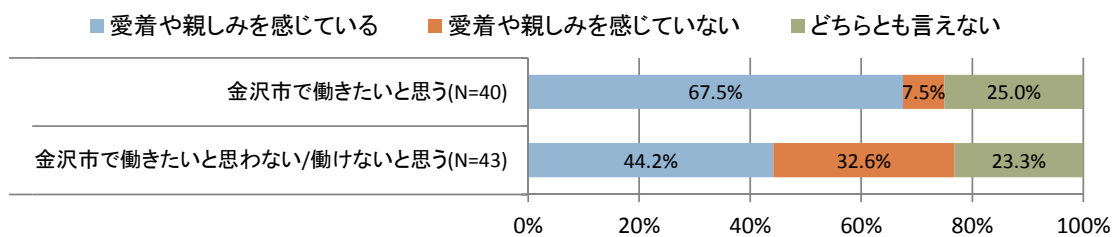
◇金沢市に居住しており、金沢市での就職意向がある人の居住地（金沢市）への愛着や親しみ・住みやすさは？

<愛着や親しみ>

・金沢市で働きたい人では「愛着や親しみを感じている」が67.5%となっており、金沢市で働きたいと思わない（働けないと思う）人と比べて23.3ポイント高くなっている。

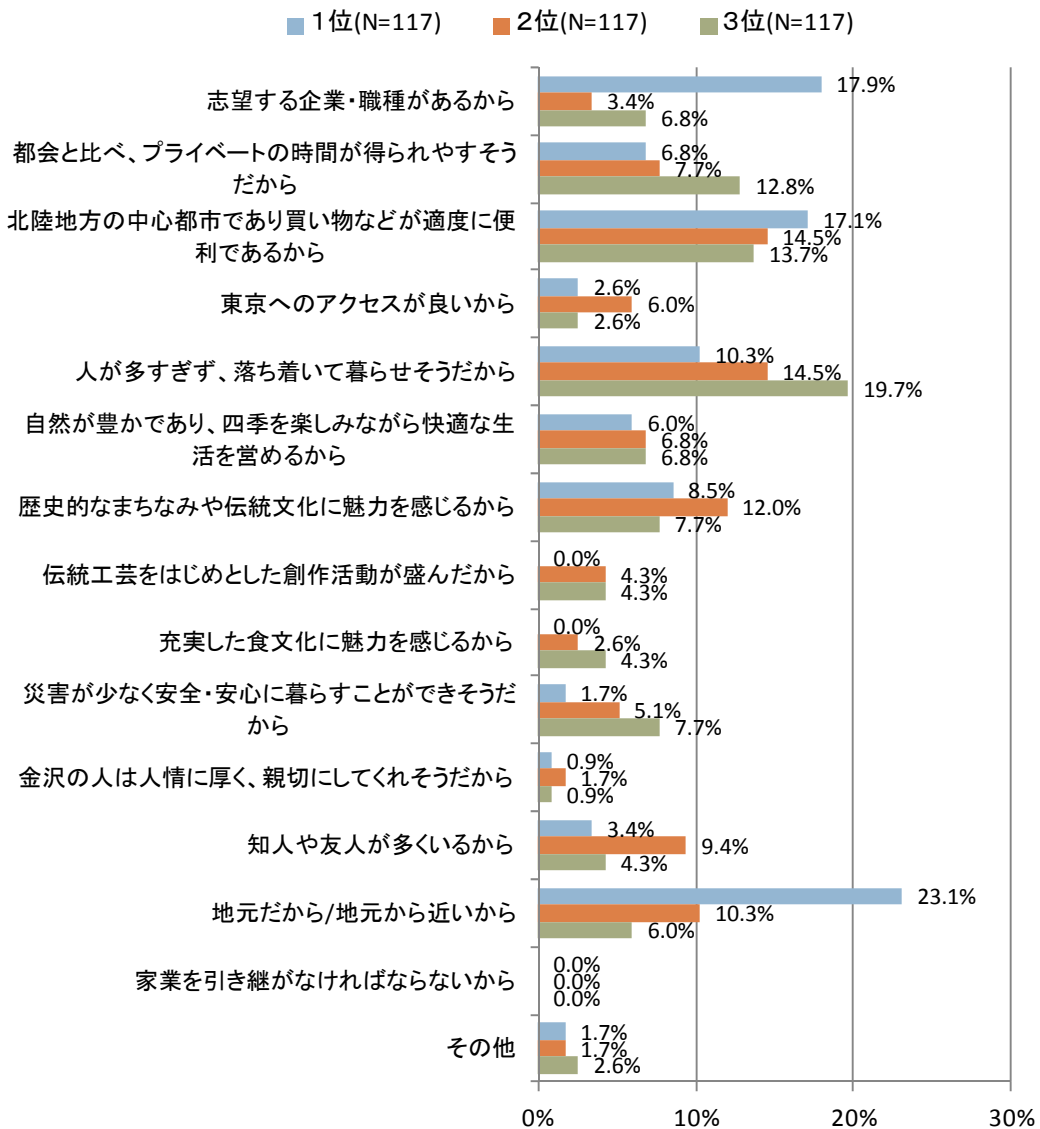
<住みやすさ>

・金沢市で働きたい人では「住みやすい・どちらかといえば住みやすい」が90.0%となっており、金沢市で働きたいと思わない（働けないと思う）人と比べて34.2ポイント高くなっている。



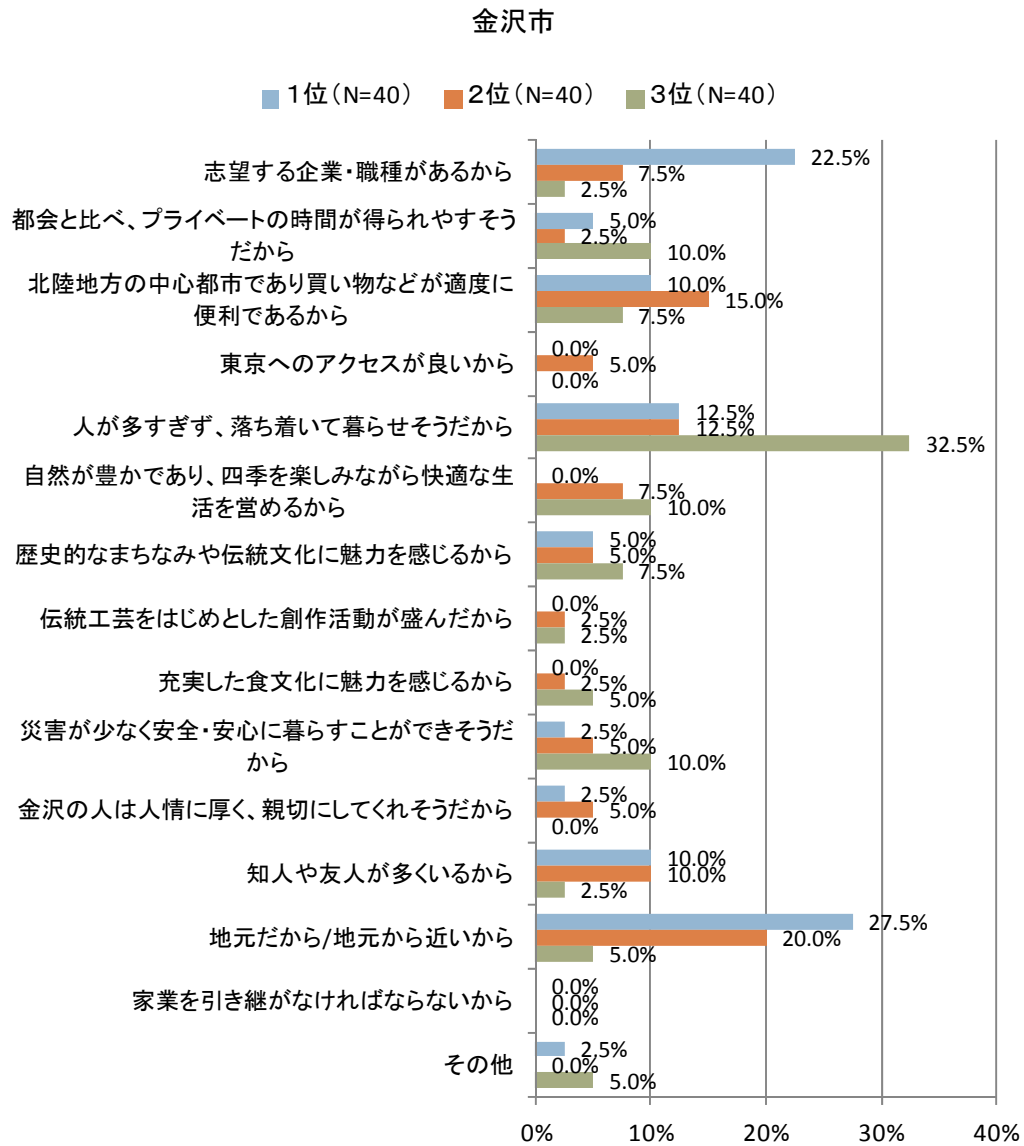
問 17 問 16 で「1.金沢市で働きたいと思う」と回答した方にお聞きします。金沢市で働きたいと思う理由を重視する順に3つ教えて下さい。

- ・「北陸地方の中心都市であり買い物などが適度に便利であるから」や「人が多すぎず、落ち着いて暮らせそうだから」は全ての順位で 10.0%以上となっている。
- ・最も重視する理由（1位）として、「地元だから／地元から近いから（23.1%）」や「志望する企業・職種があるから（17.9%）」が多くなっている。



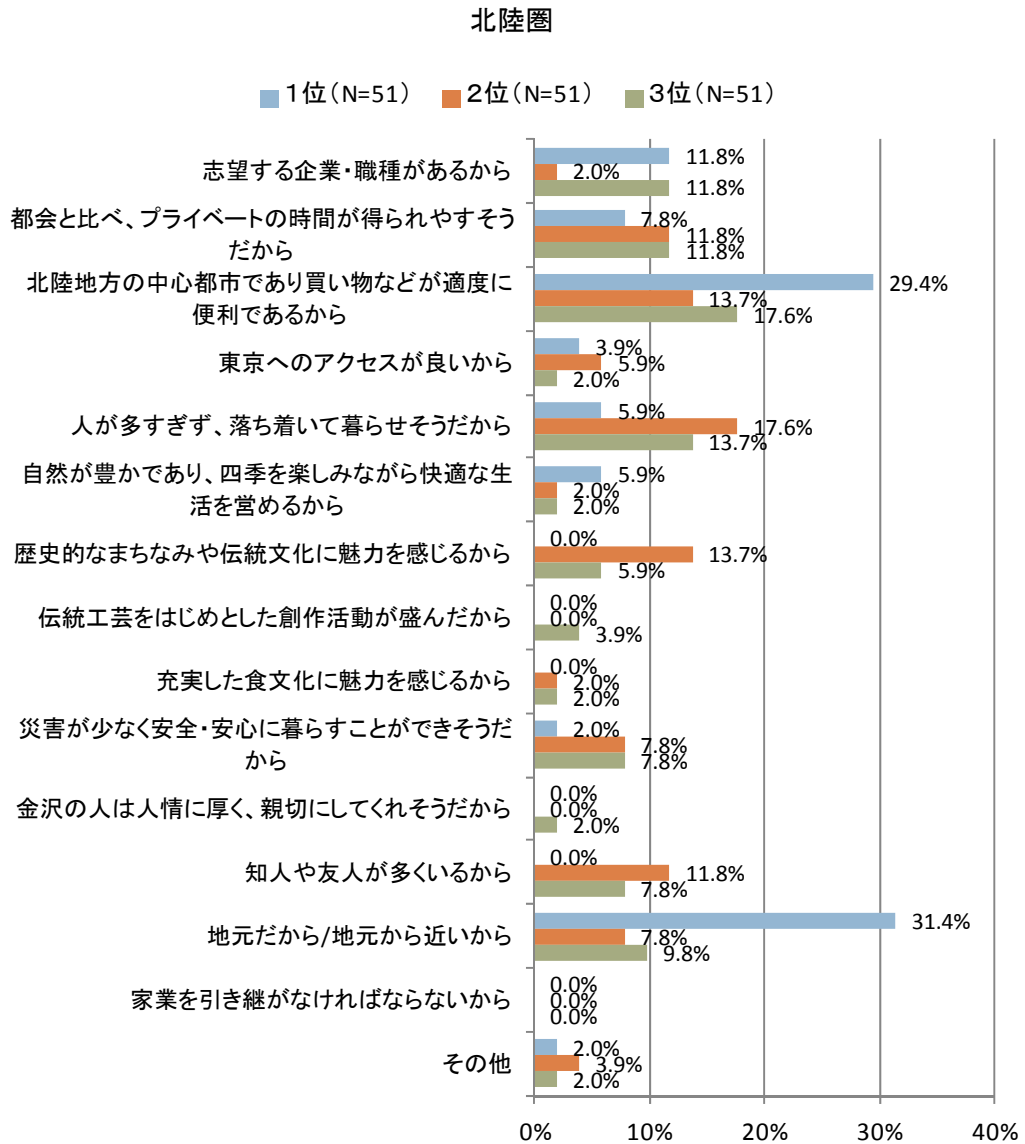
【居住地クロス・金沢市】

- ・最も重視する理由（1位）として、「地元だから／地元から近いから（27.5%）」や「志望する企業・職種があるから（22.5%）」が多くなっている。
- ・「人が多すぎず、落ち着いて暮らせそうだから（32.5%）」についても、優先順位は低い（3位）が、重視されている。



【居住地クロス・北陸圏】

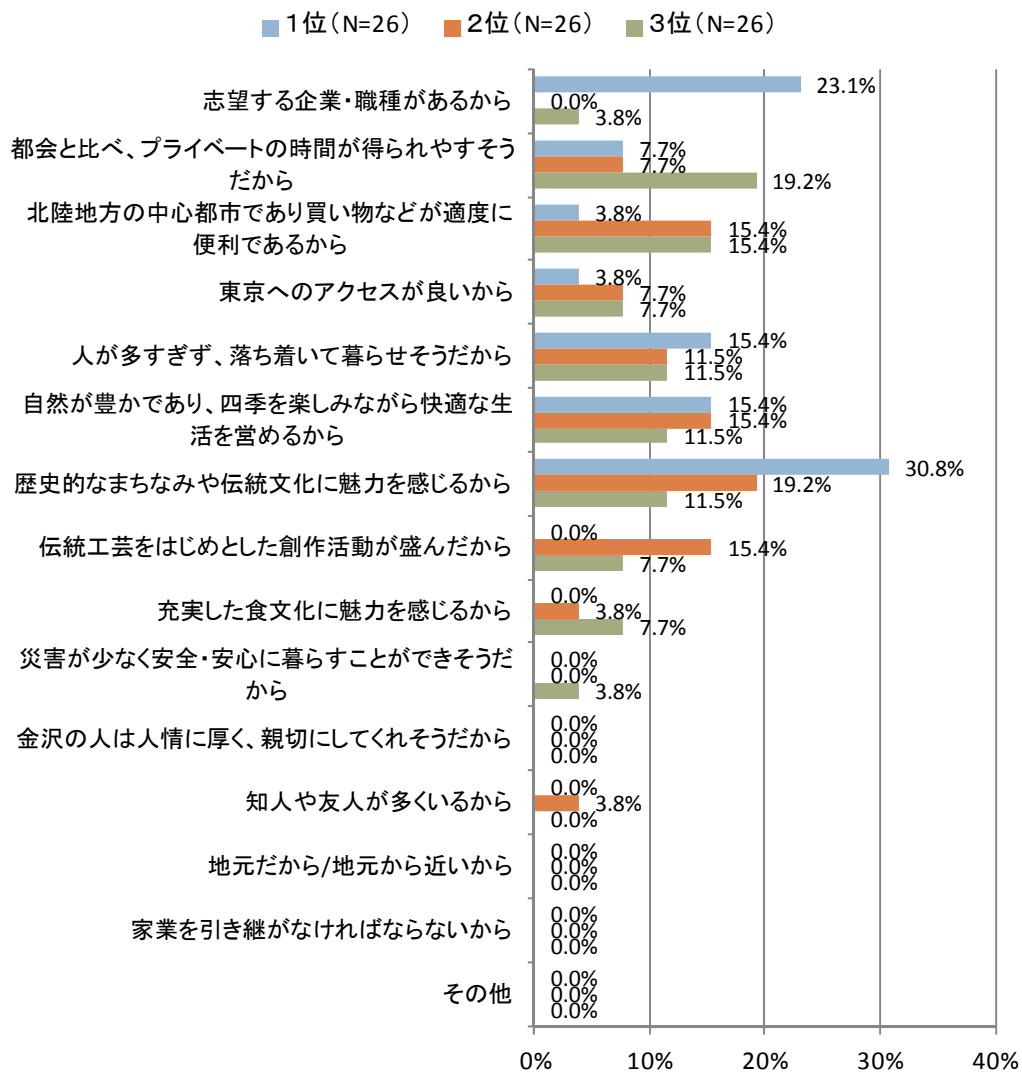
・最も重視する理由（1位）として、「地元だから／地元から近いから（31.4%）」や「北陸地方の中心都市であり買い物などが適度に便利であるから（29.4%）」が多くなっている。



【居住地クロス・東京圏】

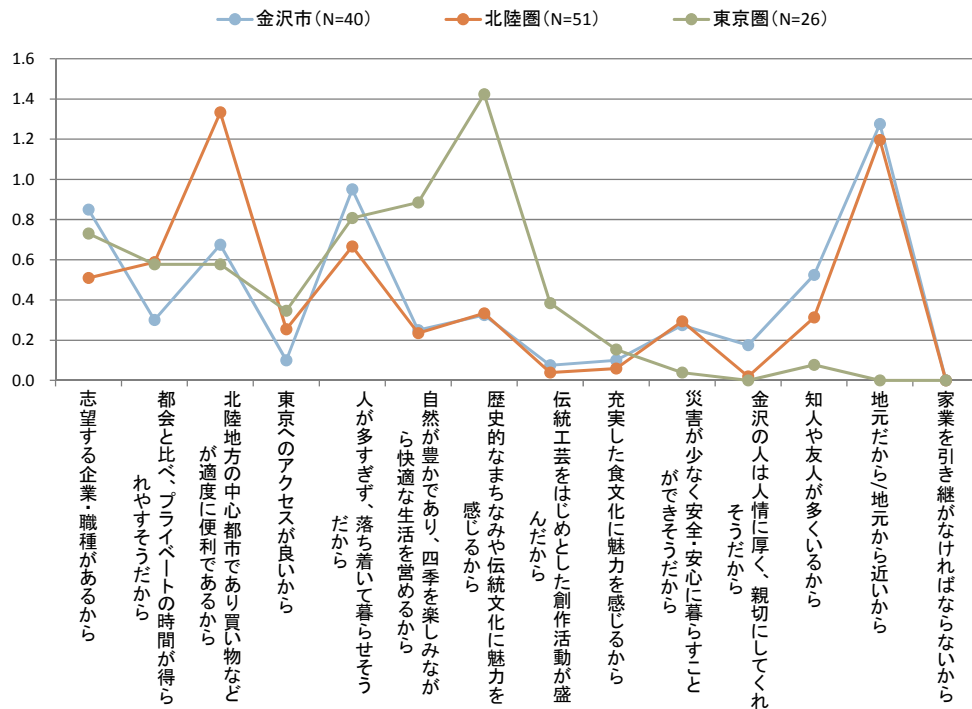
- ・「歴史的なまちなみや伝統文化に魅力を感じるから」「自然が豊かであり、四季を楽しみながら快適な生活を営めるから」「人が多すぎず、落ち着いて暮らせそうだから」は全ての順位で10.0%以上となっている。
- ・最も重視する理由（1位）として、「歴史的なまちなみや伝統文化に魅力を感じるから（30.8%）」や「志望する企業・職種があるから（23.1%）」が多くなっている。

東京圏



【居住地クロス（加重平均）】

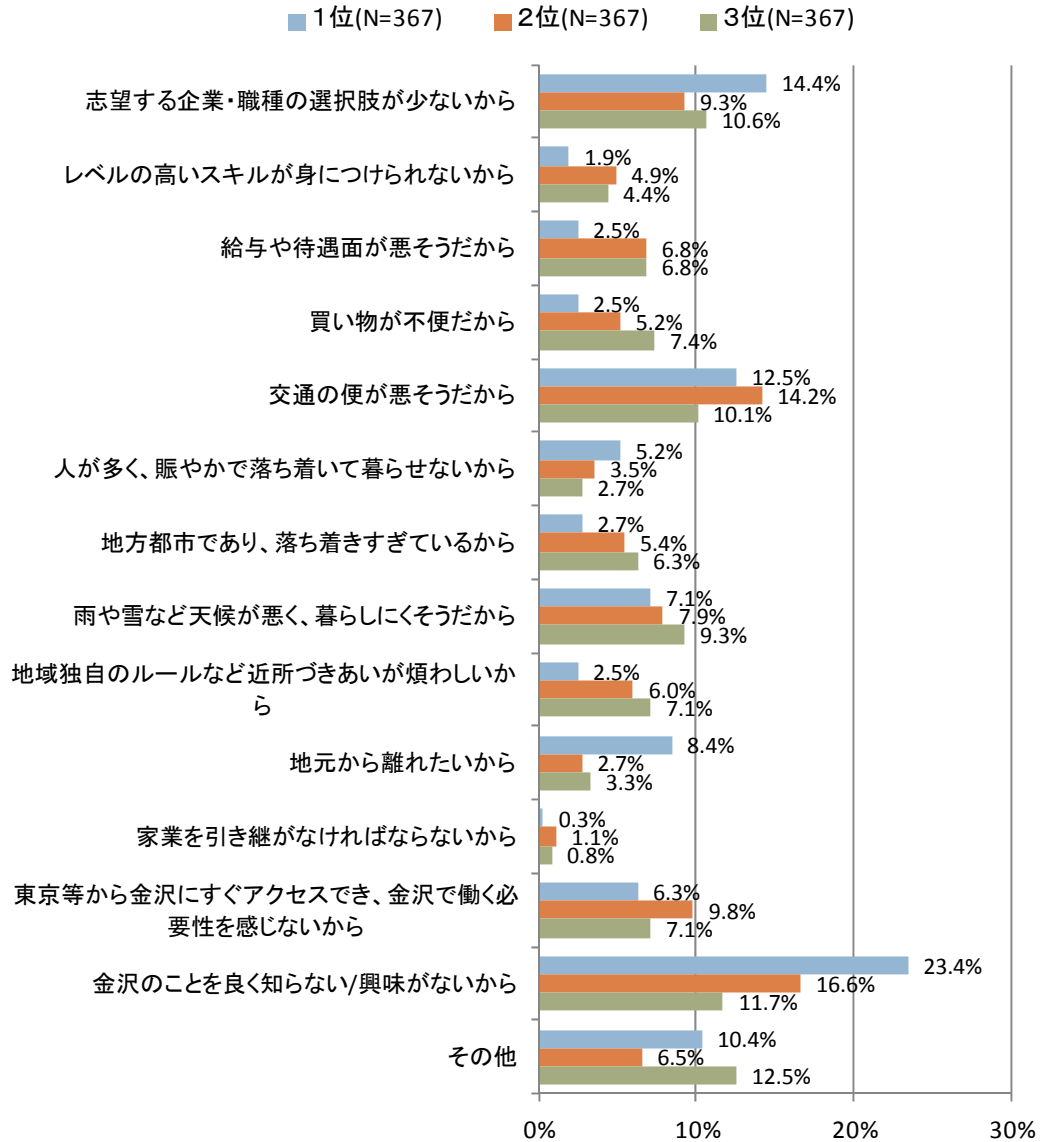
・“金沢市”に住む学生では「地元だから／地元から近いから」が、“北陸圏”に住む学生では「北陸地方の中心都市であり買い物などが適度に便利であるから」が、“東京圏”に住む学生では「歴史的なまちなみや伝統文化に魅力を感じるから」が最も重視されている。



※1位：3点、2位：2点、3位：1点として算出した加重平均値

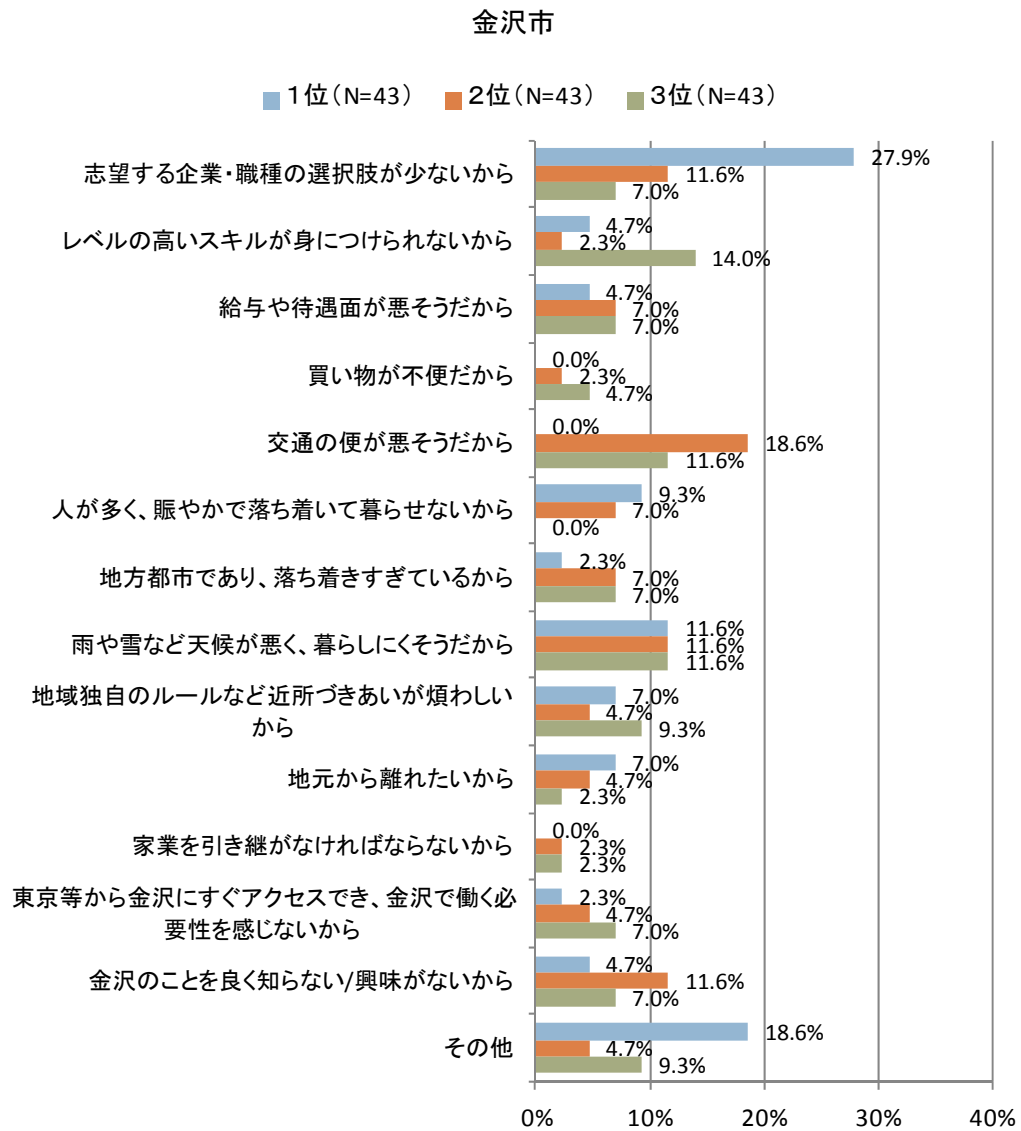
問 18 問 16 で「2.金沢市で働きたいと思わない/働けないと思う」と回答した方にお聞きします。金沢市で働きたくないと思う理由を重視する順に3つ教えて下さい。

・「金沢のことを良く知らない/興味がないから」「交通の便が悪そうだから」「志望する企業・職種の選択肢が少ないから」を重視する回答者が多い。



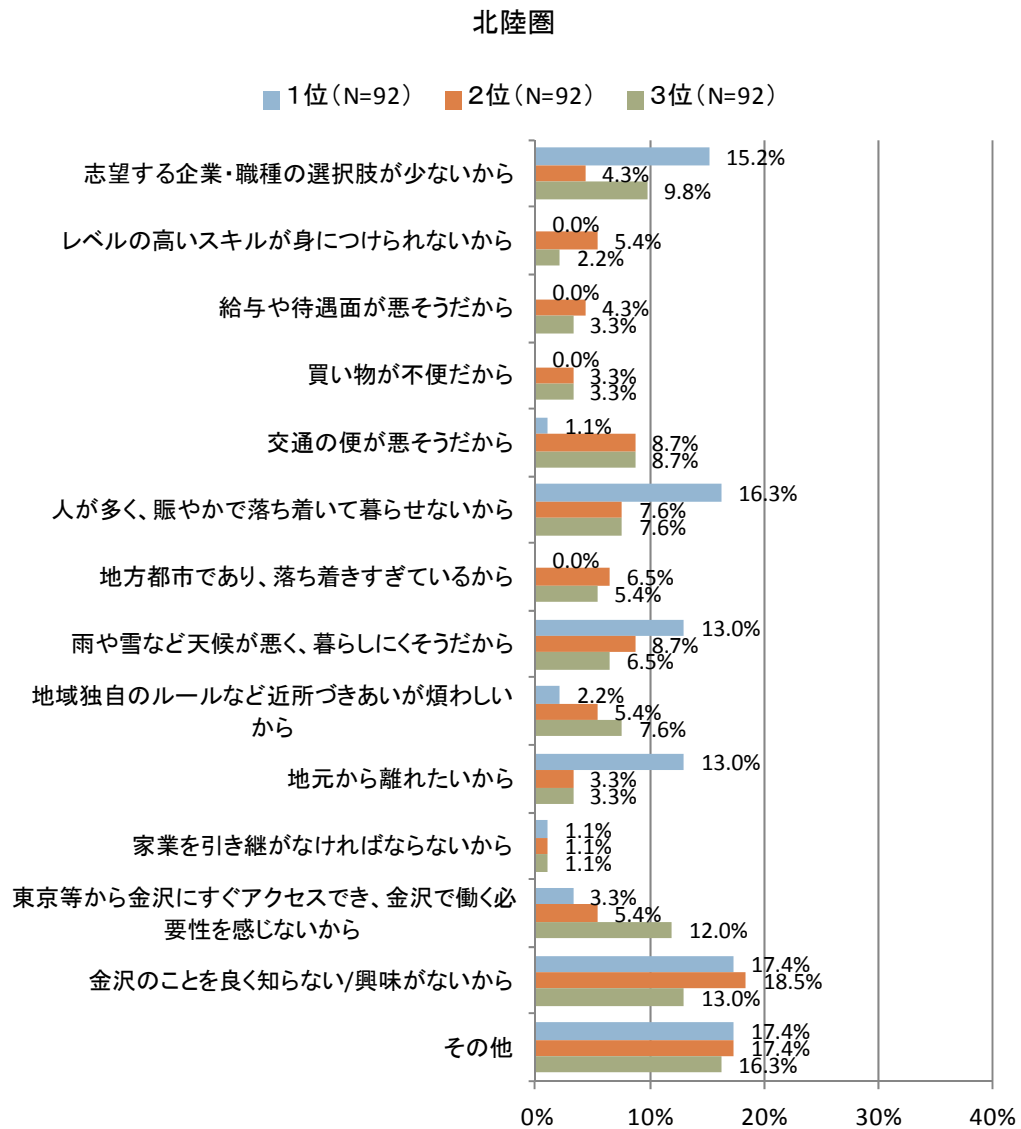
【居住地クロス・金沢市】

・最も重視する理由（1位）として、「志望する企業・職種の選択肢が少ないから（27.9%）」が多くなっている。



【居住地クロス・北陸圏】

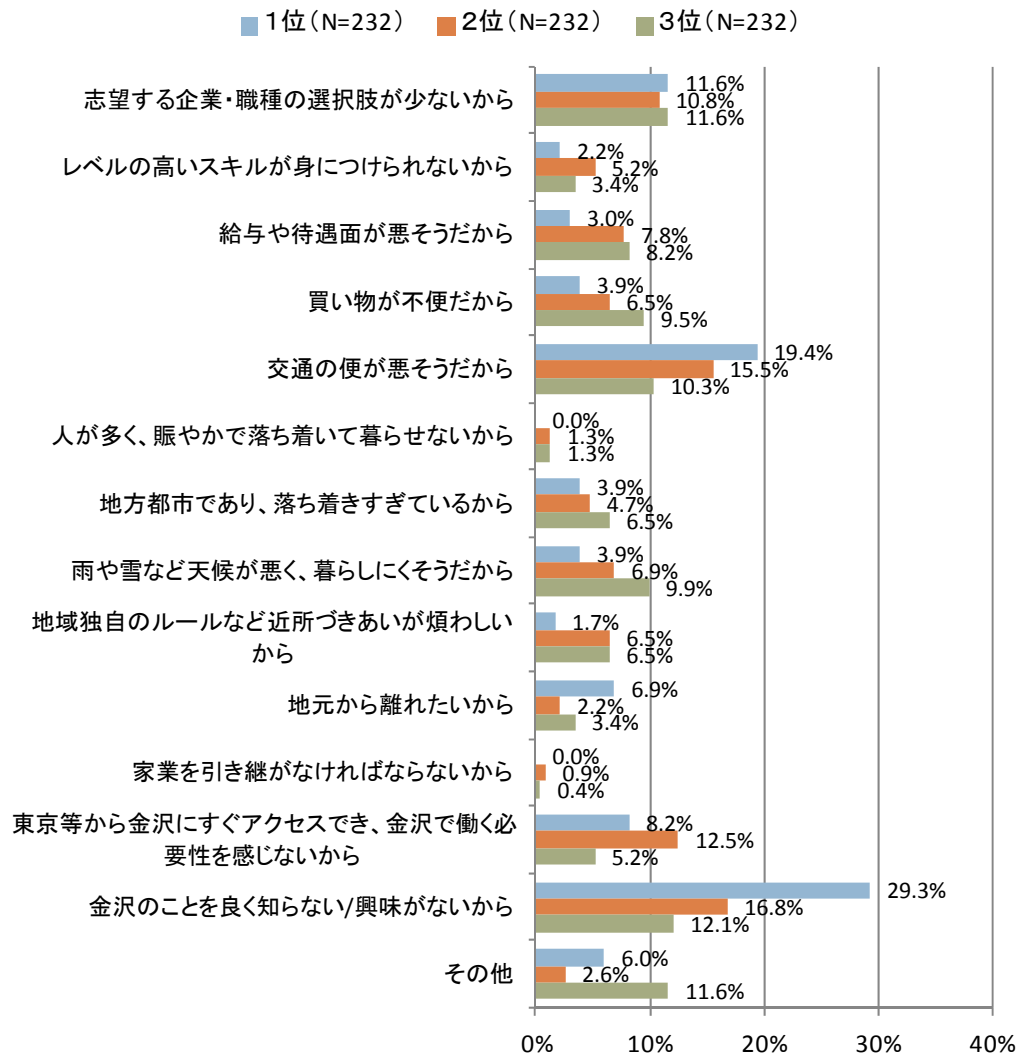
- ・「金沢のことを良く知らない／興味がないから」は全ての順位で10.0%以上となっている。
- ・「人が多く、賑やかで落ち着いて暮らせないから」は“金沢市”に住む学生（p. 142）や“東京圏”に住む学生（p. 144）と比べて高くなっている。



【居住地クロス・東京圏】

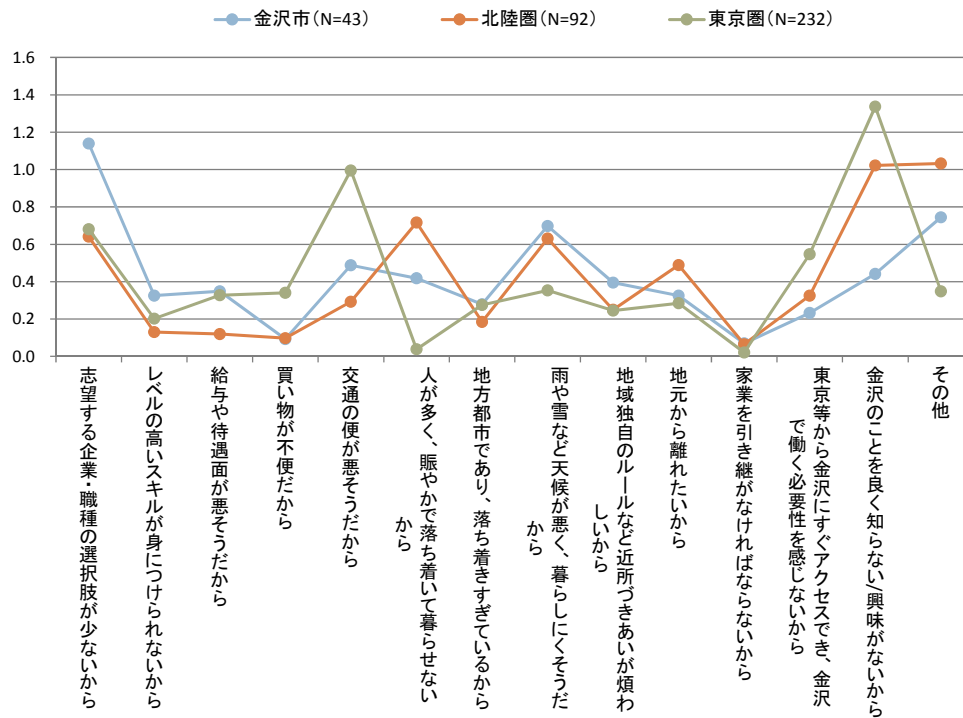
- ・「金沢のことを良く知らない／興味がないから」「交通の便が悪そうだから」「志望する企業・職種の選択肢が少ないから」は全ての順位で10.0%以上となっている。
- ・最も重視する理由（1位）として、「金沢のことを良く知らない／興味がないから（29.3%）」が多くなっている。

東京圏



【居住地クロス（加重平均）】

・“金沢市”に住む学生では「志望する企業・職種の選択肢が少ないから」が、“北陸圏”や“東京圏”に住む学生では「金沢のことを良く知らない／興味がないから」が最も重視されている。



※1位：3点、2位：2点、3位：1点として算出した加重平均値

3. 若年就労者へのアンケート調査票

就労者へのアンケート調査

Q1 あなたの「出身地(1つ選択)」と「最終学歴校の所在地(1つ選択)」「最終学歴校卒業から現在まで居住経験のある地域(当てはまるものすべて選択)」はどこですか。※この質問は、縦方向にお答えください。

	1 金沢市	2 石川県 (金沢市以外)	3 富山県	4 福井県	5 北海道	6 東北 (青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県)	7 関東 (茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県)	8 甲信越 (長野県、新潟県、山梨県)	9 東海 (岐阜県、静岡県、愛知県、三重県)	10 関西 (滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県)	11 中国 (鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県)	12 四国 (徳島県、香川県、愛媛県、高知県)	13 九州 (福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県)	14 海外
1. 出身地	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
2. 最終学歴校の所在地	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
3. 最終学歴校卒業から現在まで居住経験のある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

Q2 あなたの最終学歴を教えてください。

- 1. 中学校
- 2. 高校
- 3. 高等専門学校
- 4. 専門学校(専修学校専門過程)
- 5. 短期大学
- 6. 大学
- 7. 大学院(修士)
- 8. 大学院(博士)
- 9. その他【 】

4. 若年就労者へのアンケート調査結果の詳細

1) アンケート調査概要

目的	若年就労者の人口流出入の実態や金沢定住に対する意向を把握する
調査対象	金沢市に在住の20歳代就労者
調査方法	インターネットを用いてWEB上でアンケート調査を実施
回収数	103票
回答者属性(性別)	男性:25人(24.3%) 女性:78人(75.7%)

2) アンケート結果まとめ

【居住地に対する愛着・住みやすさ】

- ・居住期間が10年以上の回答者が5割以上を占めており、金沢市に「愛着や親しみを感じている」と回答している人の割合は77.7%、「住みやすい・どちらかといえば住みやすい」と回答している人の割合は92.2%と高くなっている。(p.157、p.158)

【金沢市を住みやすいと思う理由/住みにくいと思う理由】

- ・住みやすいと思う主な理由には、「治安が良い」「買い物が便利」「交通の便が良い」「金沢のイメージが良い」が挙げられている。(p.159)
- ・住みにくいと思う主な理由には「交通の便が悪い」「買い物が不便」が挙げられている。(p.160)

【勤務地の状況】

- ・金沢市以外の勤務地には「野々市市」(5.8%)「白山市」(4.9%)「かほく市」「内灘町」等の近隣市町が挙げられ、全体の15.5%を占めている。(p.161)
- ・自家用車で通勤する回答者が多く、勤務地までに要する時間は30分未満が全体の81.6%を占めている。(p.161、p.162)

【就業している業種・年収】

- ・就業している主な業種は「卸売業、小売業」「医療、福祉」「製造業」の順に割合が高く、市の基盤産業と合致する業種が見られる。(p.163)
- ・年収(税込み)は、400万円未満が全体の約8割を占め、全体の平均年収は295万円となっている。(p.163)

【金沢市からの転居意向・理由・転居先】

- ・金沢市からの転居意向では、34.0%の回答者が転居することを考えており、「転勤」「結婚」「生活の利便性（交通、買い物、治安など）」を主な理由として挙げている。(p. 164)
- ・転居先としては、「石川県内（金沢市以外）」が37.1%と最も多く、次いで「関西」「関東」となっている。(p. 165)

【転居先を決める際に重視する条件】

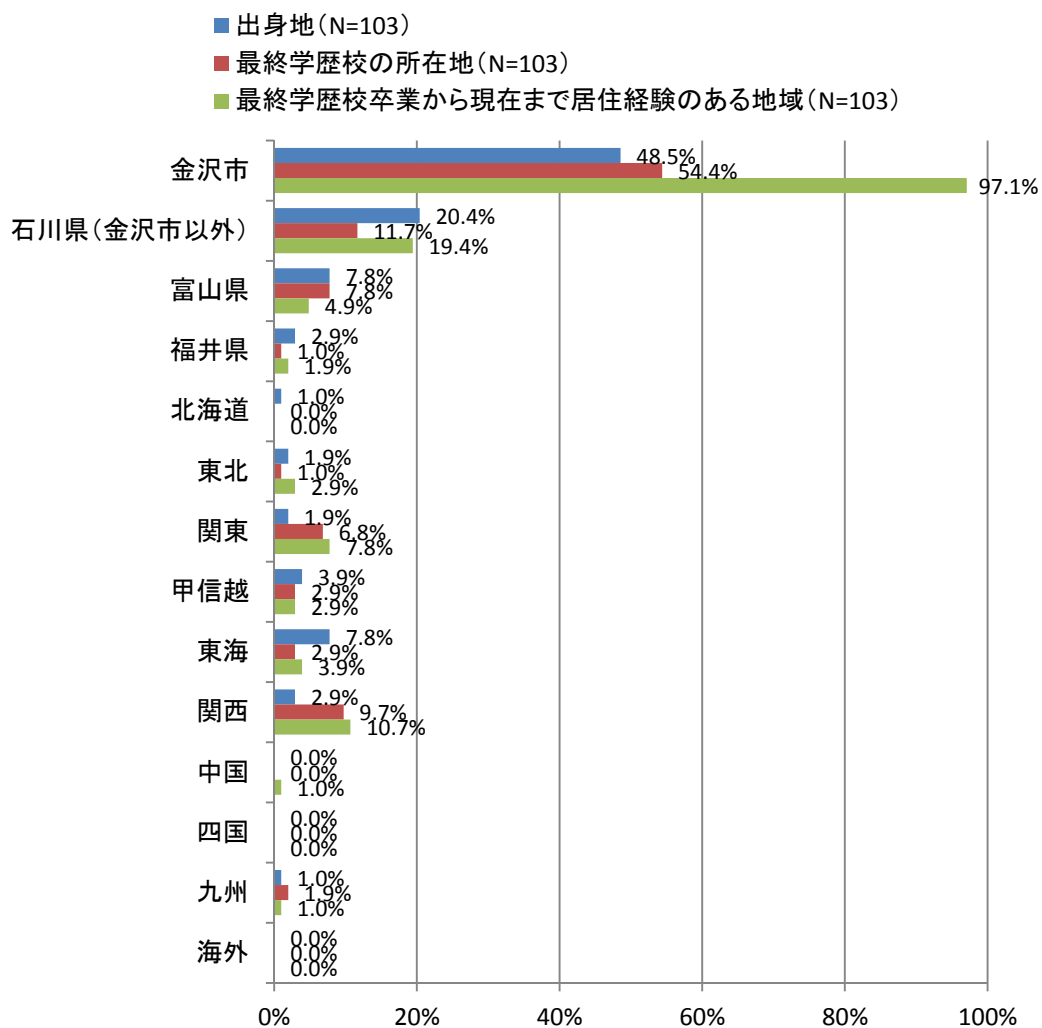
- ・転居先を決める際に重視する条件では、「交通の便」「職場からの距離」「買い物の利便性」が多く挙げられている。(p. 166、p. 167)

【今後、望むまちの姿】

- ・今後、望むまちの姿は「住環境が整った、暮らしやすいまち」「子育てや教育環境が充実したまち」「公共交通が充実したまち」が多く挙げられている。(p. 168)

3) アンケート結果

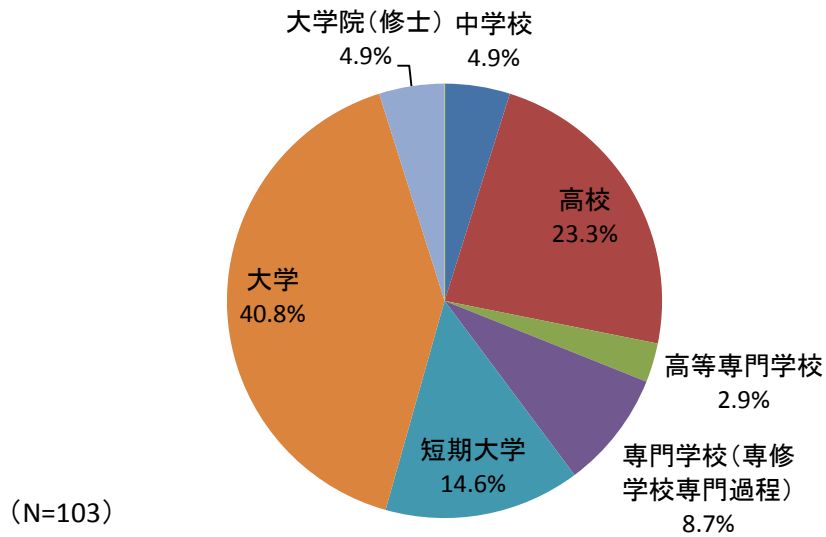
問1	あなたの「出身地(1つ選択)」「最終学歴校の所在地(1つ選択)」「最終学歴校卒業から現在まで居住経験のある地域(当てはまるものすべて選択)」はどこですか。
<p>・「出身地」「最終学歴校の所在地」「最終学歴校卒業から現在まで居住経験のある地域」ともに、「金沢市」が最も多く、次いで「石川県(金沢市以外)」となっている。</p>	



※回答のあった都道府県のみ表記

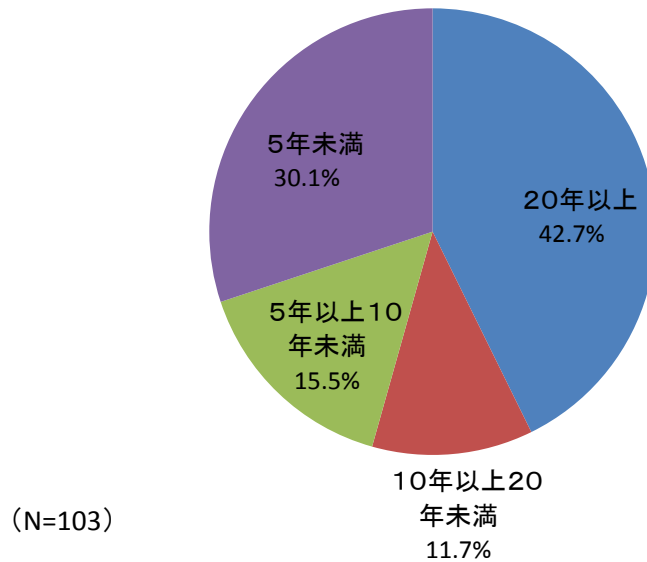
問2 あなたの最終学歴を教えてください。(1つ選択)

・「大学」が最も多く 40.8%を占め、次いで「高校」が 23.3%、「短期大学」が 14.6%となっている。



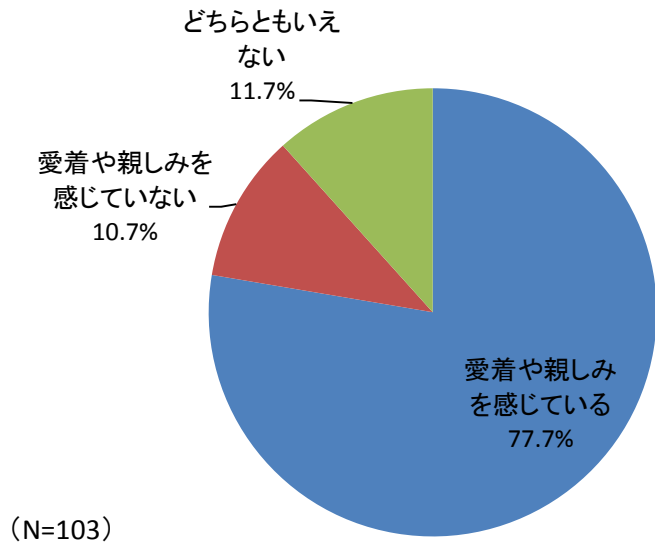
問3 あなたの金沢市での居住期間(通算)を教えてください。(1つ選択)

・「20年以上」が最も多く 42.7%を占め、次いで「5年未満」が 30.1%、「5年以上10年未満」が 15.5%となっている。



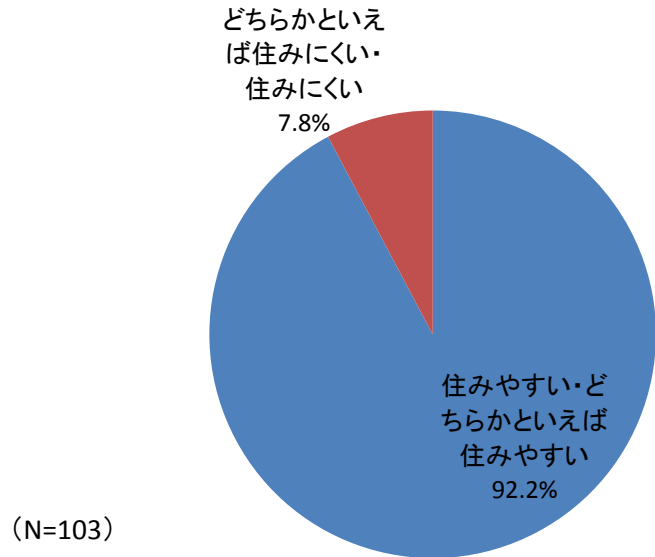
問4 あなたは金沢市に対し、愛着や親しみを感じていますか。(1つ選択)

・「愛着や親しみを感じている」が最も多く 77.7%を占め、次いで「どちらともいえない」が 11.7%、「愛着や親しみを感じていない」が 10.7%となっている。

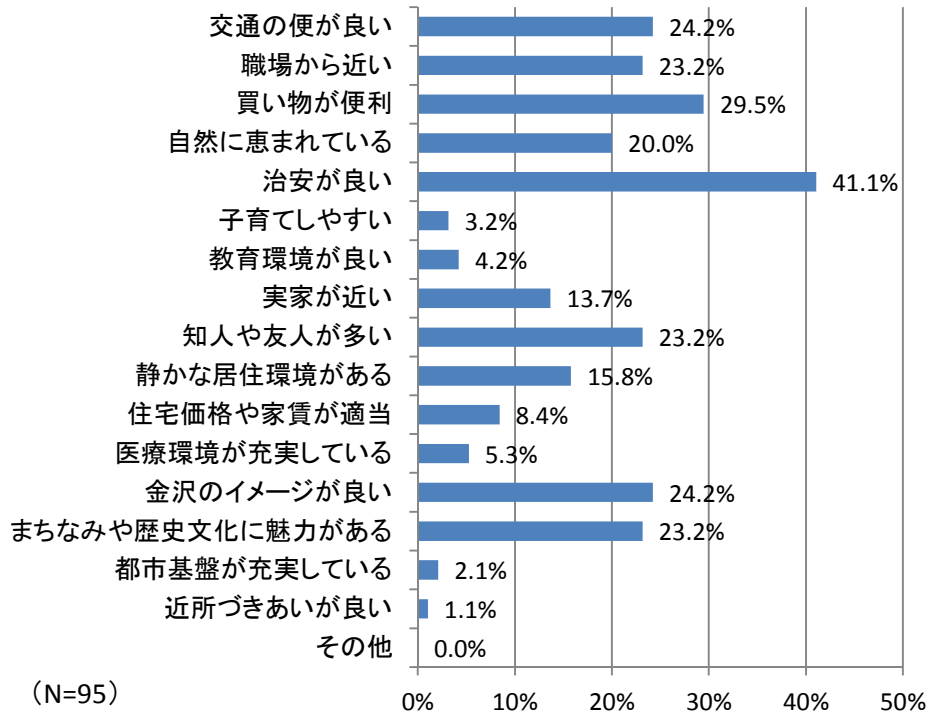


問5 あなたは金沢市を住みやすいと思いますか。(1つ選択)

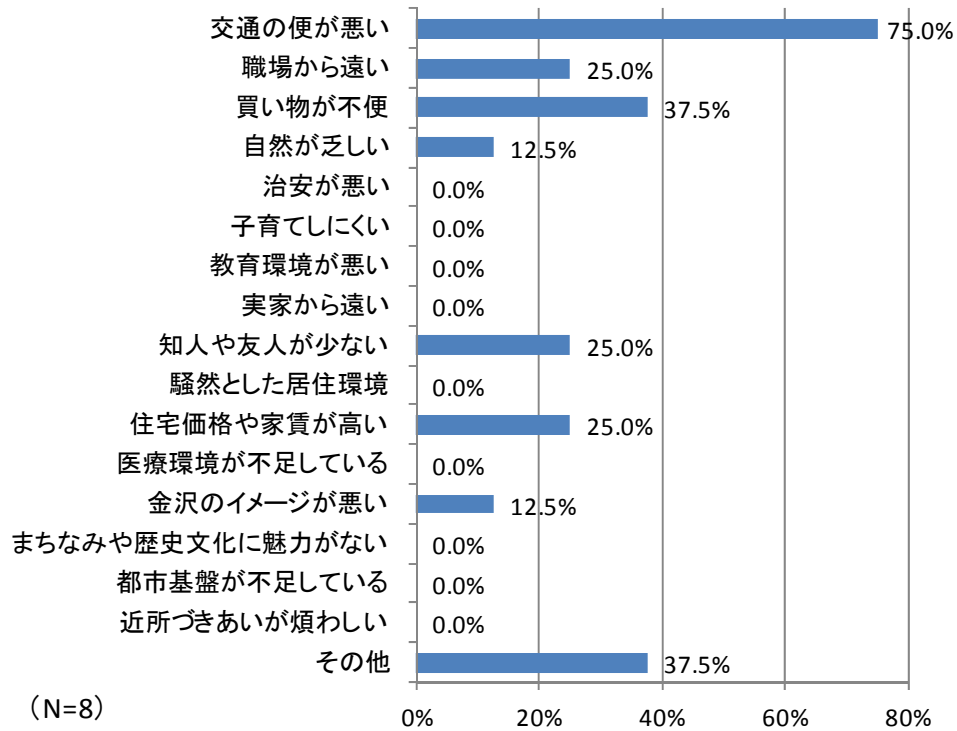
・「住みやすい・どちらかといえば住みやすい」が 92.2%、「どちらかといえば住みにくい・住みにくい」が 7.8%となっている。



問6	Q5 で「1.住みやすい・どちらかといえば住みやすい」を選択した方にお聞きします。 あなたは金沢市が住みやすいと思う点は何だと感じていますか。(3つまで選択)
<p>・金沢市が住みやすいと思う点では「治安が良い」が最も多く 41.1%を占め、次いで「買い物が便利」が 29.5%、「交通の便が良い」「金沢のイメージが良い」がそれぞれ 24.2%となっている。</p>	

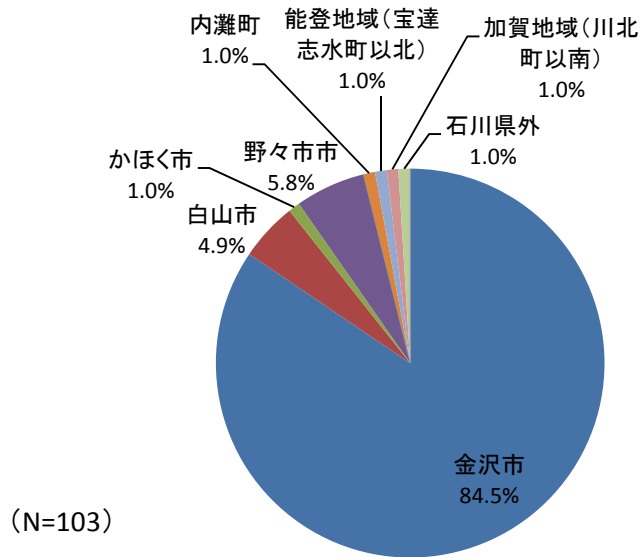


問7	Q5で「2.どちらかといえば住みにくい・住みにくい」を選択した方にお聞きします。 あなたは金沢市が住みにくいと思う点は何だと感じていますか。(3つまで選択)
<p>・金沢市が住みにくいと思う点では「交通の便が悪い」が最も多く75.0%を占め、次いで「買い物が不便」が37.5%、「職場から遠い」「知人や友人が少ない」「住宅価格や家賃が高い」がそれぞれ25.0%となっている。</p>	



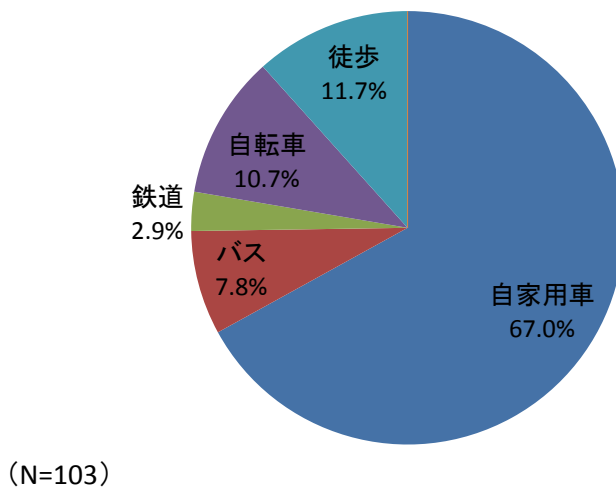
問8 あなたの現在の勤務地を教えてください。(1つ選択)

・「金沢市」が最も多く 84.5%を占め、次いで「野々市市」が 5.8%、「白山市」が 4.9%となっている。



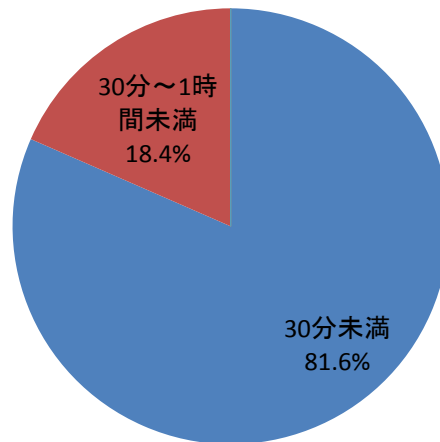
問9 あなたの現在の主な通勤手段を教えてください。(1つ選択)

・「自家用車」が最も多く 67.0%を占め、次いで「徒歩」が 11.7%、「自転車」が 10.7%となっている。



問 10 あなたの現在の通勤時間を教えてください。(1つ選択)

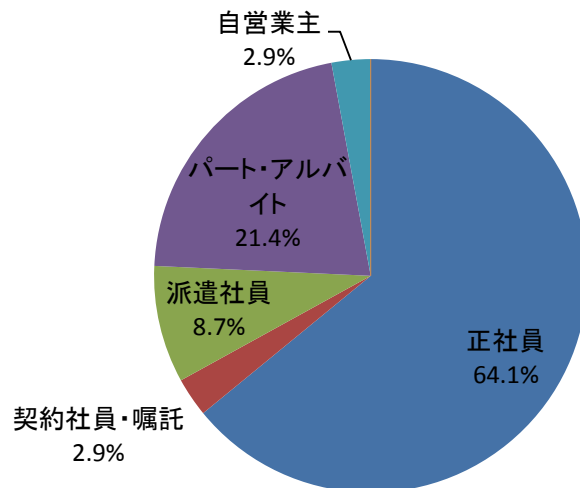
・「30分未満」が81.6%、「30分～1時間未満」が18.4%となっている。



(N=103)

問 11 あなたの現在の雇用形態を教えてください。(1つ選択)

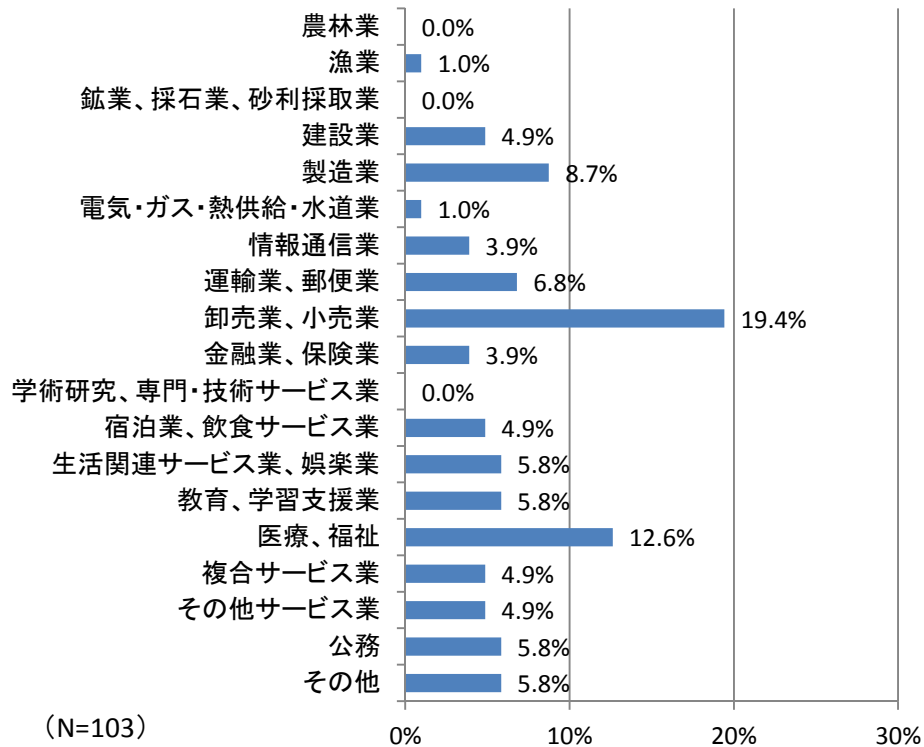
・「正社員」が最も多く64.1%を占め、次いで「パート・アルバイト」が21.4%、「派遣社員」が8.7%となっている。



(N=103)

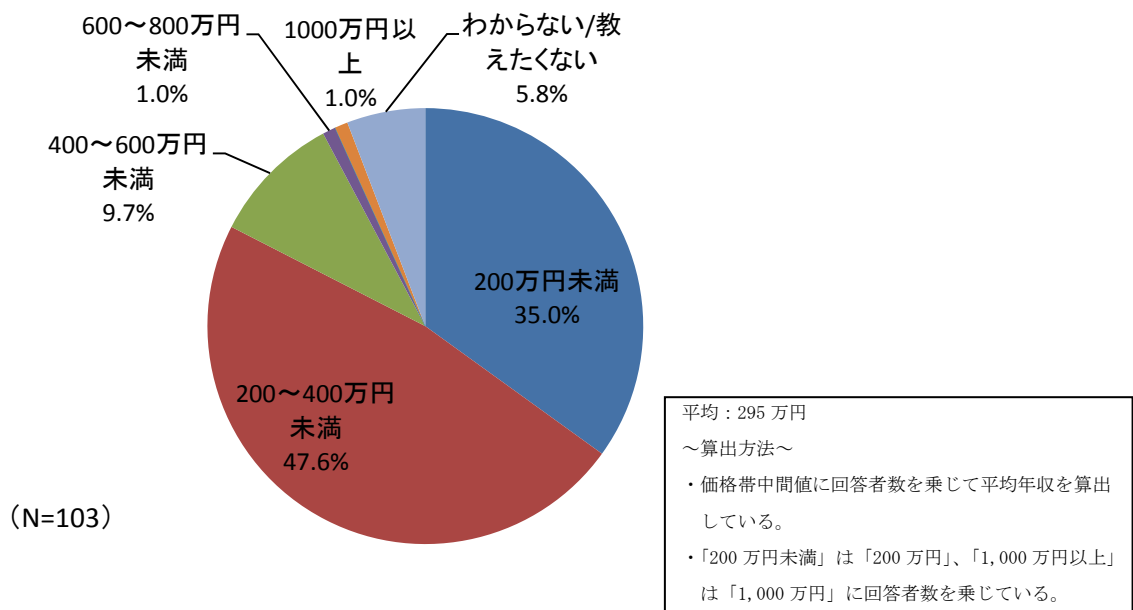
問 12 あなたは、現在どのような業種に就いていますか。(1つ選択)

・「卸売業、小売業」が最も多く 19.4%を占め、次いで「医療、福祉」が 12.6%、「製造業」が 8.7%となっている。

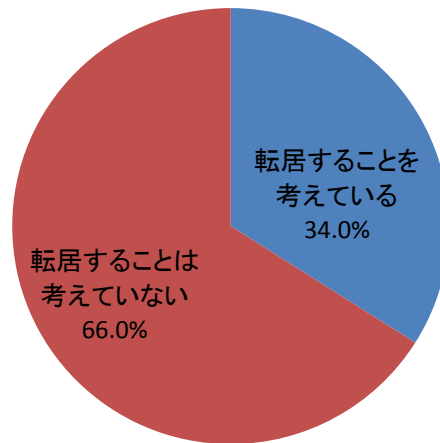


問 13 現在のあなたの年収(税込み)を教えてください。(1つ選択)

・「200～400万円未満」が最も多く 47.6%を占め、次いで「200万円未満」が 35.0%、「400～600万円未満」が 9.7%となっており、回答結果から平均年収は 295 万円と算出される。

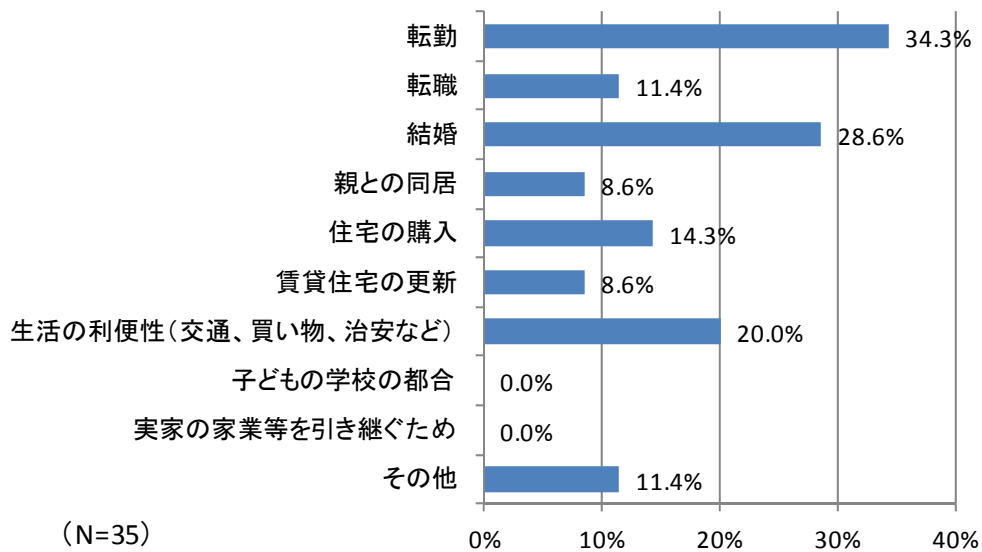


問 14	現在、あなたは将来的に金沢市から別の都市へ転居することを考えていますか。 ※現在金沢市に住んでいない方も住んでいた時の気持ちでお答え下さい。(1つ選択)
<p>・「転居することは考えていない」が 66.0%、「転居することを考えている」が 34.0%となっている。</p>	



(N=103)

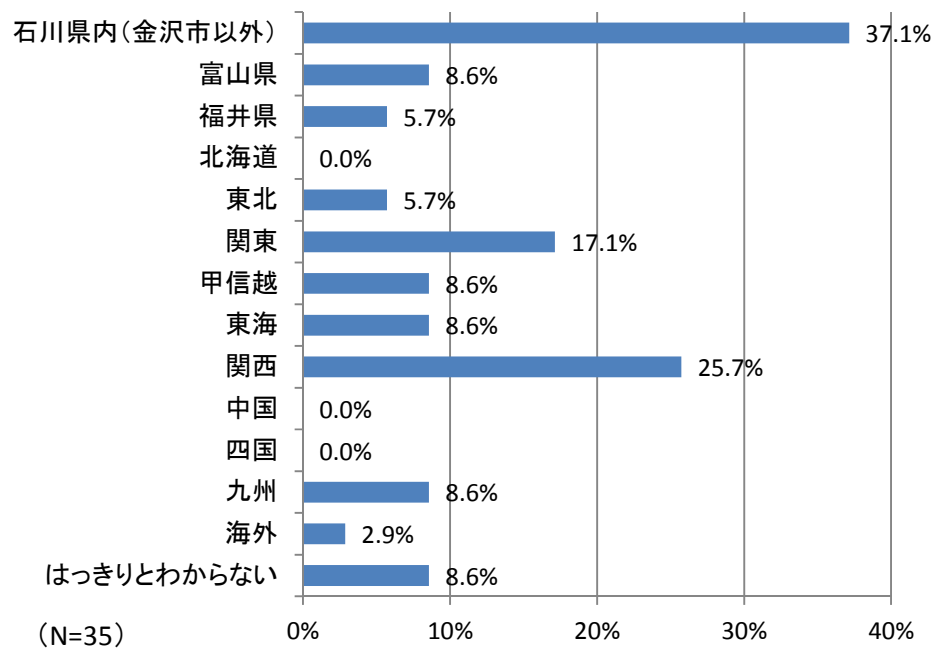
問 15	Q14 で「1.転居することを考えている」を選択した方にお聞きします。(問 17 まで) 将来的に金沢市から別の都市へ転居する理由(想定)を教えてください。(3つまで選択)
<p>・「転勤」が最も多く 34.3%を占め、次いで「結婚」が 28.6%、「生活の利便性(交通、買い物、治安など)」が 20.0%となっている。</p>	



(N=35)

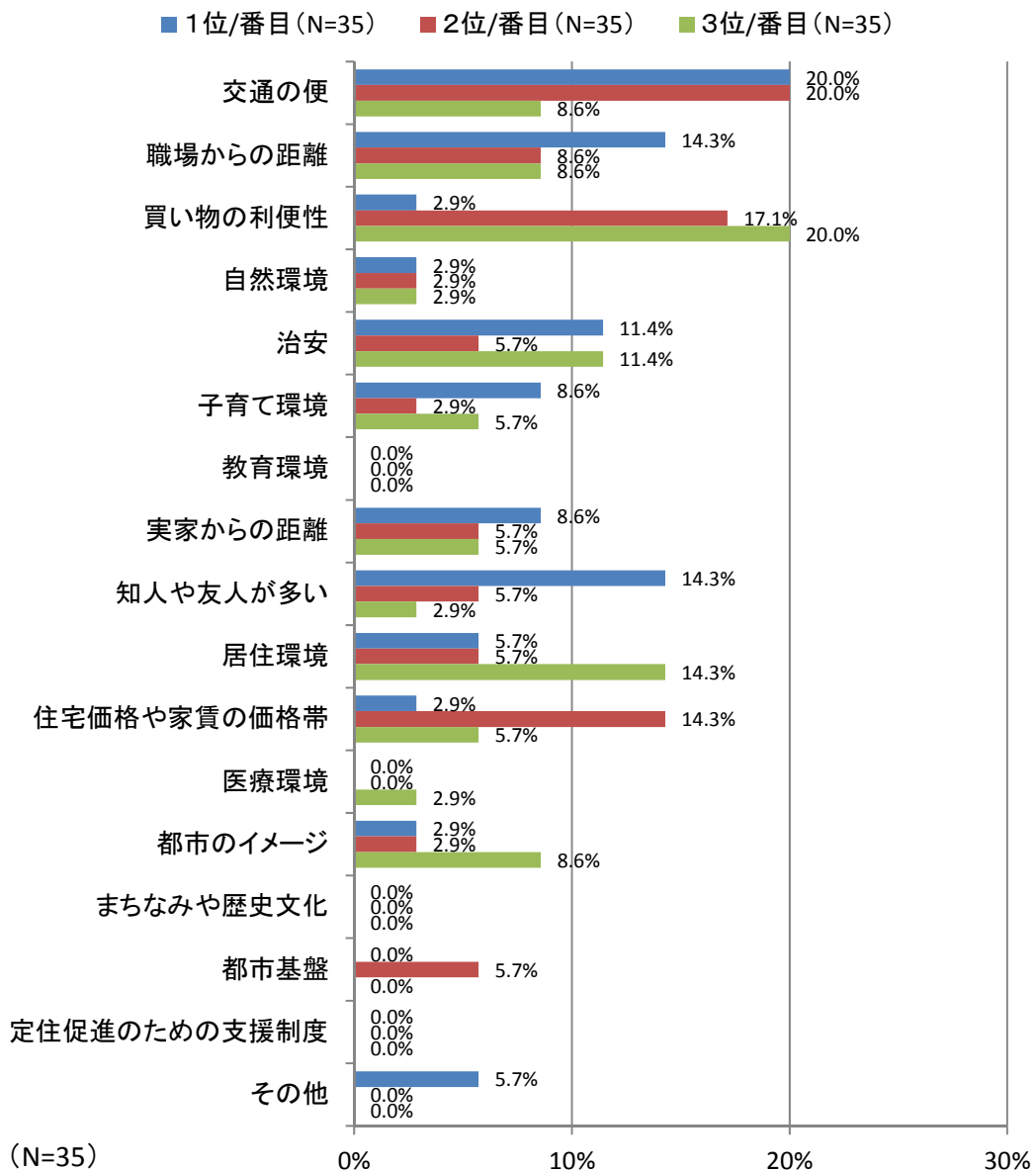
問 16	転居先の候補に挙がると想定される地域を教えてください。(3つまで選択)
------	-------------------------------------

・「石川県内（金沢市以外）」が最も多く 37.1%を占め、次いで「関西」が 25.7%、「関東」が 17.1%となっている。



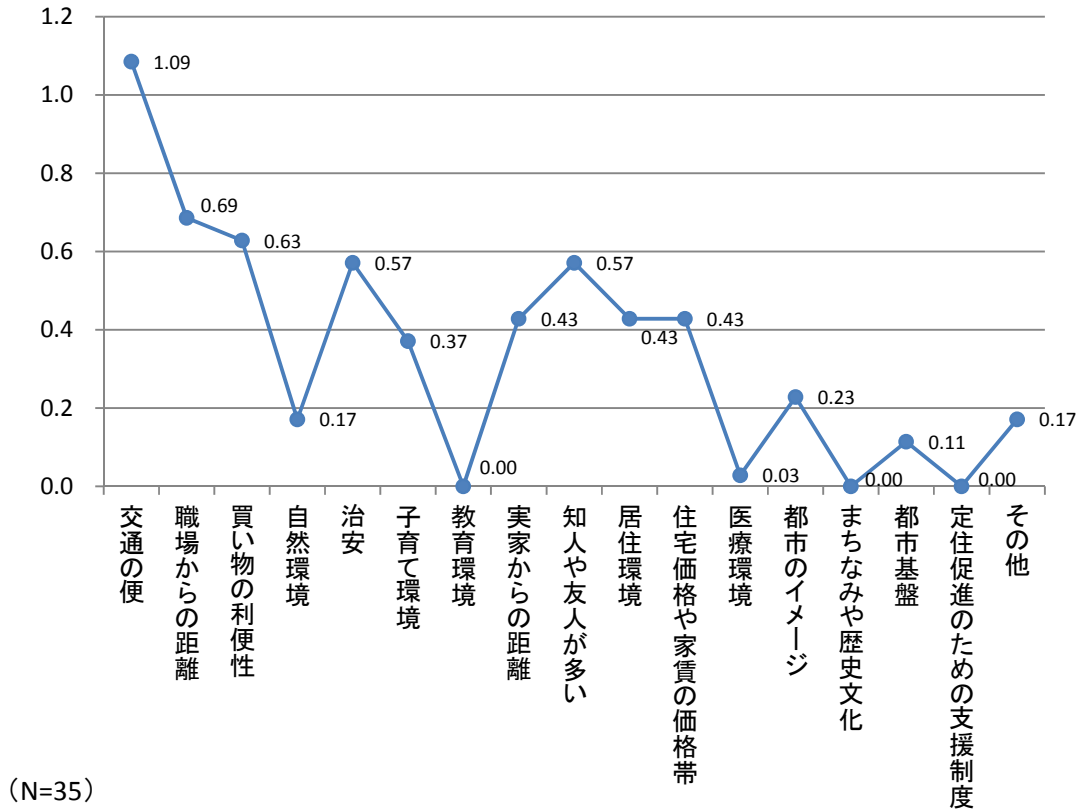
問 17 転居先を決める際に重視する事項を優先順位の高い順に3つまで教えてください。

- ・最も重視する理由（1位）として、「交通の便（20.0%）」が最も多く、次いで「職場からの距離（14.3%）」「知人や友人が多い（14.3%）」となっている。
- ・2番目に重視する理由（2位）としては、「交通の便（20.0%）」「買い物の利便性（17.1%）」が多く、3番目に重視する理由（3位）としては、「買い物の利便性（20.0%）」「居住環境（14.3%）」が多くなっている。



【転居先を決める際に重視する事項（加重平均）】

・「交通の便」が最も重視されており、次いで「職場からの距離」「買い物の利便性」となっている。

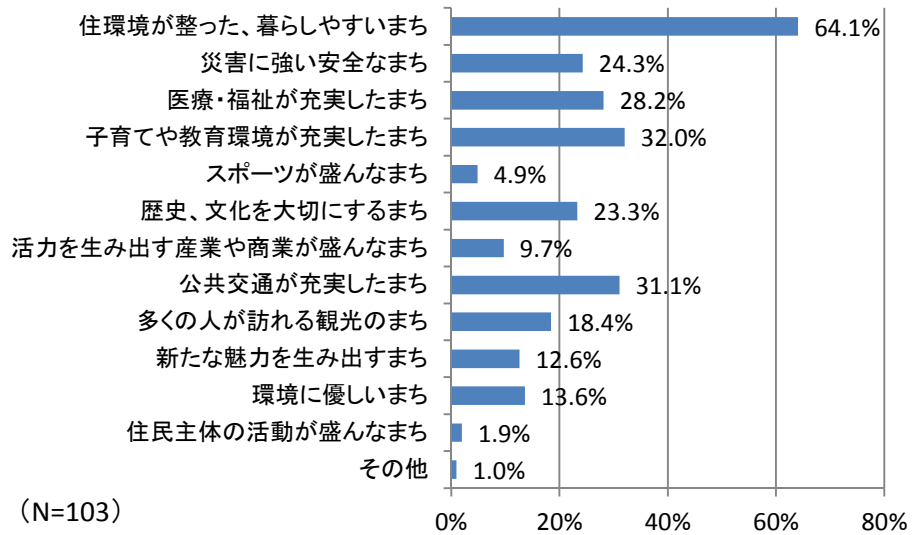


～算出方法～

・1位は3点、2位は2点、3位は1点として加重平均値を算出している。

問 18 今後、金沢市はどのようなまちであってほしいと考えますか。(3つまで選択)

・「住環境が整った、暮らしやすいまち」が最も多く 64.1%を占め、次いで「子育てや教育環境が充実したまち」が 32.0%、「公共交通が充実したまち」が 31.1%となっている。



若年層の定住促進による地方創生に関する調査研究
－平成 28 年3月発行－

石川県 金沢市
〒920-8577
石川県金沢市広坂 1-1-1
電話 076-220-2031 (企画調整課)

一般財団法人 地方自治研究機構
〒104-0061
東京都中央区銀座7-14-16 太陽銀座ビル2階
電話 03-5148-0661 (代表)

